



学習帳

「しっかりと記録された知識は必要なときに活用できます。霊的に重要な情報は、それを大切に蓄えていることを主に示せるよう、神聖な場所に記録しておく必要があります。そうすれば、さらに光を受けられるようになるでしょう。」

リチャード・G・スコット（「霊的な知識を得る」『聖徒の道』1994年1月号、97参照）

生けるキリスト

使徒たちの証

末日聖徒イエス・キリスト教会

2000年前のイエス・キリストの降誕を祝うに当たり、わたしたちはイエス・キリストのたくいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いの犠牲が無限の力を有することを証します。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受けるすべての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてきた人物は存在しません。

イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり、新約のメシヤでした。御父の指示の下に、イエス・キリストは地球を創造されました。「すべてのものは、これによってできたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」のです(ヨハネ1:3)。イエス・キリストは罪がなかったにもかかわらず、すべての義を成就するためにバプテスマをお受けになりました。イエス・キリストは「よい働きをしながら……巡回」されましたが(使徒10:38)、そのためにさげすまれました。イエス・キリストの福音は平和と善意のメッセージでした。イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められました。イエス・キリストは病人を癒し、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。また、永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、および神の息子や娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました。

イエス・キリストは、御自分の偉大な贖いの犠牲を思い起こすためのものとして、聖餐をお定めになりました。イエス・キリストは捕らえられ、偽りの訴えによってとがめられ、暴徒の意に応じて有罪とされ、カルバリの十字架での死刑を宣告されました。そして、全人類の罪を贖うために命をささげられました。イエス・キリスト御自身が、地上に生を受けるすべての人々のための偉大な身代わりの贈り物となられたのです。

わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。

イエス・キリストは「眠っている者の初穂として」墓からよみがえられました(1コリント15:20)。そして復活された主として、地上での生涯において愛した人々のもとをお訪ねになりました。また、古代アメリカの「他の羊」の間でもお教えになりました(ヨハネ10:16)。現代においては、御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。こうして、長い間約束されてきた「時の満ちる」神権時代が到来したのです(エペソ1:10)。

生けるキリストについて、預言者ジョセフはこのように記しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」(教義と聖約110:3-4)

イエス・キリストについて、預言者ジョセフはまた次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。」

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、「彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる」と。(教義と聖約76:22-24)

わたしたちは、イエス・キリストの神権とイエス・キリストの教会が地上に回復されたこと、そしてその教会は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」ことを厳肅に宣言します(エペソ2:20)。

わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。「こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る」のです(イザヤ40:5)。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざかがみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つことになります。

わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証します。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。イエス・キリストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。

大管長会

十二使徒定員会

Thomas S. Monson
Jerry E. Lundberg

Boyd K. Packer
Dwight H. Petersen
Dieter F. Uchtdorf
Russell M. Nelson
Dallin H. Oaks

M. Russell Ballard
Joseph B. Wirthlin
Richard G. Scott
Robert D. Hales
Jeffrey R. Holland
Henry A. Eyring

2000年1月1日



マスター教義について

モルモン書の中で、預言者ヒラマンは息子たちにこのように教えています。「あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。」（ヒラマン 5：12）イエス・キリストの上に基を築くことには、キリストの教義を理解し、信じ、その教義に従って生活するようになることが含まれます。それによってわたしたちは、自身の改心と主の弟子としての決意を深め、敵の影響力から守られ、ほかの人々の生活に祝福をもたらすことができるようになります。

これを成し遂げる方法の一つは、クラスで一緒に、聖文を配列順に研究することです。イエス・キリストとその教義の上に基を築くもう一つの方法は、マスター教義に取り組むことです。

マスター教義は、以下の二つの結果に焦点を当てています：

1. 霊的な知識を得るために神の原則を学び、応用する。天の御父は、霊的な知識を得るための原則を明らかにしておられます。これらの原則には、信仰をもって行動すること、永遠の観点から概念や疑問について調べること、神から与えられた情報

源を通してさらに理解を深めようとするなどが含まれます。これらの原則をクラスの内外で応用し、天の御父とイエス・キリストを信じる信仰を強めるために、聖霊を招く方法で教義的、個人的、社会的、および歴史的な疑問への答えを探し求めるとき、わたしたちはマスター教義に精通するようになります。

2. マスター教義聖句とマスター教義聖句が教えているイエス・キリストの福音の教義に精通する。これは以下によって達成されます：
 - a. マスター教義聖句の中で教えられている教義を知る。
 - b. 関連するマスター教義聖句を使って、教義を明確に説明する。
 - c. マスター教義聖句を覚え、その場所を特定し、鍵となる聖句を暗記することができる。
 - d. イエス・キリストの福音の教義と霊的な知識を得るための原則を、日々の選択において、また教義的、個人的、社会的、歴史的な問題や疑問に対処するときに応用する。



靈的な知識を得る

神はあらゆる真理の源であられる

1. 神はすべてのことを御存じであり、あらゆる真理の源です。天の御父はわたしたちを愛しておられ、わたしたちが成長して御自分に似た者となるよう望んでおられるため、「研究によって、また信仰によって学問を求め〔る〕」よう促されました（教義と聖約88：118）。真理を求めるに当たり、わたしたちは主を完全に信頼することができます。主の知恵と愛、そしてわたしたちを教え祝福する主の力に頼るのです。わたしたちが熱心に神を求めるならば、神は聖霊を通して、わたしたちの思いと心に真理を明らかにすると約束しておられます。
2. 天の御父はわたしたちを助けるために、靈的な知識を得る方法を教えてくださいました。また、そのような知識を得るために、わたしたちが従わなければならない条件を定めておられます。神が定められた規範によると、わたしたちは真理を知りたいと心から望み、神が明らかにされた真理に従う生活を進んでする必要があります。心から望むなら、わたしたちは折りと熱心に神の言葉を研究することを通して、真理を探し求めるよう導かれるでしょう。

3. 時折、新しい情報を発見したり、理解するのが難しいと思われる教義や行い、教会の歴史について疑問に思ったりすることがあるかもしれません。

質問し、答えを探し求めることは、真理を学ぶ取り組みにおいてきわめて重要な過程です。わたしたちの心に思い浮かぶ疑問の中には、聖霊により靈感としてもたらされたものがあるかもしれません。靈感による疑問は、神から与えられた賜物と見なすべきで、わたしたちが理解を深め、主が喜んでわたしたちを教えようとしておられるという確信を強める機会を与えてくれます。疑問の源が何であれ、わたしたちには、考え、推論し、主の影響を受けてさらに思いを広げ、理解を深めるための能力が祝福として授けられています。質問して答えを探し求める際のわたしたちの姿勢や意図は、聖霊を通して学ぶ能力に大きな影響を及ぼします。

4. 以下の三つの原則は、わたしたちが永遠の真理を学び、理解し、疑問や問題を解決しようとするときの指針となるでしょう：
 - 信仰をもって行動する。
 - 永遠の視点から概念や疑問について調べる。
 - 神が定められた情報源を通してさらに理解を深める。

原則1：信仰をもって行動する

5. 神を信頼することを選び、そして最初に真心から祈り、神の教えを研究し、神の戒めに従順であることを通して神に頼るときに、わたしたちは信仰をもって行動しています。
6. 理解を深め、懸念していることを解決しようと努めるときに、イエス・キリストと福音の回復、主が聖任された預言者の教えに対して自分がすでにもっている証に頼ることは重要です。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、このように教えています。「問題が発生したときに、なかなか解決しないときに、すで知っていることに固くしがみついて、新たな知識を得るまで、強くあってください。」（「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号、94）主御自身が「あらゆる思いの中で〔主を〕仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」（教義と聖約6：36）とわたしたちを招いておられます。
7. 疑問に対する答えがすぐには見つからないときには、天の御父はわたしたちの救いに必要なことをすべて明らかにされているものの、まだすべての真理を明らかにされてはいないということを感じていて助けになります。答えを見いだそうと努力し続けるときに、やがて答えを受けると信じる信仰をもって生活しなければなりません。わたしたちがすでに受けている真理と光に忠実であるならば、さらに豊かに受けるでしょう。わたしたちの疑問や祈りへの答えは、しばしば「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」与えられるからです（ニーファイ28：30）。

原則2：永遠の視点から概念や疑問について調べる

8. 教義的な概念や疑問、または社会問題について永遠の視点で調べるには、わたしたちはそれらを救いの計画や救い主の教えに照らして検討します。その際、わたしたちは主が御覧になっているように物事を見ることができるよう、聖霊の助けを求めます。そうすることで、（その疑問を別の角度から見るために）疑問を見直し、この世の前提や推論を受け入れるのではなく、主の真理の標準に基づいた考え方ができるようになるのです。次のように自問してみるとよいでしょう。「天の御父やその計画、御父がその子らに働きかけられる方法について、わたしはどのようなことをすでに知っているだろうか。」「この概念や問題に関連したり、それらを明確にしたりする福音の教えは何だろうか。」
9. 歴史的な出来事に関する疑問であっても、永遠の視点で調べる必要があります。わたしたちが天の御父と御父が定められた救いの計画に対する信頼の基の上に堅く立っているならば、さまざまな問題をよりはっきりと見ることができましょう。また、現代の視点や姿勢を押しつけるのではなく、当時の文化や基準を考慮することにより、適切な歴史的背景の中で歴史的な疑問について調べることは役に立つかもしれません。
10. 詳しく書かれた史実が、聖約や儀式、または教義のもつ救いの力をもたらすのではないことを覚えておくことは重要です。回復の奇跡が今もなお続いているということに注意を払わずに、さほど重要でない細部に気を取られることは、あたかも贈り物自体のすばらしさに目を向けず、贈り物の箱を詳しく調べることに時間を費やしているようなものです。

原則3：神が定められた情報源を通して、さらに理解を深める

11. 霊的な知識を得るために主が定められた過程の一部として、主は真理と導きを神の子らに明らかにするための情報源を確立されています。その情報源には、キリストの光、聖霊、聖文、両親、教会の指導者などが含まれます。今日の地上における主の預言者である大管長会と十二使徒定員会は、重要な真理の源です。主はこれらの人々を、主に代わって語る者として選び、聖任されました。
12. わたしたちはさらに、他の信頼できる情報源を通して真理を学ぶことができます。しかし、真心から真理を求める人々は、信頼のおけない情報源に用心しなければなりません。わたしたちは、大勢の人が「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪とい〔う〕」時代に生きているからです（イザヤ5：20）。サタンは偽りの父であり、真理をゆがめ、主と主の召された僕に背を向けるよう、わたしたちを説き伏せようとします。信頼の置けない情報源を認識し、それらを避けるようになることで、わたしたちは誤った情報や信仰を損なおうとする者たちから身を守ることができます。わたしたちが、聖霊からの助けを求め、主が定められた情報源に答えと導きを求めるならば、祝福されて真理と誤りを識別することができます。わたしたちは「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう」という主の約束を信頼することができるのです（モロナイ10：5）。

他の人々が霊的な知識を得られるように助ける

13. 教会の教義、慣習、歴史について誰かが質問したり、探し求めたりしている場合、その人が真理を探求できるように最も良く助けるにはどうしたらよいでしょうか。わたしたちは、次のような幾つかの方法で助けることができます：
14. 注意深く、祈りをもって耳を傾ける。答える前に注意深く耳を傾け、その人が尋ねている本当の疑問を明にし、理解するよう努めてください。その人の疑問の真意、またその人の気持ちや信じている事柄を理解しようとするに当たり、思慮深くあってください。疑問を持つ人を助けることのできる最善の方法は何か、導きを求めて祈りましょう。
15. 福音の真理について教え、証する。聖典や現代の預言者の教えから応用できる事柄を分かち合い、その教えによって自分の生活がどのように変わったかを話してください。相手が、福音や救いの計画に照らして自分の疑問について吟味し、見直すことができるように助けます。
16. 信仰をもって行動するよう勧める。主はわたしたちに、自分自身で霊的な知識を探求するよう願っておられることを心に留めてください。そこで、わたしたちはほかの人々に、祈ること、戒めに従順であること、また神から与えられた情報源、特にモルモン書を用いて神の言葉を熱心に研究することを通して、信仰をもって行動するよう勧める必要があります。適切であれば、彼らに聖霊を感じたときの経験を思い起こしてもらい、さらなる知識が与えられるまで、自分が学んだ永遠の真理にしっかりつかまっているよう勧めます。
17. 最後までやり通す。答えを探すことを申し出て、その後、あなたが学んだことを分かち合うことによって最後まで助けてください。一緒に答えを探すのもよいでしょう。個人に啓示が与えられるという主の約束に対する確信を伝えてください。

コース別マスター教義聖句および鍵となる聖句

旧約聖書

モーセ1：39：「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」

モーセ7：18：「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心をつにし、思いをつにし〔た〕からである。」

アブラハム2：9-11：主はアブラハムに、アブラハムの子孫が「すべての国民にこの務めと神権を携えて行く」ことを約束された。

アブラハム3：22-23：わたしたちは霊として「世界が存在する前に組織された」

創世1：26-27：「神は自分のかたちに人を創造された。」

創世2：24：「人は……妻と結び合い、一体となるのである。」

創世39：9：「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。」

出エジプト20：3-17：十戒

ヨシュア24：15。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。」

詩篇24：3-4：「その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者……こそ、その人である。」

箴言3：5-6：「心をつくして主に信頼せよ、……そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

イザヤ1：18：「たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」

イザヤ5：20：「わざわいなかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪とい〔う。〕」

イザヤ29：13-14：福音の回復は、「不思議な驚くべきわざ」である。

イザヤ53：3-5：「まことに〔イエス・キリスト〕はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。」

イザヤ58：6-7：正しい断食による祝福

イザヤ58：13-14：「わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び〔なさい。〕」

エレミヤ1：4-5：「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、……あなたを立てて万国の預言者とした。」

エゼキエル3：16-17：預言者は「イスラエルの家のために見守る者」である。

エゼキエル37：15-17：聖書とモルモン書は、「あなたの手で一つになる。」

ダニエル2：44-45：神は「一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがない〔い〕……でしょう。」

アモス 3：7：「主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さ〔れる〕。」

マラキ3：8-10：什分の一を納めることによる祝福

マラキ 4：5-6：エリヤは「子供たちの心をその父に向けさせる。」

新約聖書

マタイ5：14-16：「あなたがたの光を人々の前に輝かし……なさい。」

マタイ11：28-30：「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

マタイ16：15-19： イエスは言われた。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。」

マタイ22：36-39： 「主なるあなたの神を愛せよ。……あなたの隣り人を愛せよ。」

ルカ2：10-12： 「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

ルカ22：19-20： イエス・キリストは、「わたしを記念するため」に聖餐を取るよう命じられた。

ルカ24：36-39： 「霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」

ヨハネ3：5： 「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」

ヨハネ3：16： 「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」

ヨハネ7：17： 「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、……この教が……わかるであろう。」

ヨハネ17：3： 「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、……イエス・キリストとを知ることであります。」

1コリント6：19-20： 「自分のからだは、……聖霊の宮であ[る]。」

1コリント11：11： 「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」

1コリント15：20-22： 「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」

1コリント15：40-42： 復活には、3つの栄光の階級がある。

エペソ1：10： 「時の満ちる〔神権時代において〕……、神は……ことごとくキリストにあって一つに帰せしめようとされ[る]。』

エペソ2：19-20： 教会は「使徒たちや預言者たち」という土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」

2テサロニケ2：1-3： 「主の日〔が来る前に〕……まず背教のことが起[こる]……にちがいない。」

2テモテ3：15-17： 「聖書〔は〕……救に至る知恵を、あなたに与えうる書物である……。」

ヘブル12：9： 天の御父は「たましいの父」である。

ヤコブの手紙1：5-6： 「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……神に、願い求めるがよい。」

ヤコブの手紙2：17-18： 「信仰も、……行いを伴わなければ、……死んだものである。」

1ペテロ4：6： 「死人にさえ福音が宣べ伝えられた。」

黙示20：12： 「死人はそのしわざに応じ、……さばかれた。」

モルモン書

1ニーファイ3：7： 「わたしは行って、主が命じられたことを行います。」

2ニーファイ2：25： 「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」

2ニーファイ2：27： 「人は……自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは……束縛と死を選ぶことも自由である。」

2ニーファイ26：33： 「すべての人が神にとって等しい存在なのである。」

2ニーファイ28：30： 神は「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与え[られる]。』

2ニーファイ32：3： 「キリストの言葉をよく味わうように〔しなさい〕。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」

2ニーファイ32：8-9： 「あなたがたは……常に折らなければならぬ。」

モーサヤ2：17： 「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである。」

モーサヤ2：41：「神の戒めを守る者〔は〕、すべてのことについて祝福を受ける。」

モーサヤ3：19：「主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり〔なさい〕。」

モーサヤ4：9：「神を信じなさい。……神はすべての知恵を備え……ておられることを信じなさい。」

モーサヤ18：8-10：「聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受け」なさい。

アルマ7：11-13：「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。」

アルマ34：9-10：「贖罪が行われなければならず、……無限にして永遠の犠牲でなければならない。」

アルマ39：9：「これからはもう自分の目の欲を追うこと〔のない〕ようにしてほしい。」

アルマ41：10：「悪事は決して幸福を生じたことがない。」

ヒラマン5：12：「あなたたちは……贖い主の岩の上に基を築かなければならない……。」

3ニーファイ11：10-11：「わたしは……初めから、すべてのことについて父の御心に従ってきた。」

3ニーファイ 12:48：「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、……完全になりなさい。』」

3ニーファイ27：20：「わたしのもとに来て、……バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ……るであろう。」

エテル12：6：「信仰が試されてからでなければ、証は得られない……。」

エテル12：27：「もし人がわたしのもとに来るならば、……そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」

モロナイ7：45-48：「慈愛はキリストの純粋な愛であ〔る〕。」

モロナイ10：4-5：「キリストを信じながら、誠心誠意問うならば……聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るのである。」

教義と聖約および教会歴史

ジョセフ・スミス—歴史1：15-20：ジョセフ・スミスは「筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方……を見た。」

教義と聖約1：30：「唯一まことの生ける教会」

教義と聖約1：37-38：「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」

教義と聖約6：36：「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」

教義と聖約8：2-3：「聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」

教義と聖約13：1：アロン神権は「天使の働き
の鍵と、悔い改めの福音の鍵と、……バプテスマの鍵を持つ。」

教義と聖約18：10-11：「人の価値〔は〕神の目に大いなるものである……。」

教義と聖約18：15-16：「もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」

教義と聖約19：16-19：「わたし〔イエス・キリスト〕は、すべての人に代わってこれらの苦しみを負〔った〕。」

教義と聖約21：4-6：「あなたがたは……あたかもわたし自身の口から出ているかのように」、預言者の「言葉を受け入れなければならない。」

教義と聖約29：10-11：「わたしは力と大いなる栄光をもって、……天から姿を現し、千年の間地上で人々とともに義のうちに住む。」

教義と聖約49：15-17：「結婚は……神によって定められている……。」

教義と聖約58：42-43：「自分の罪を悔い改めた者は赦され〔る〕。」

教義と聖約64：9-11：「あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」

教義と聖約76：22-24：「〔イエス・キリスト〕によって……もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。」

教義と聖約82：10：「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う」

教義と聖約84：20-22：「この神権の儀式によって神性の力が現れる。」

教義と聖約88：118：「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」

教義と聖約89：18-21：知恵の言葉の祝福

教義と聖約107：8：「メルキゼデク神権は……霊的な事柄をつかさどる力と権能を持つ。」

教義と聖約121：36, 41-42：「神権の権利は……義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない……。」

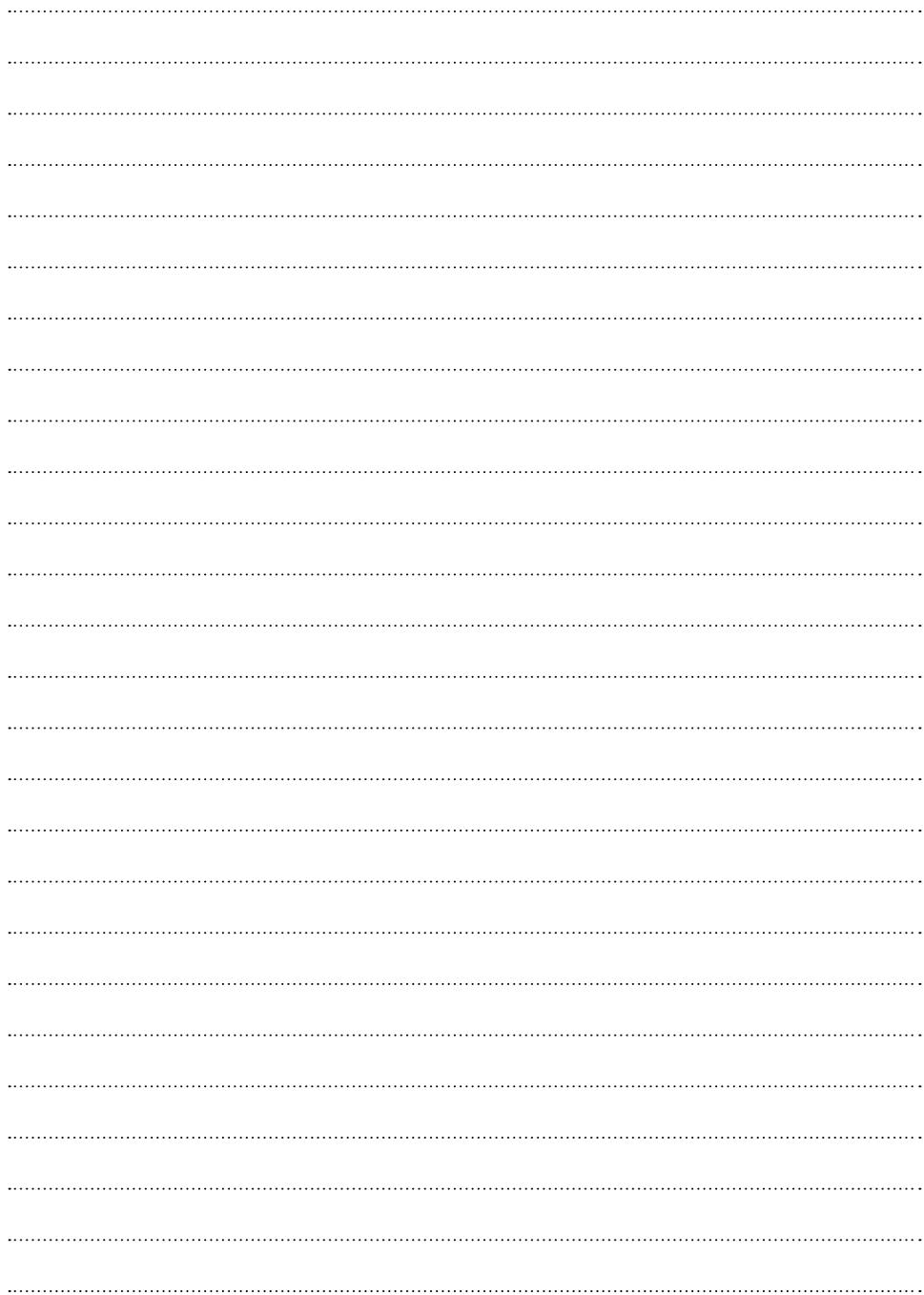
教義と聖約130：22-23：「御父は……骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。しかし、聖霊は……霊の御方であられる。」

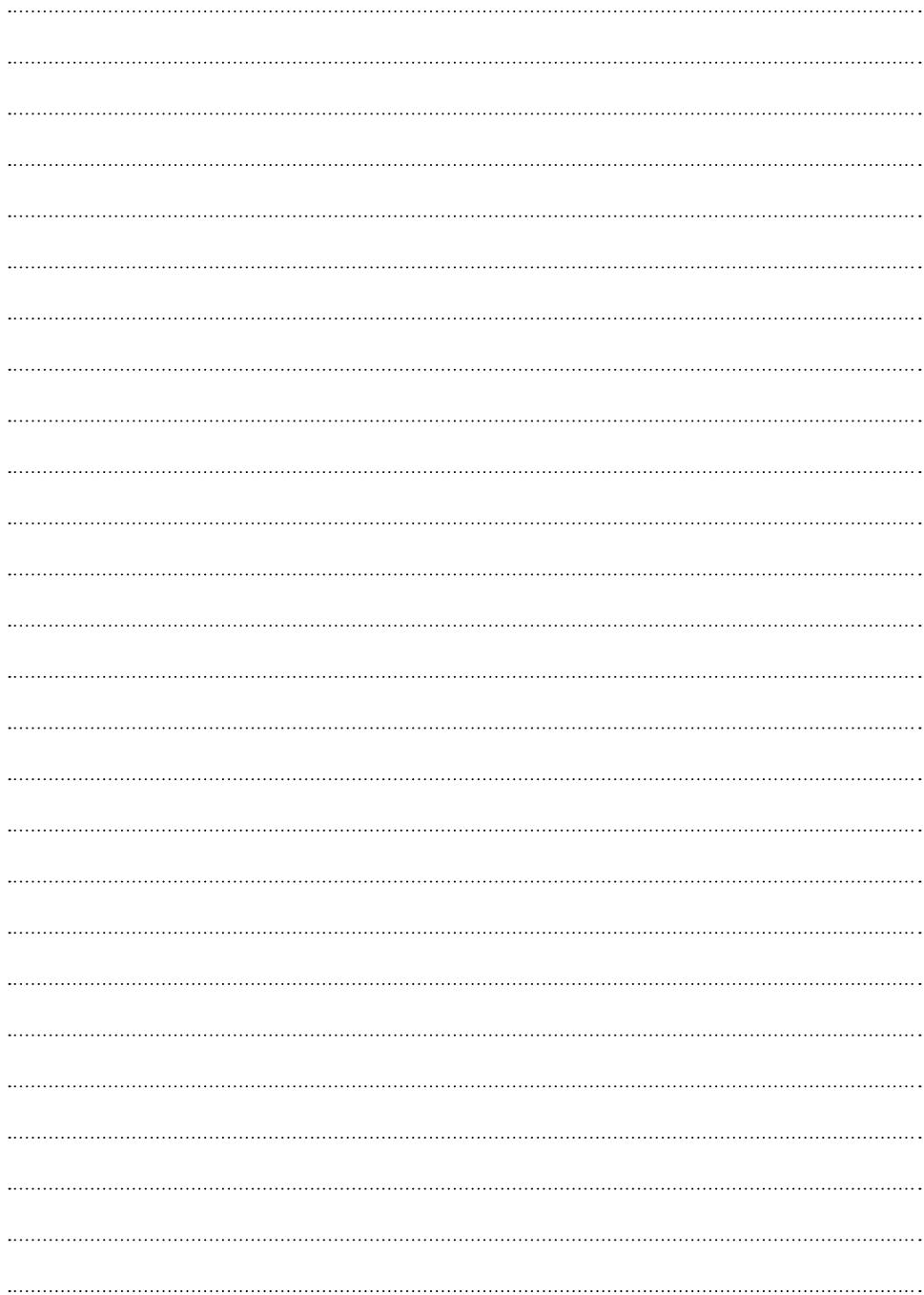
教義と聖約131：1-4：「結婚の新しくかつ永遠の聖約……。」

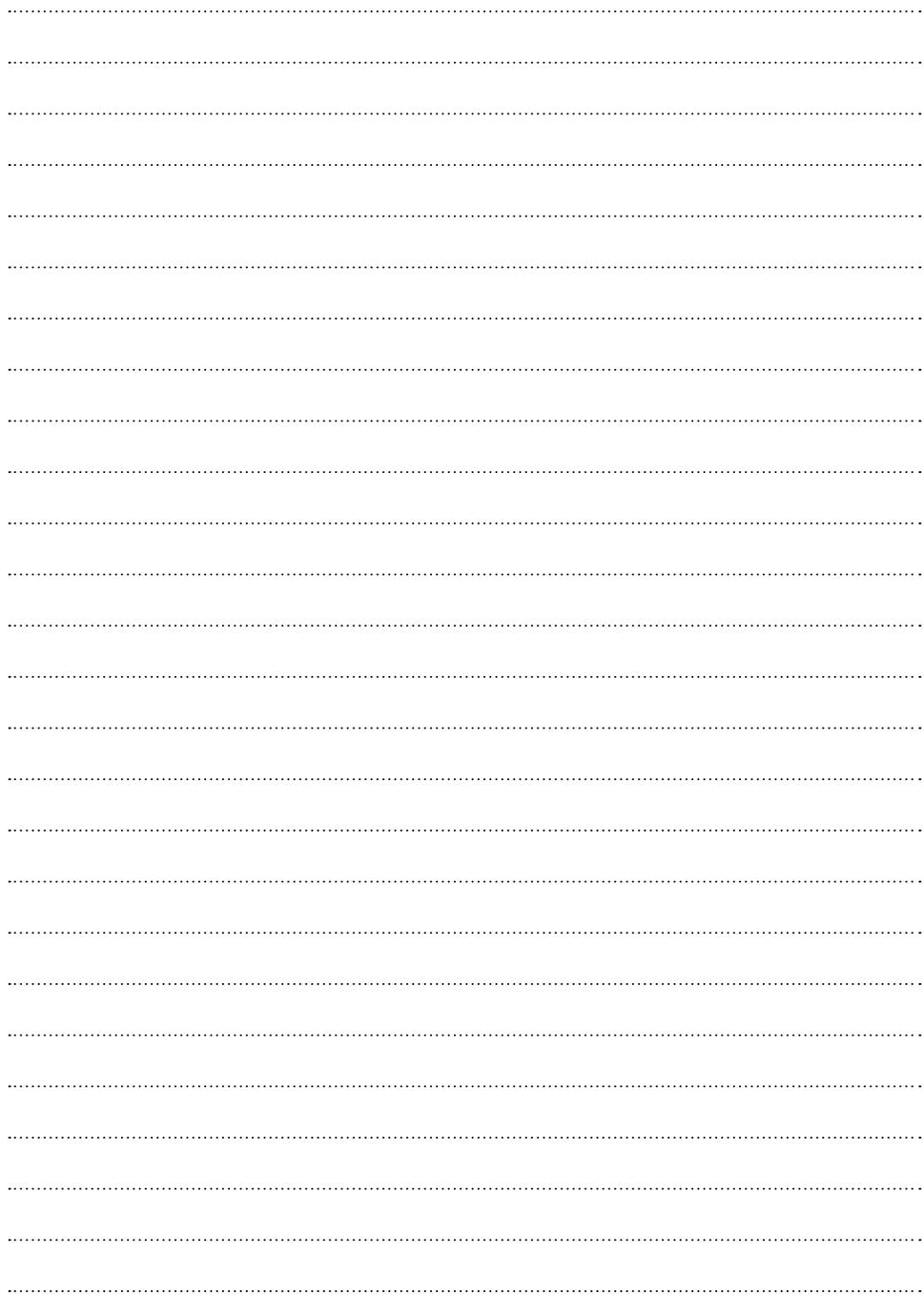
教義と聖約135：3：ジョセフ・スミスは「神の賜物と力によって翻訳して、……『モルモン書』を出し〔た〕。」

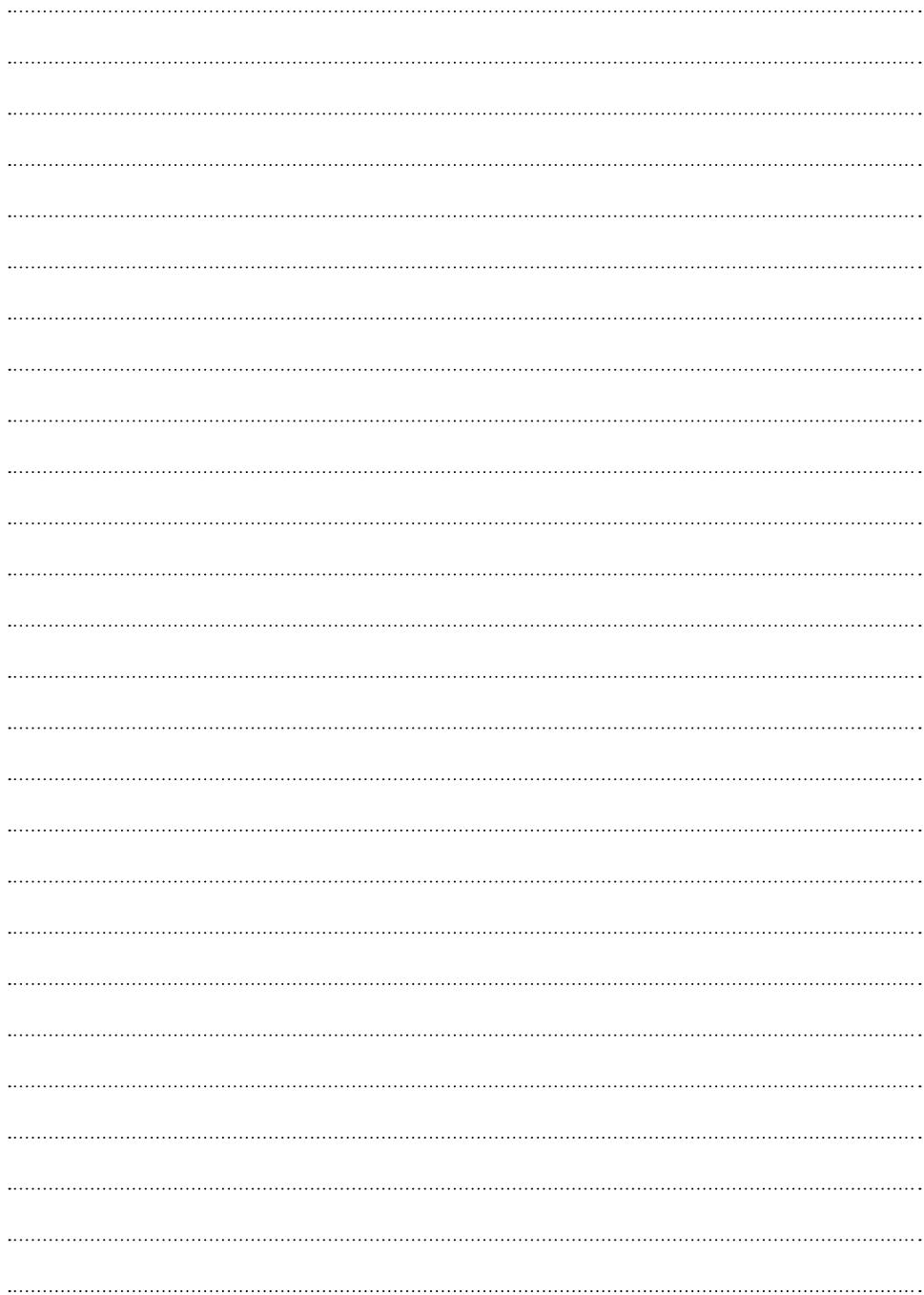
聖文読書日割り進度表

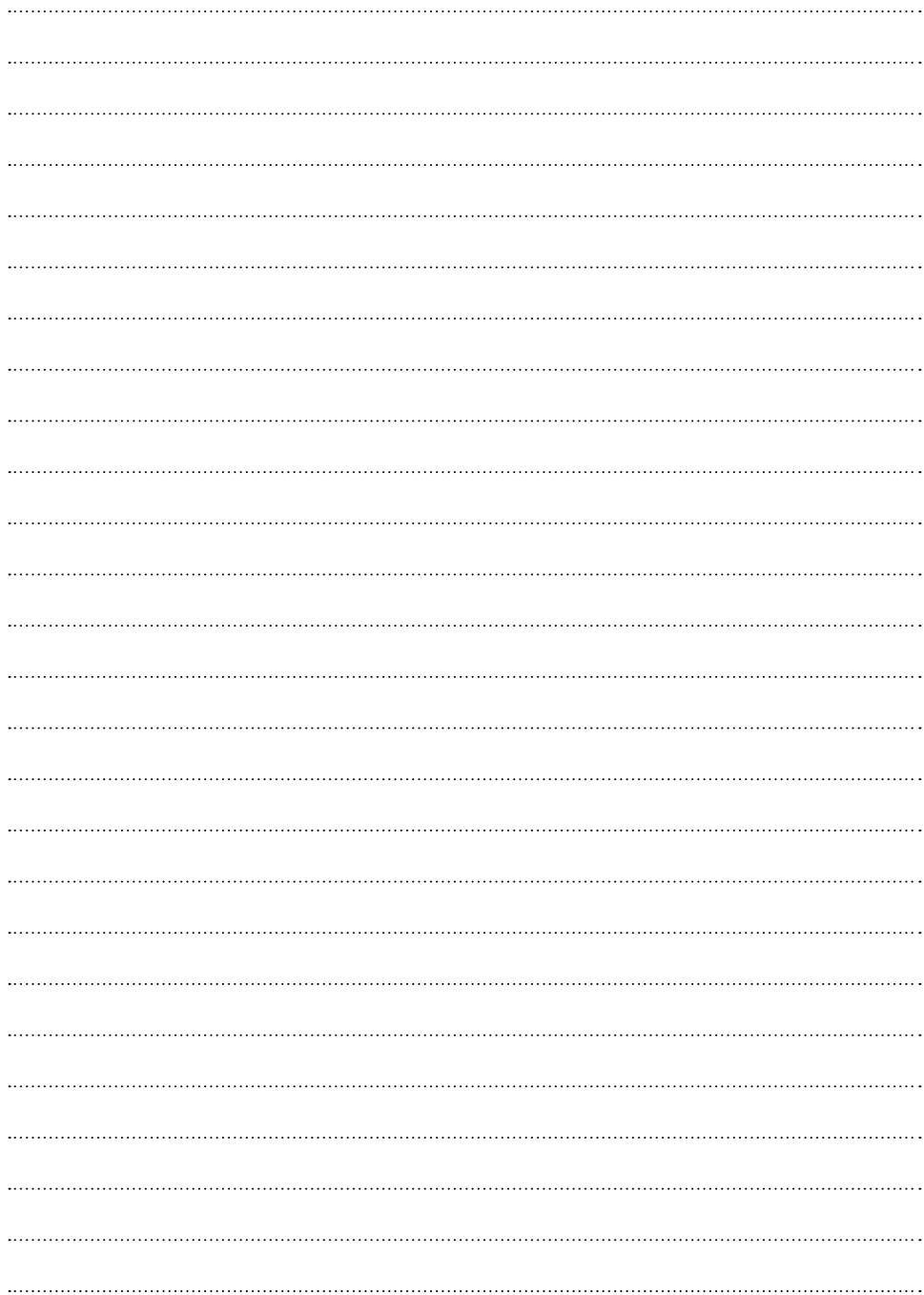
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	(29)	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31		31		31		31	31		31		31

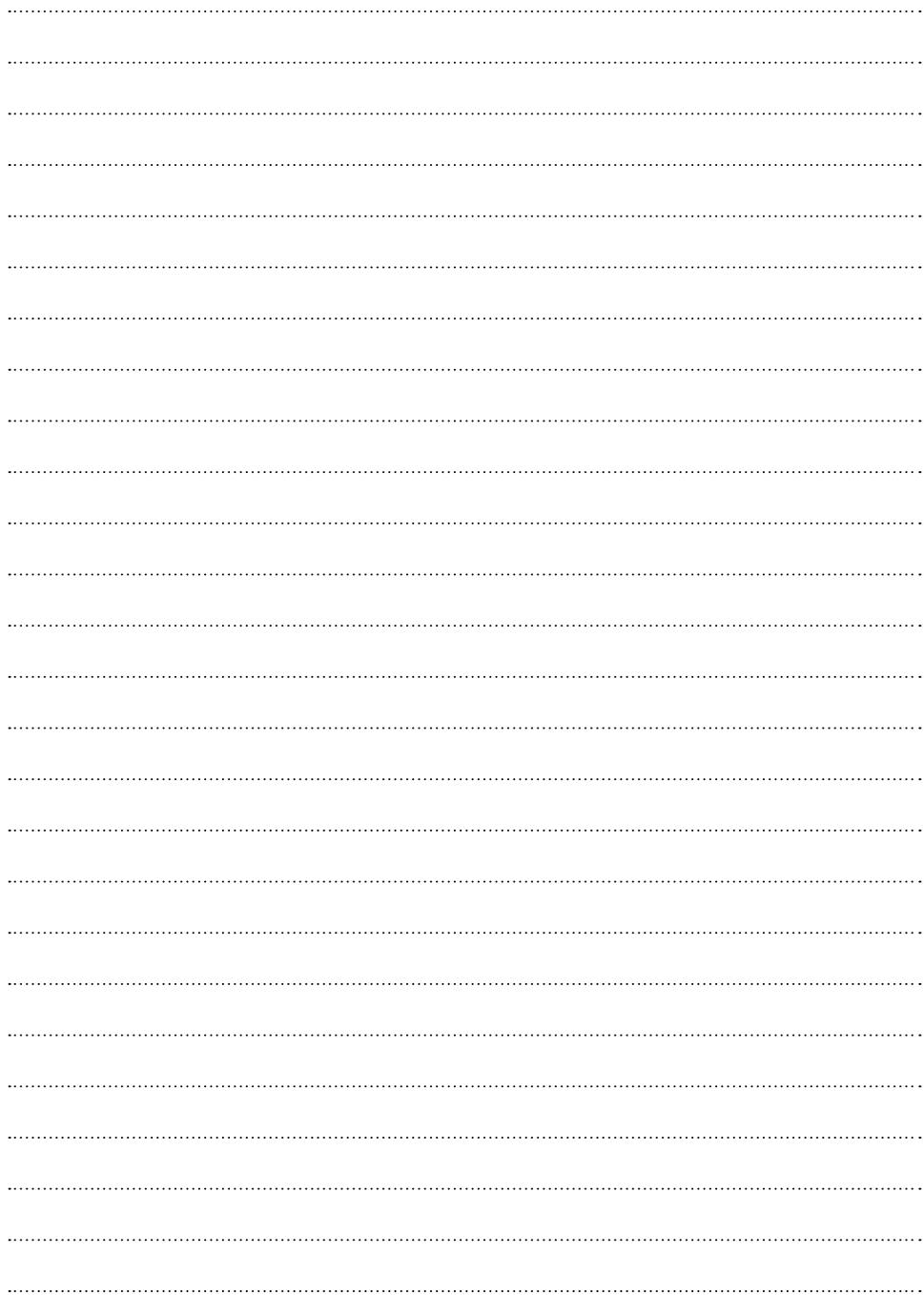


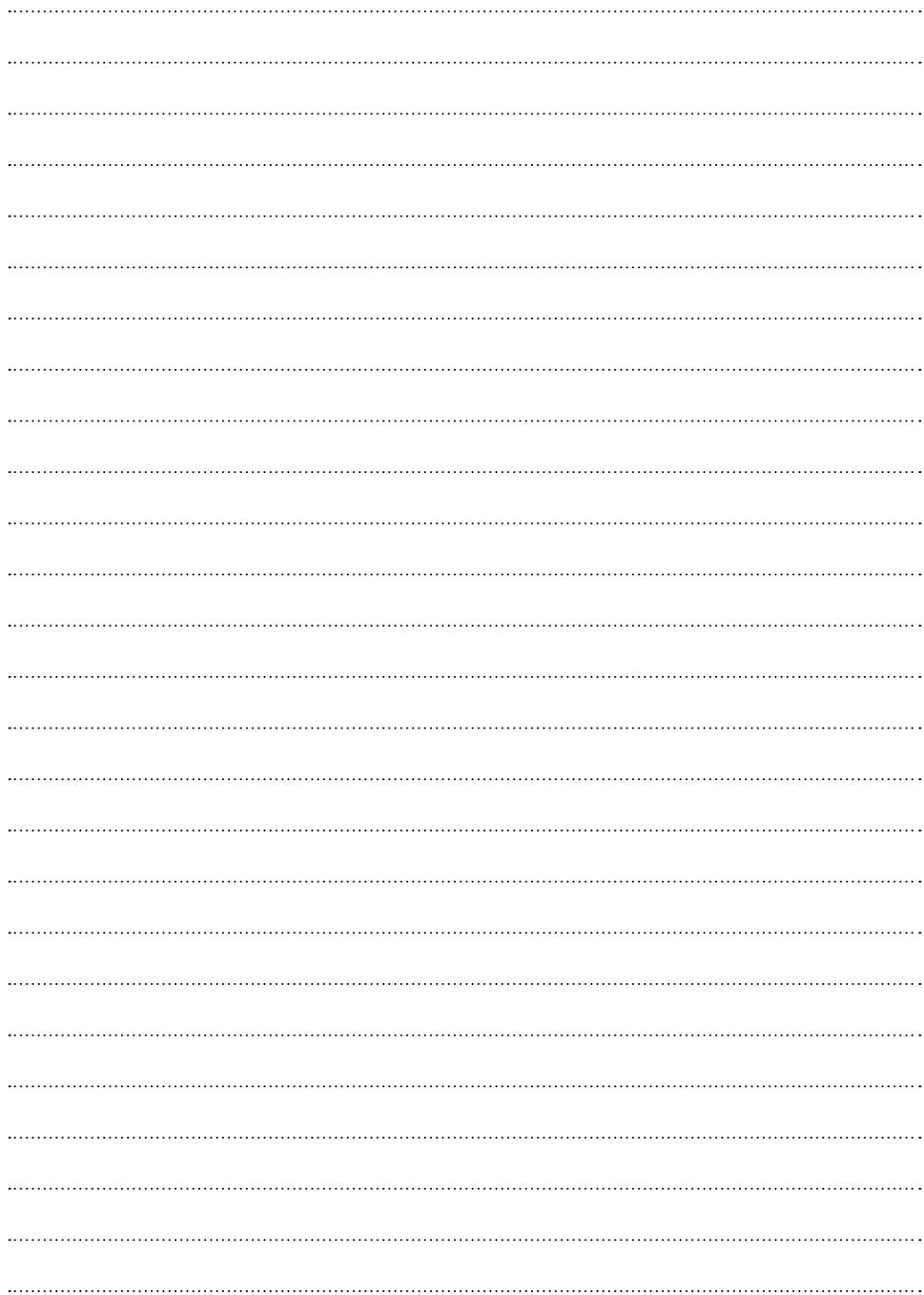


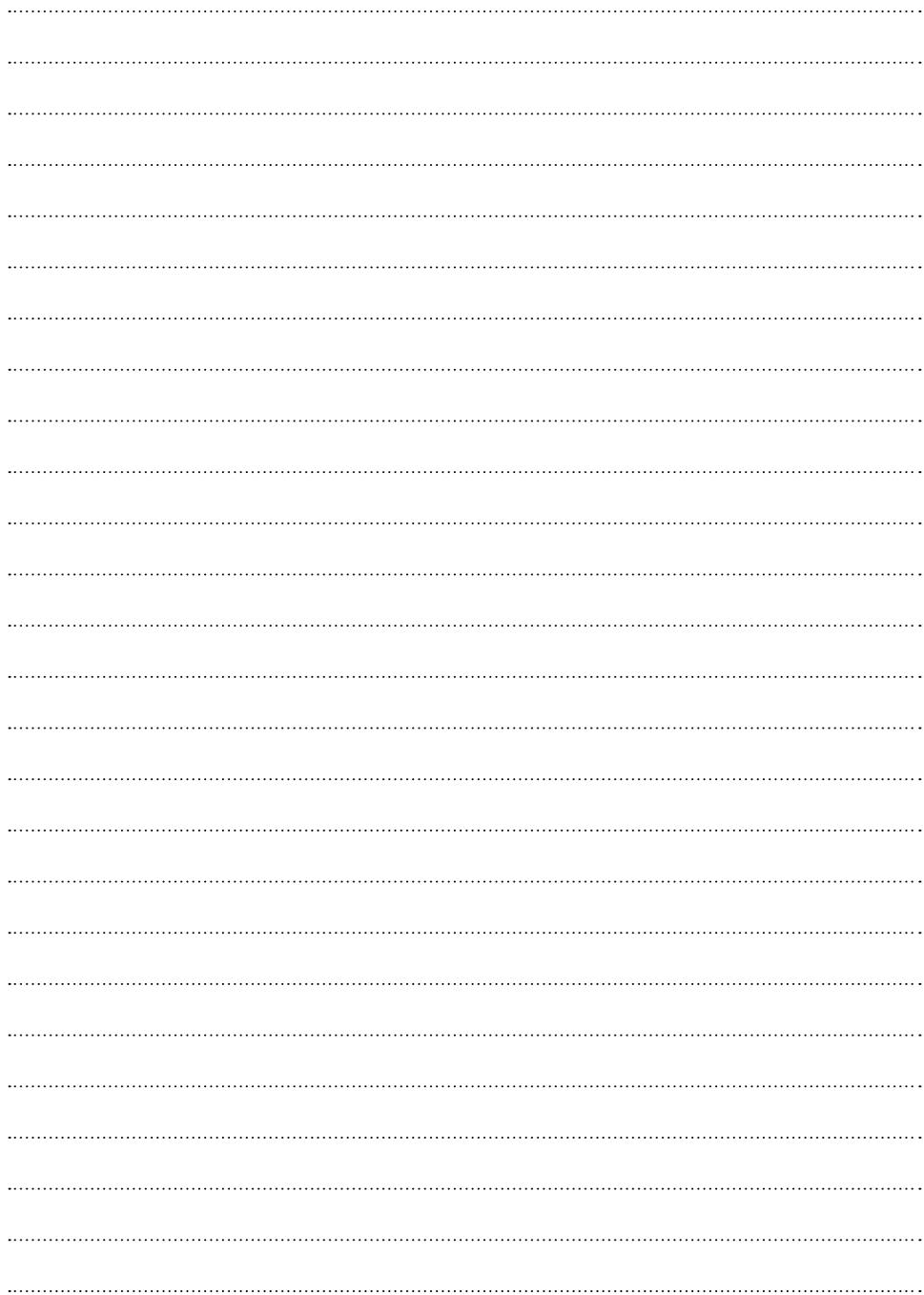


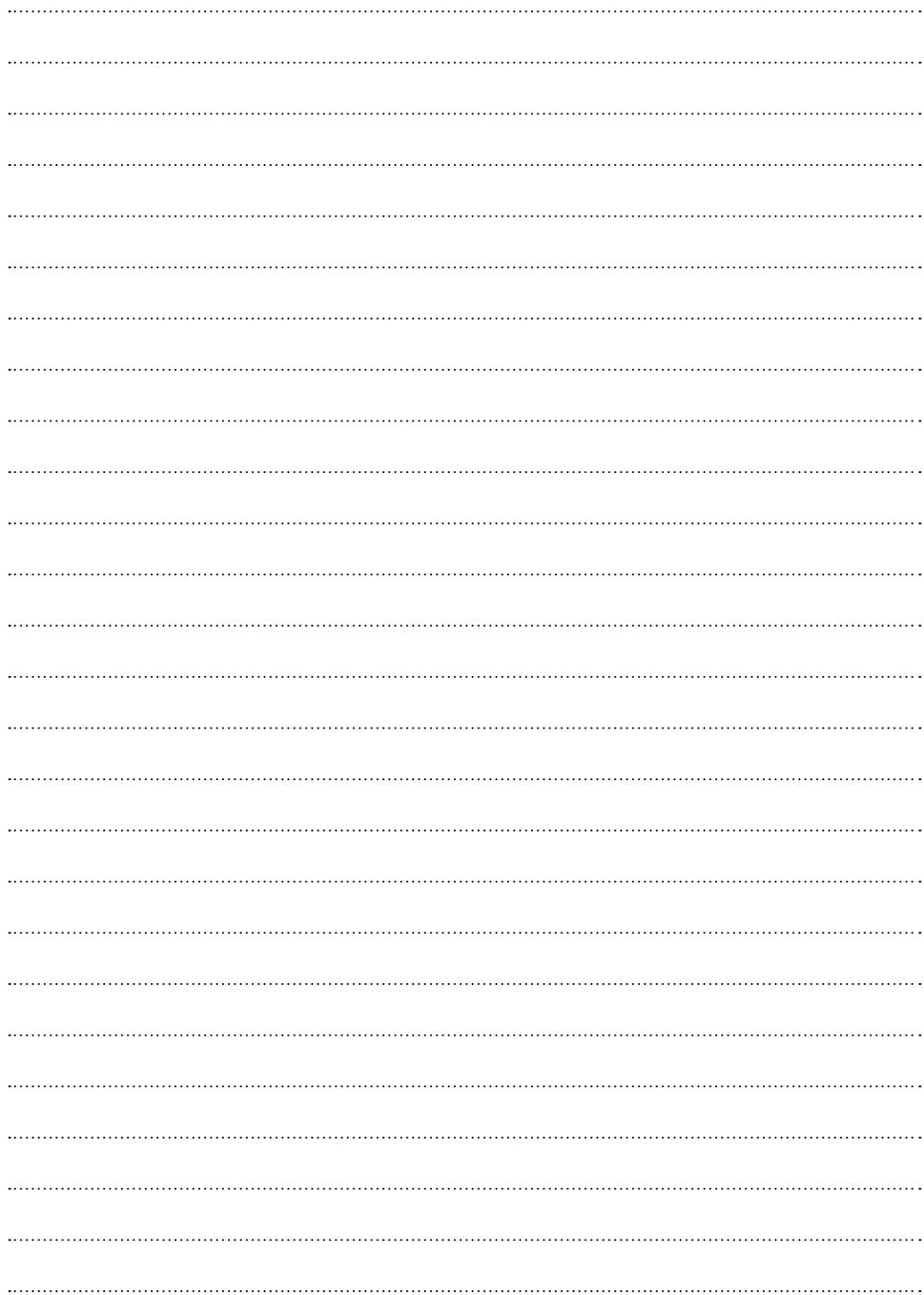


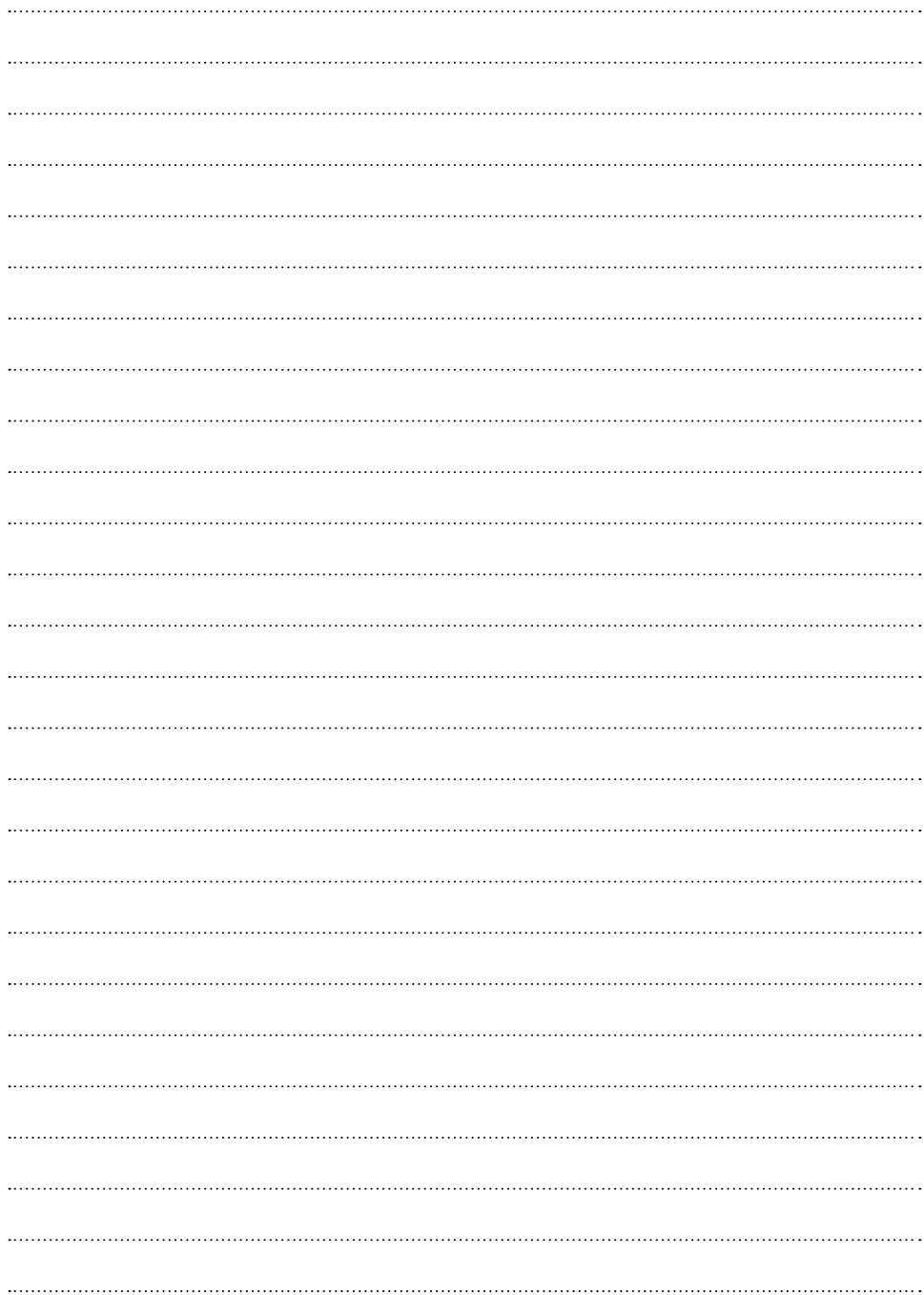


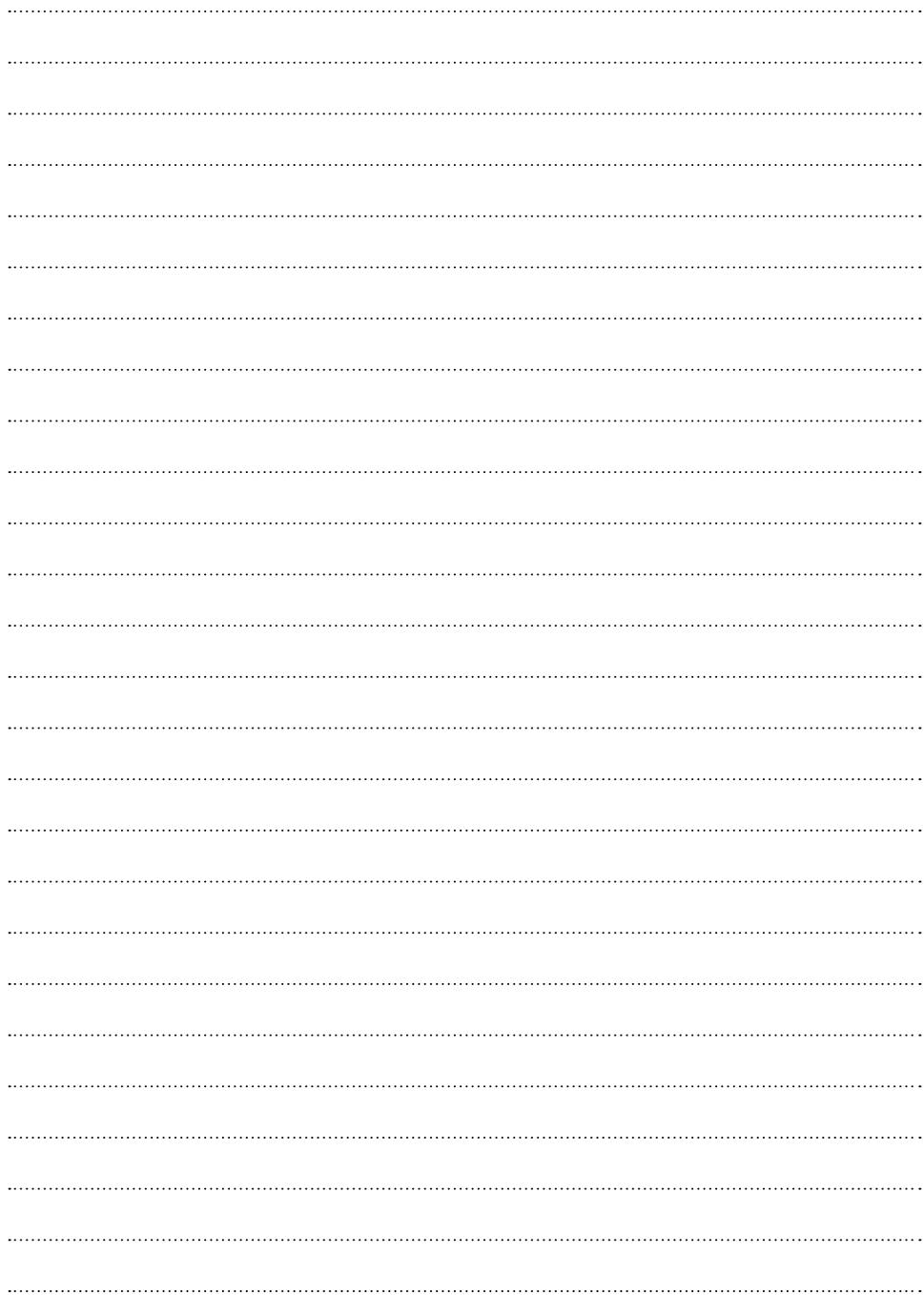


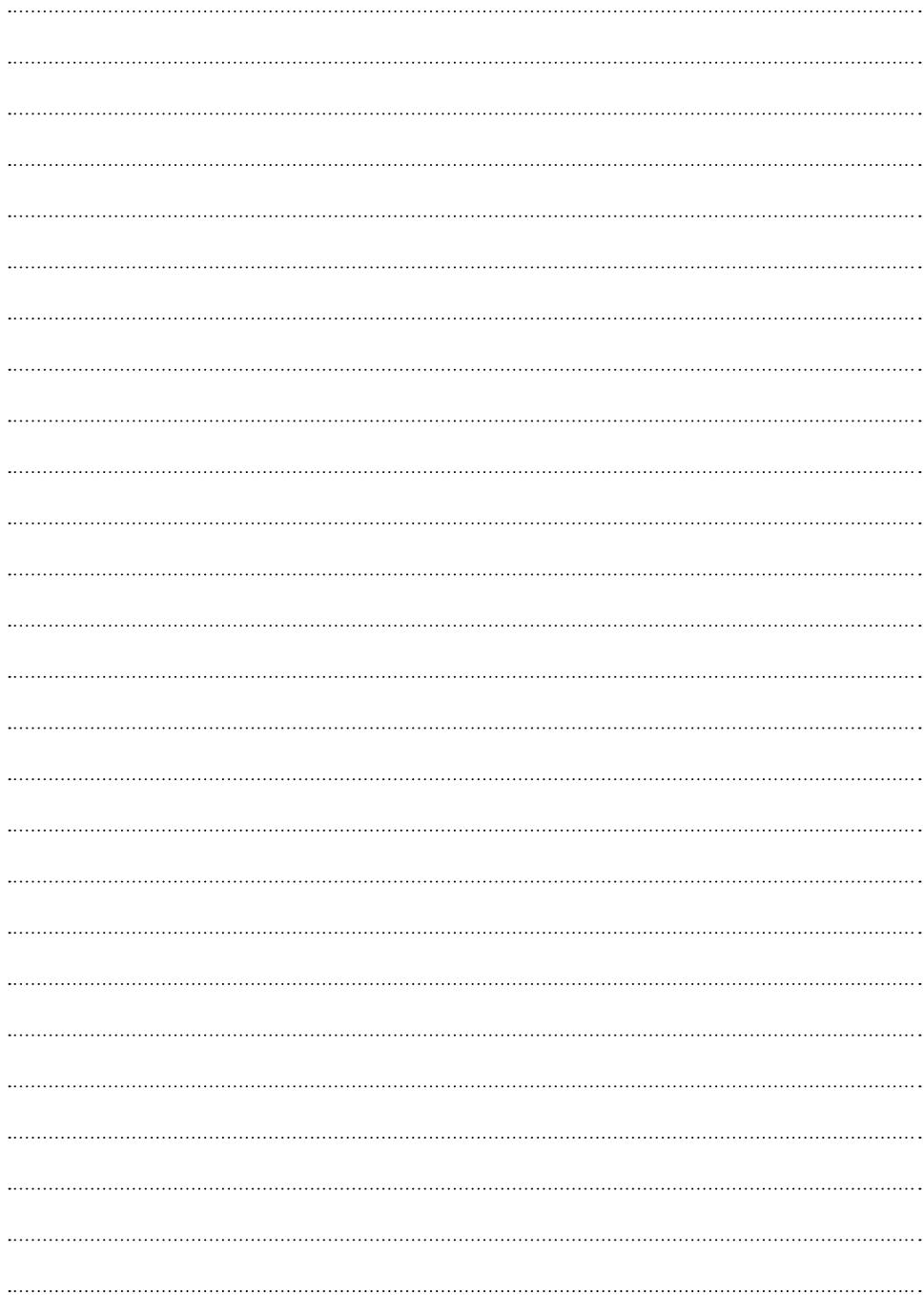


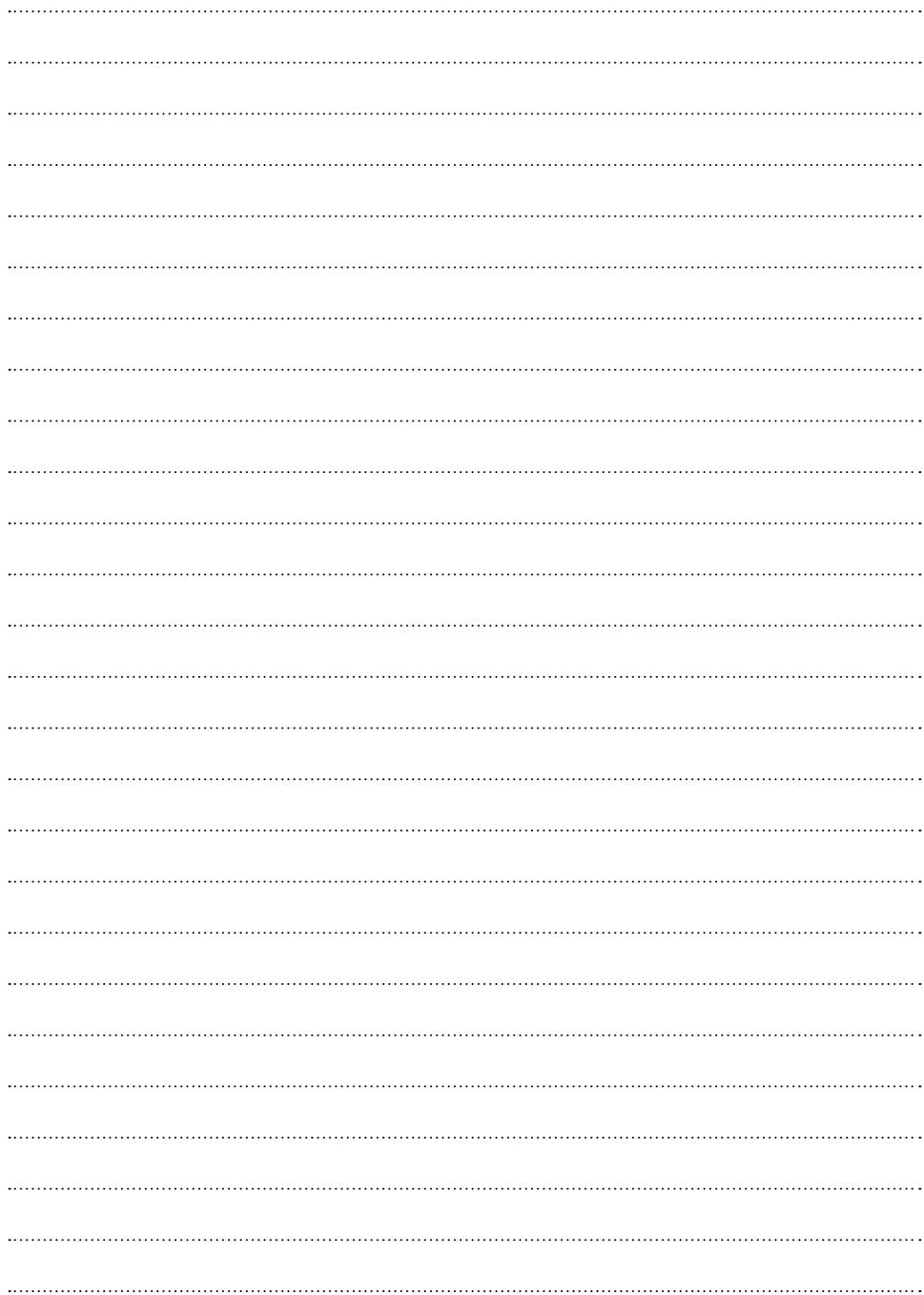


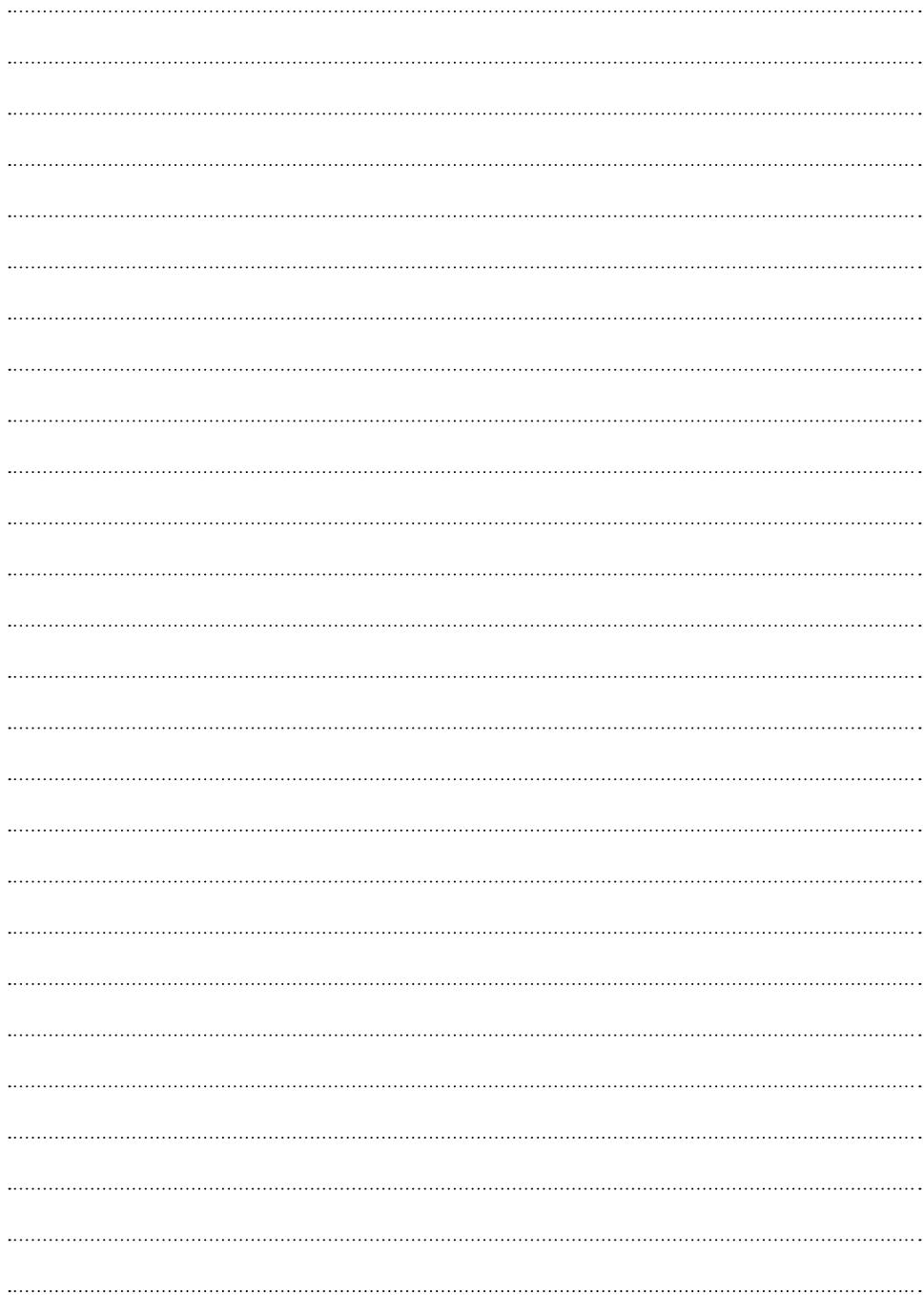


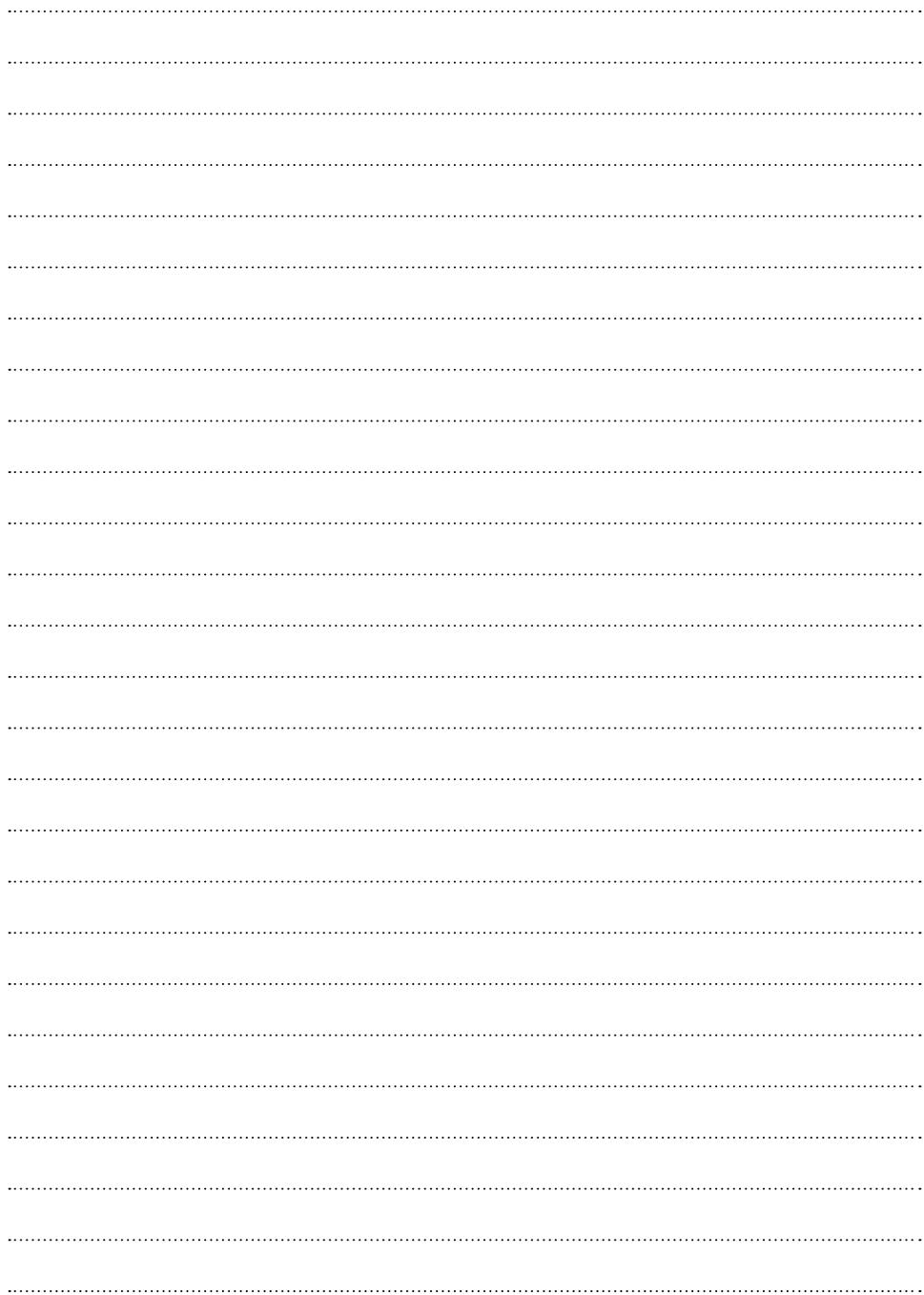


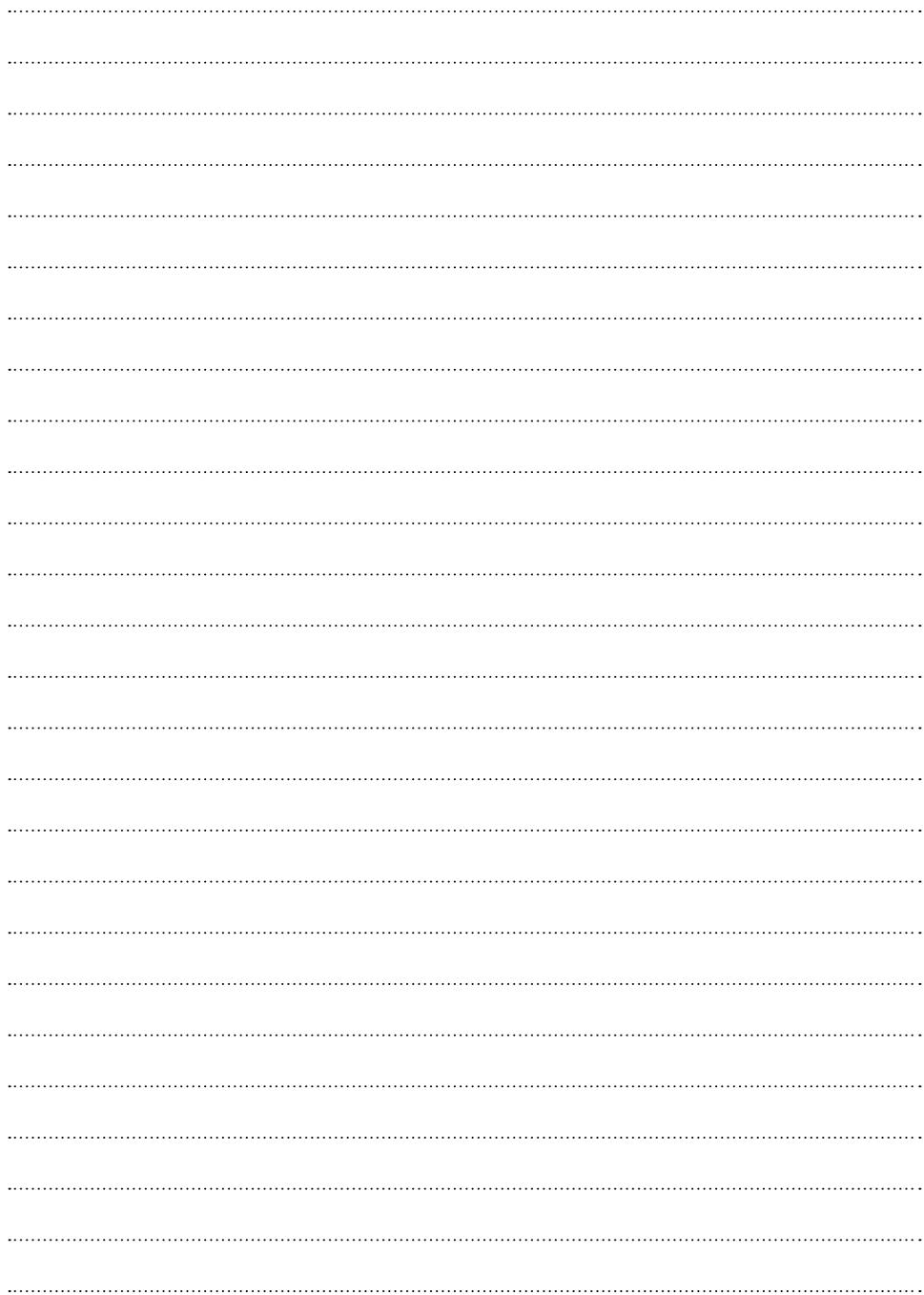


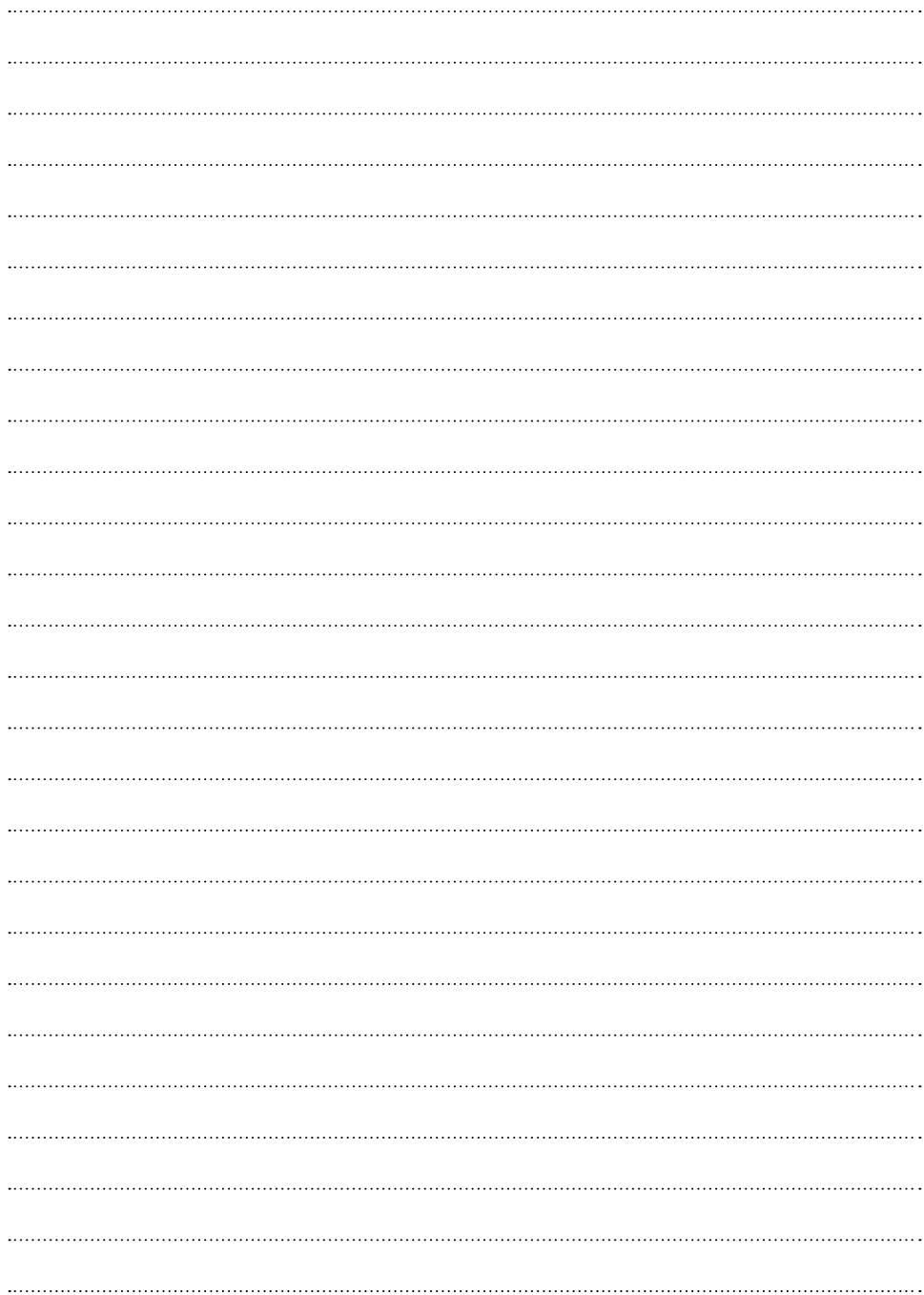


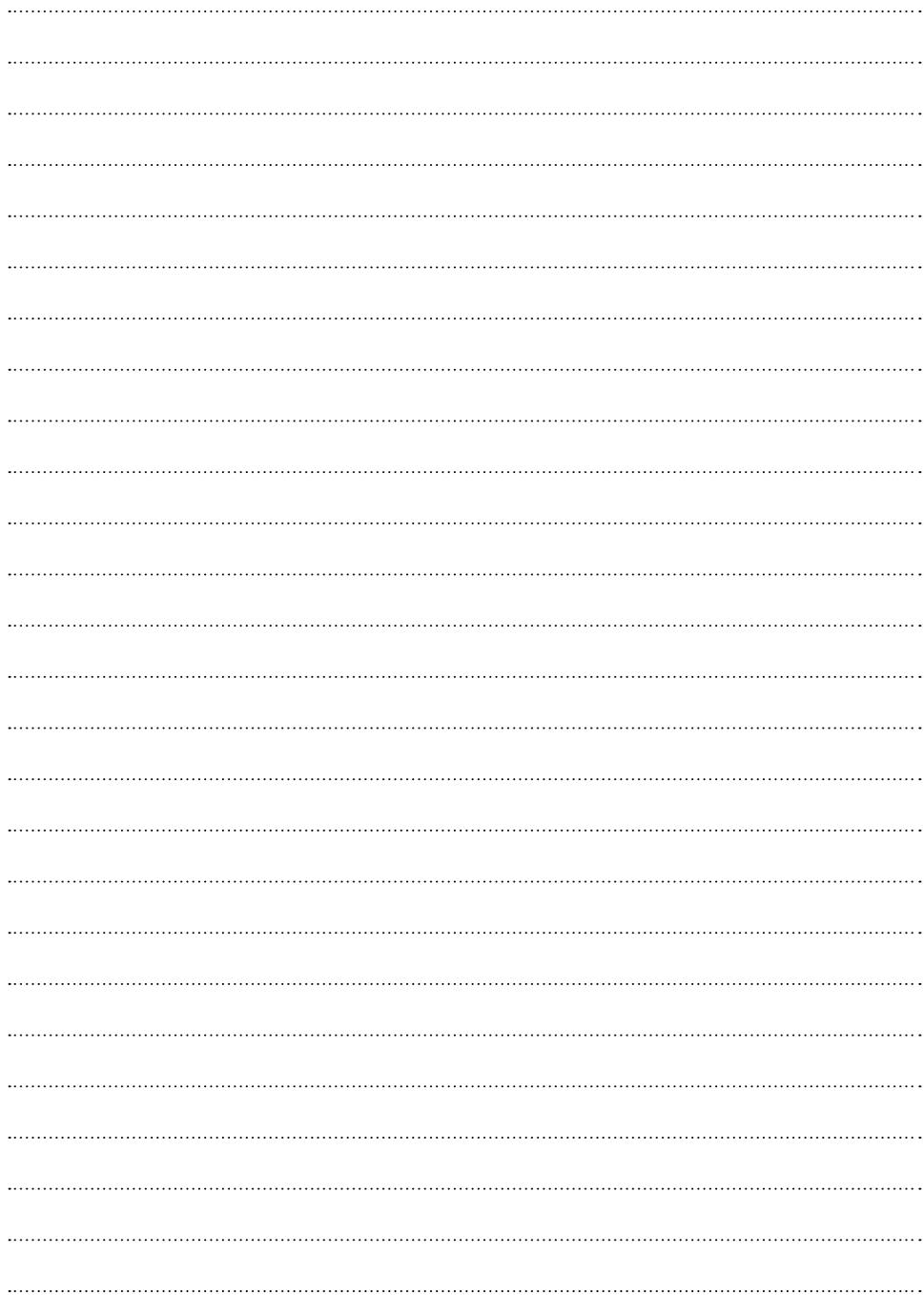


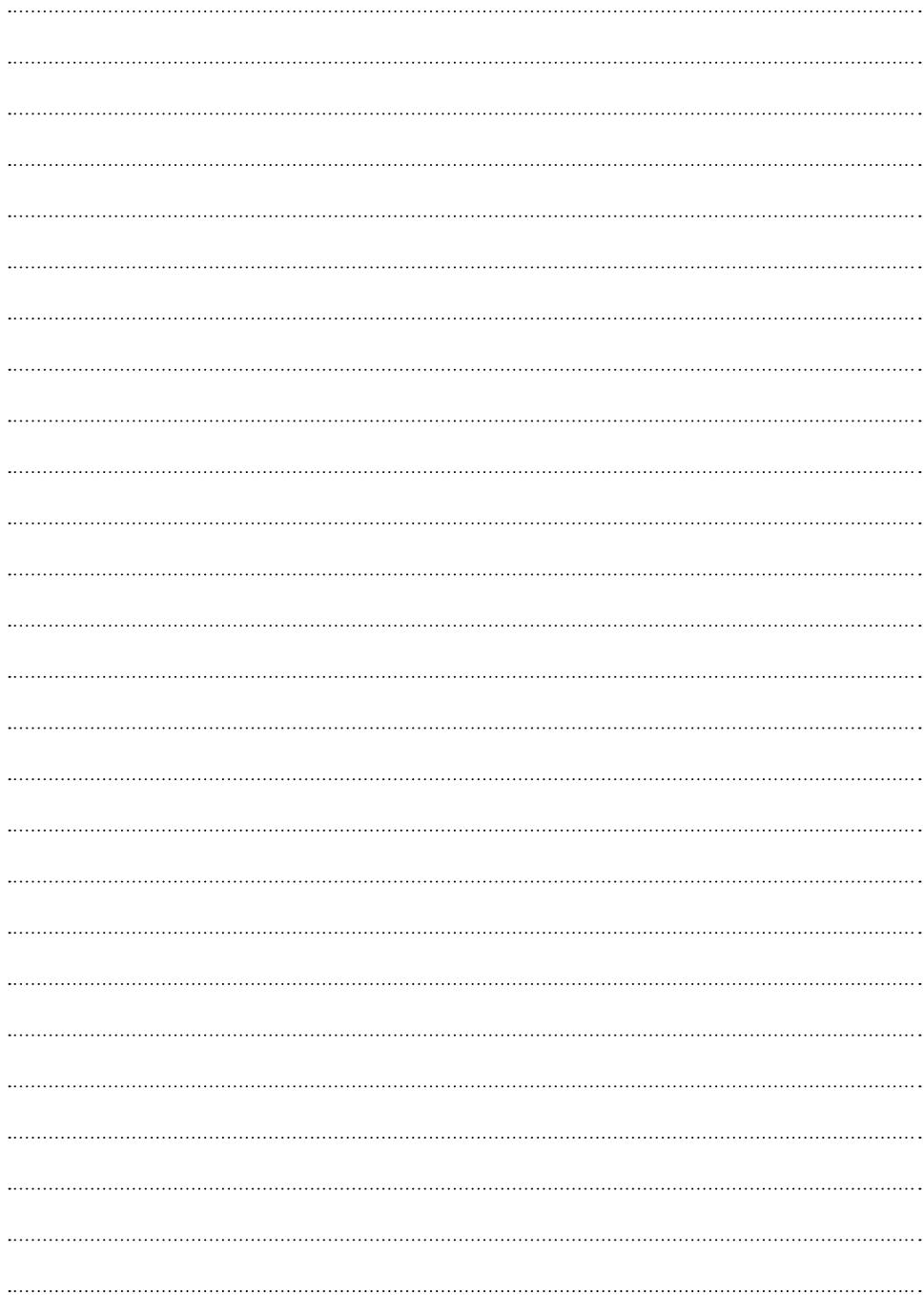


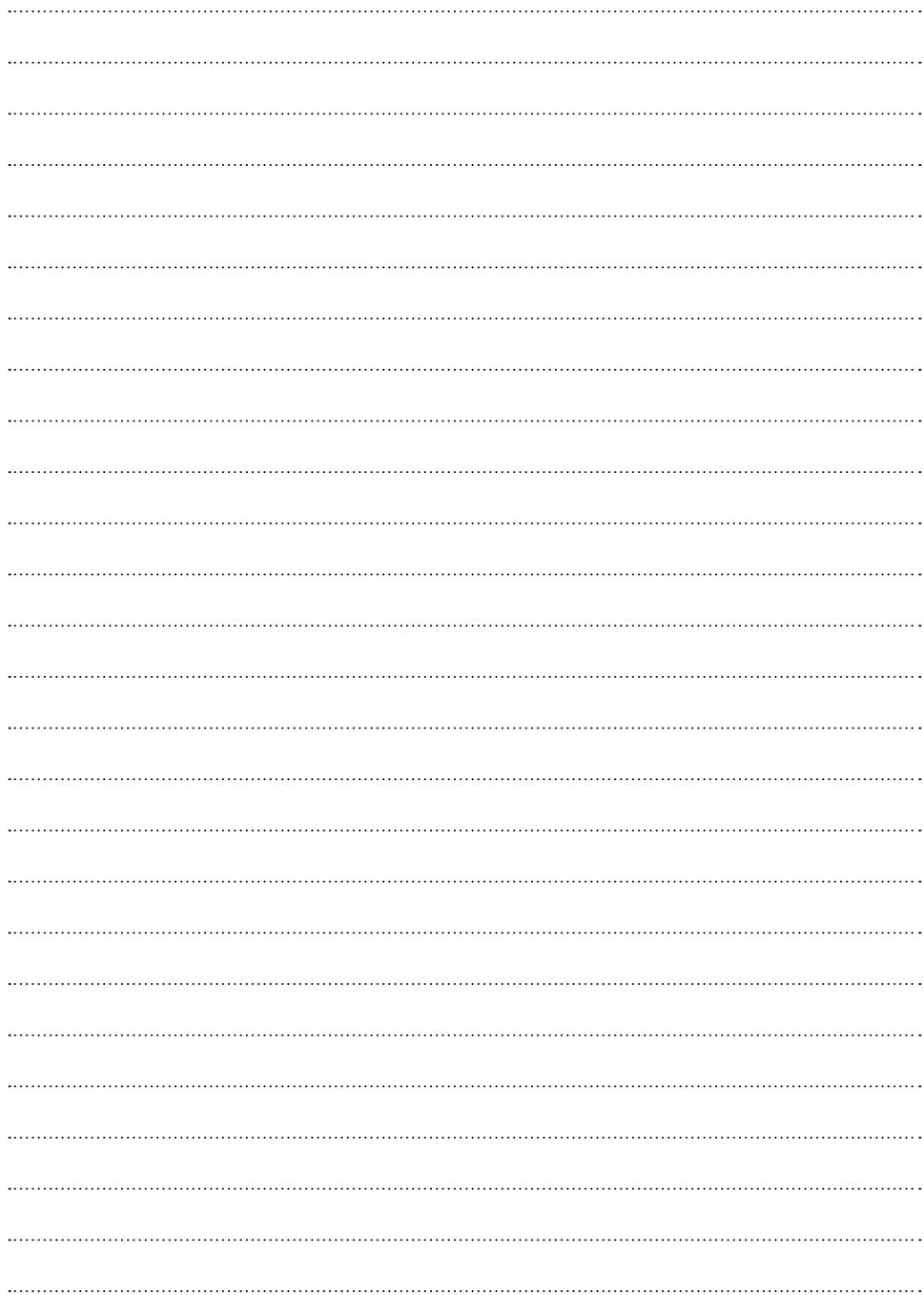


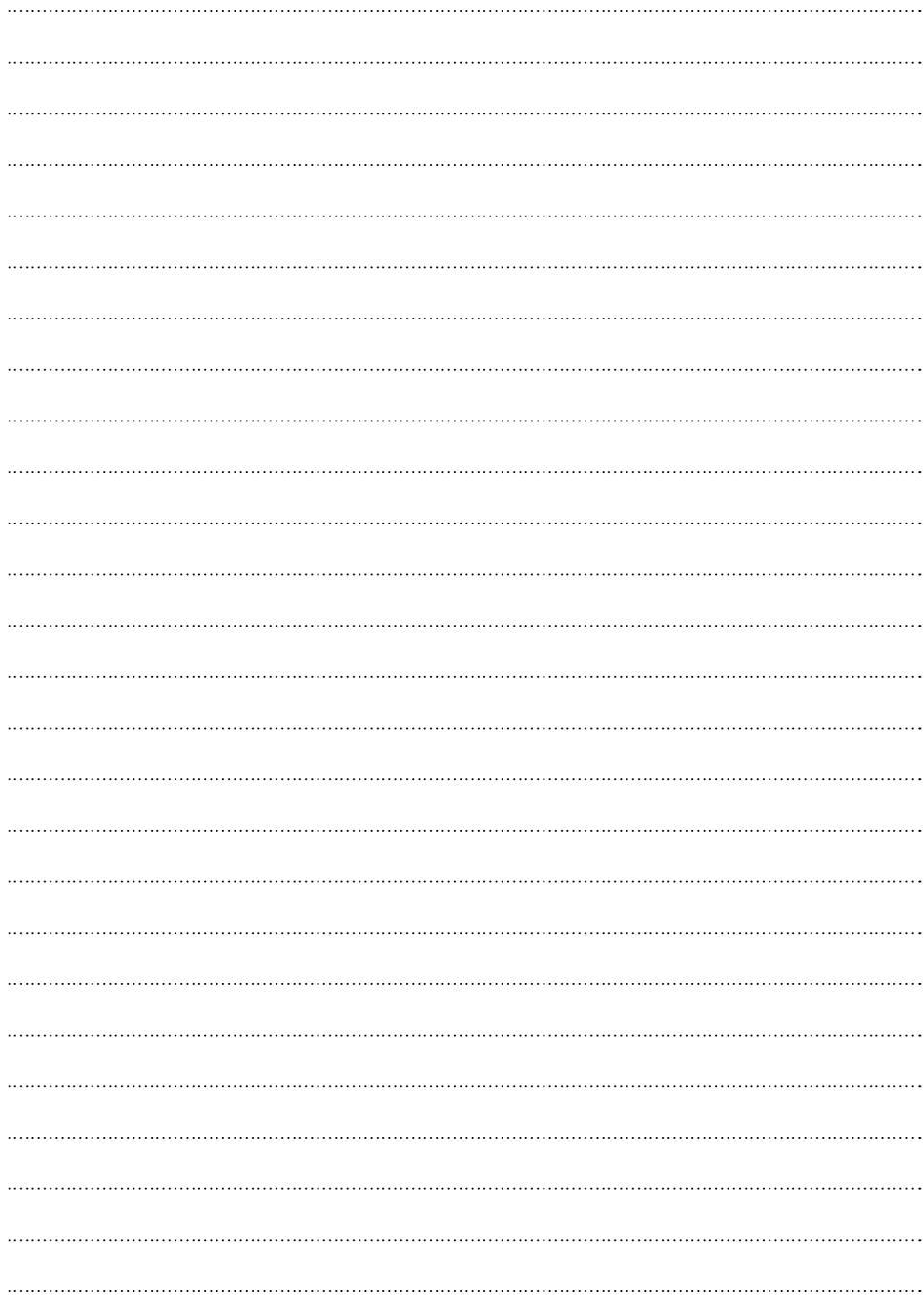


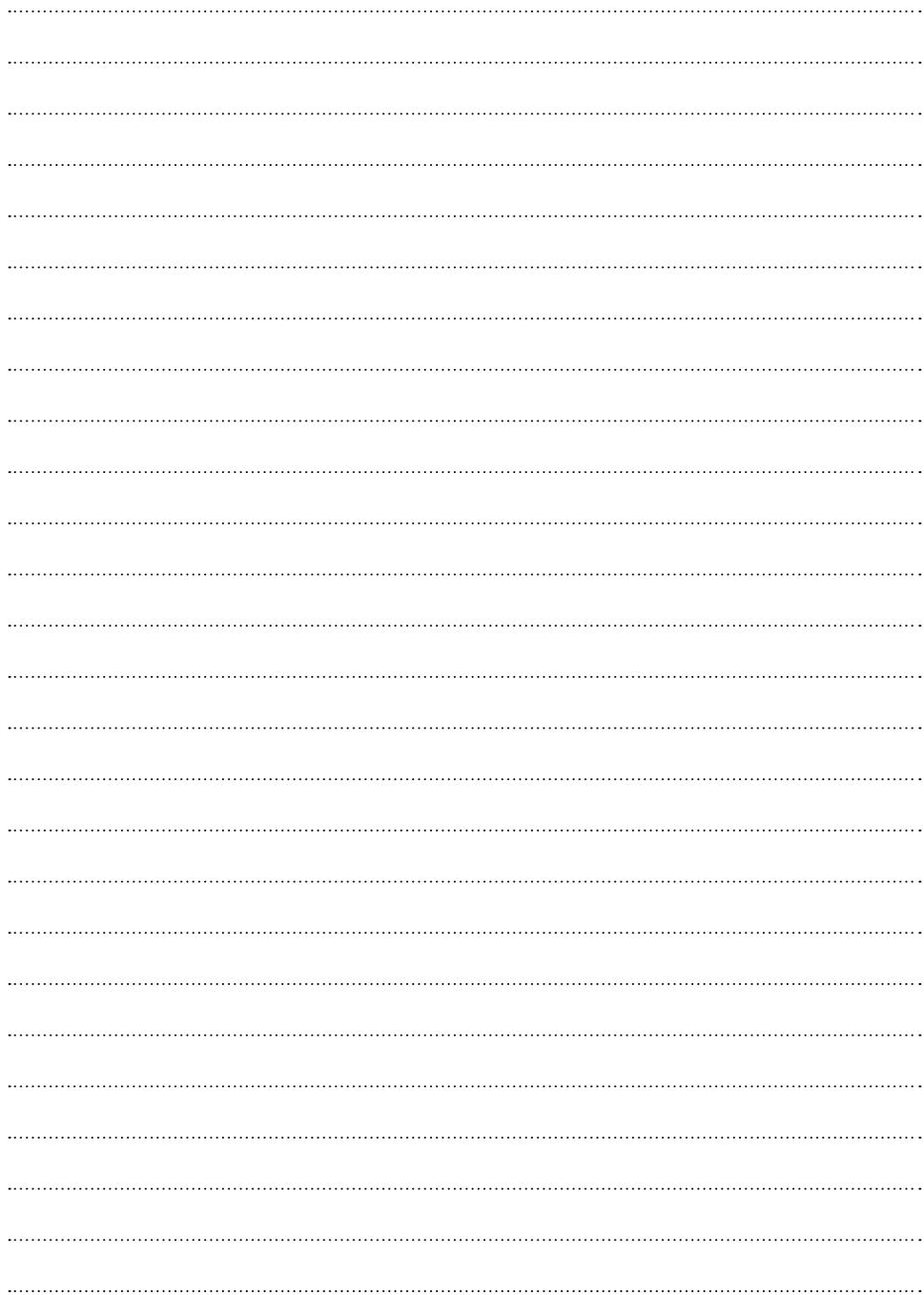


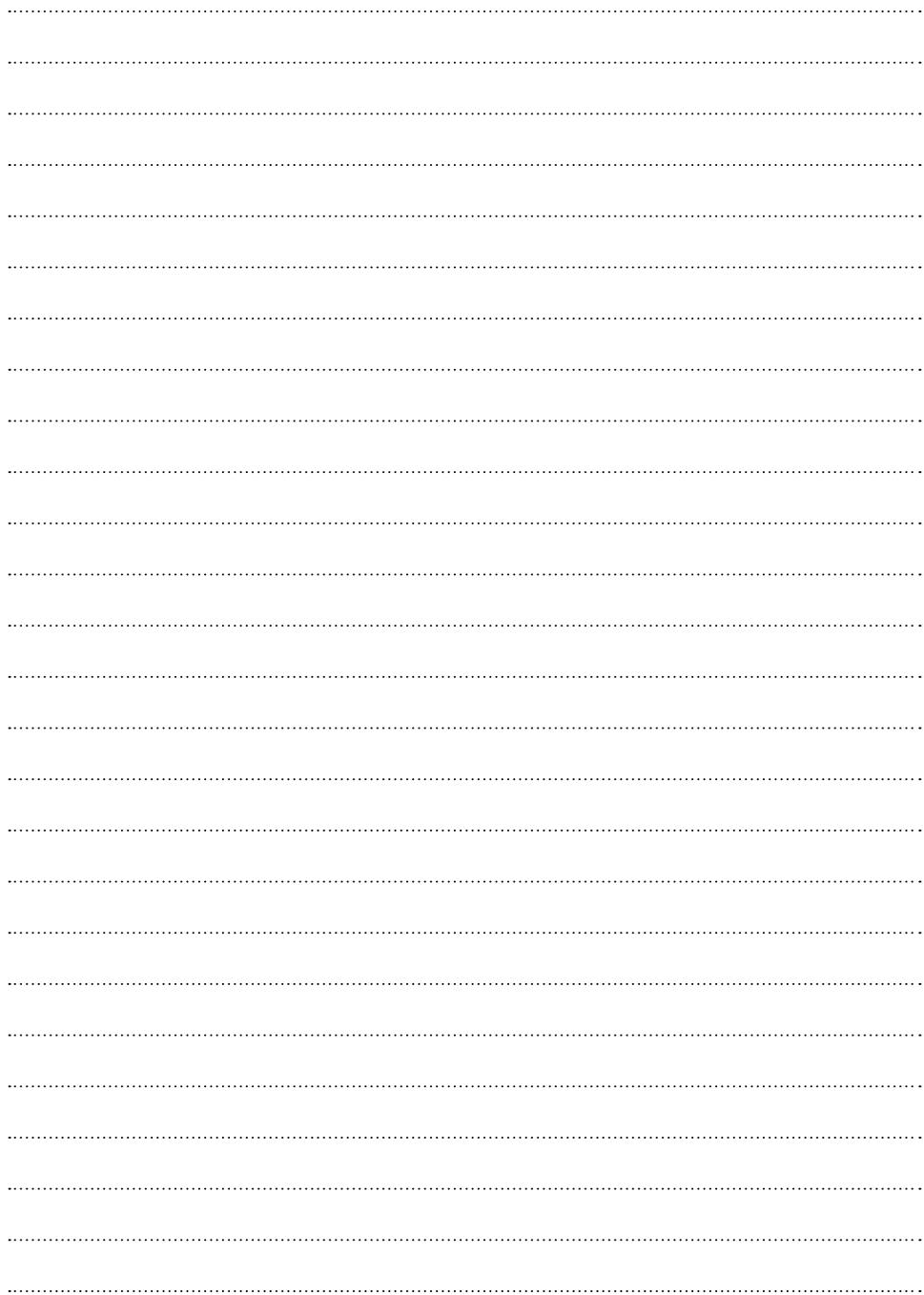


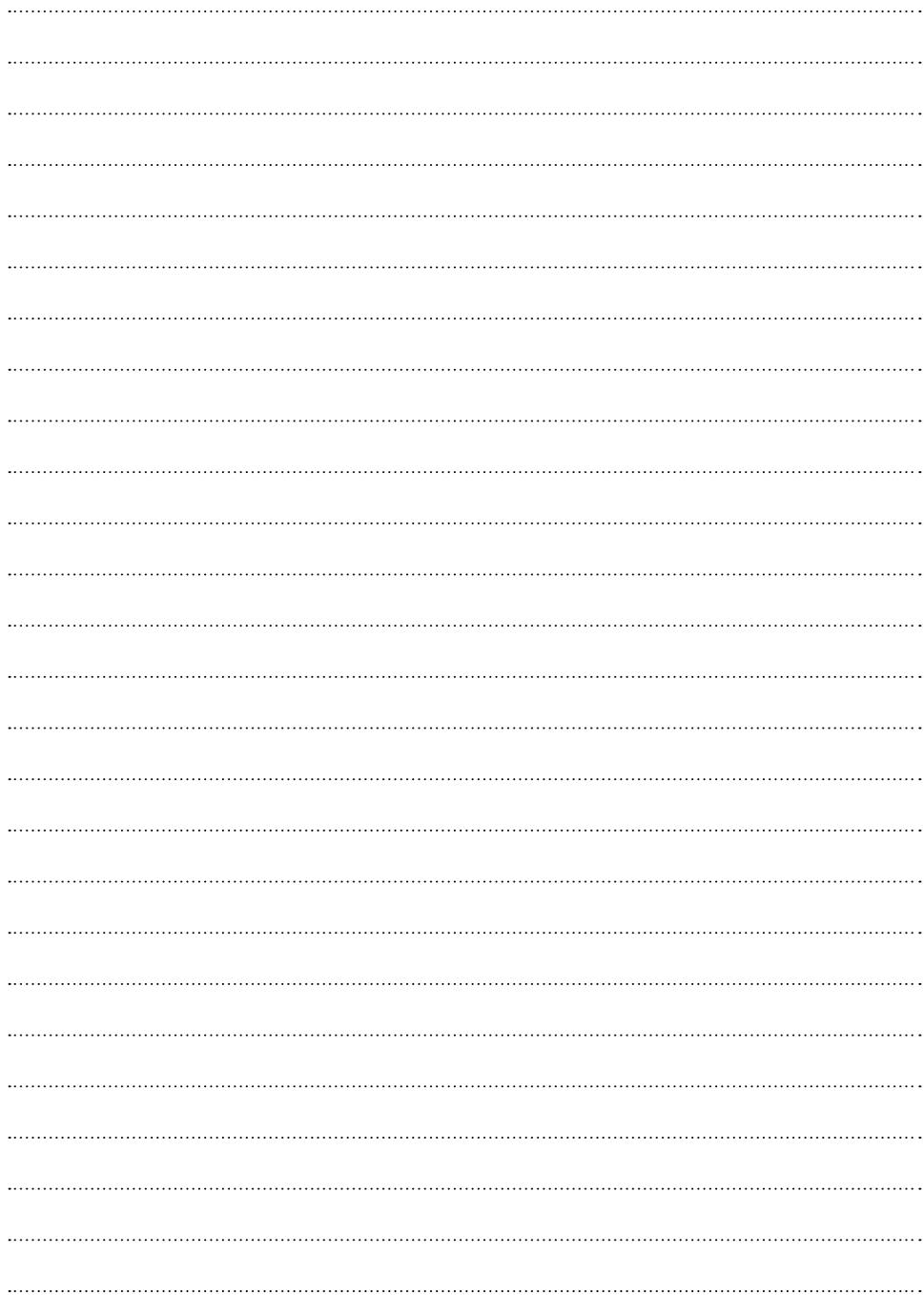


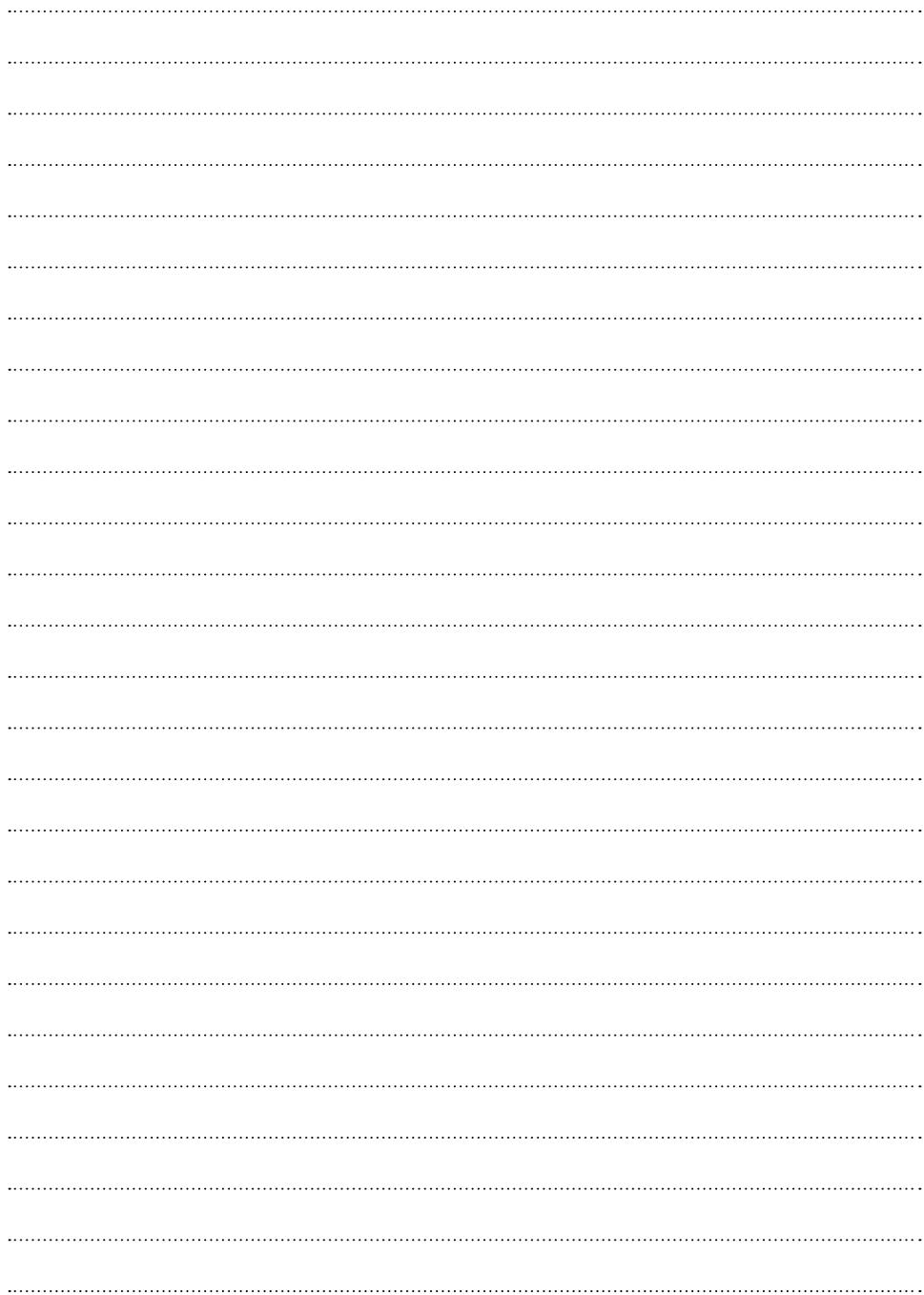


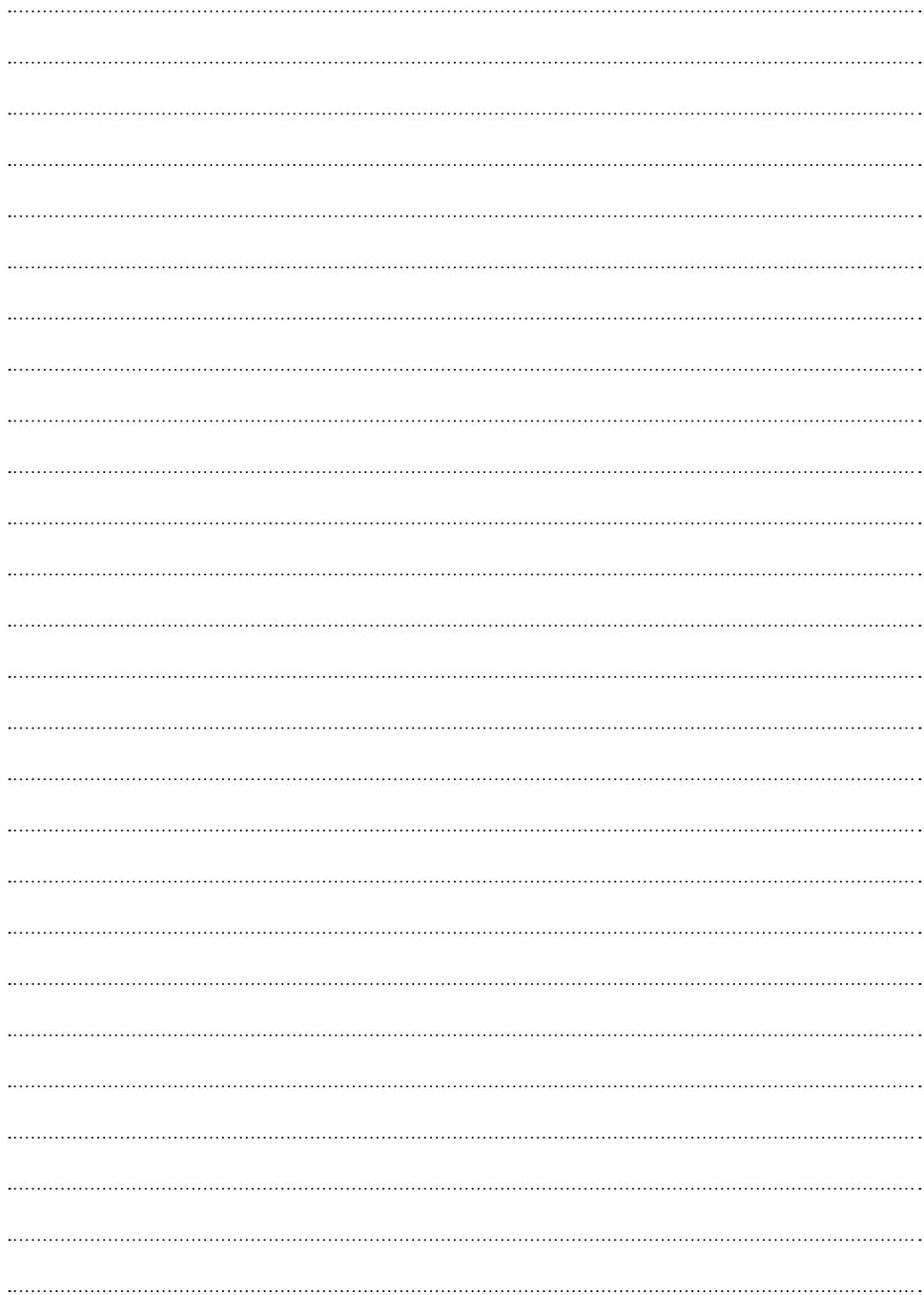


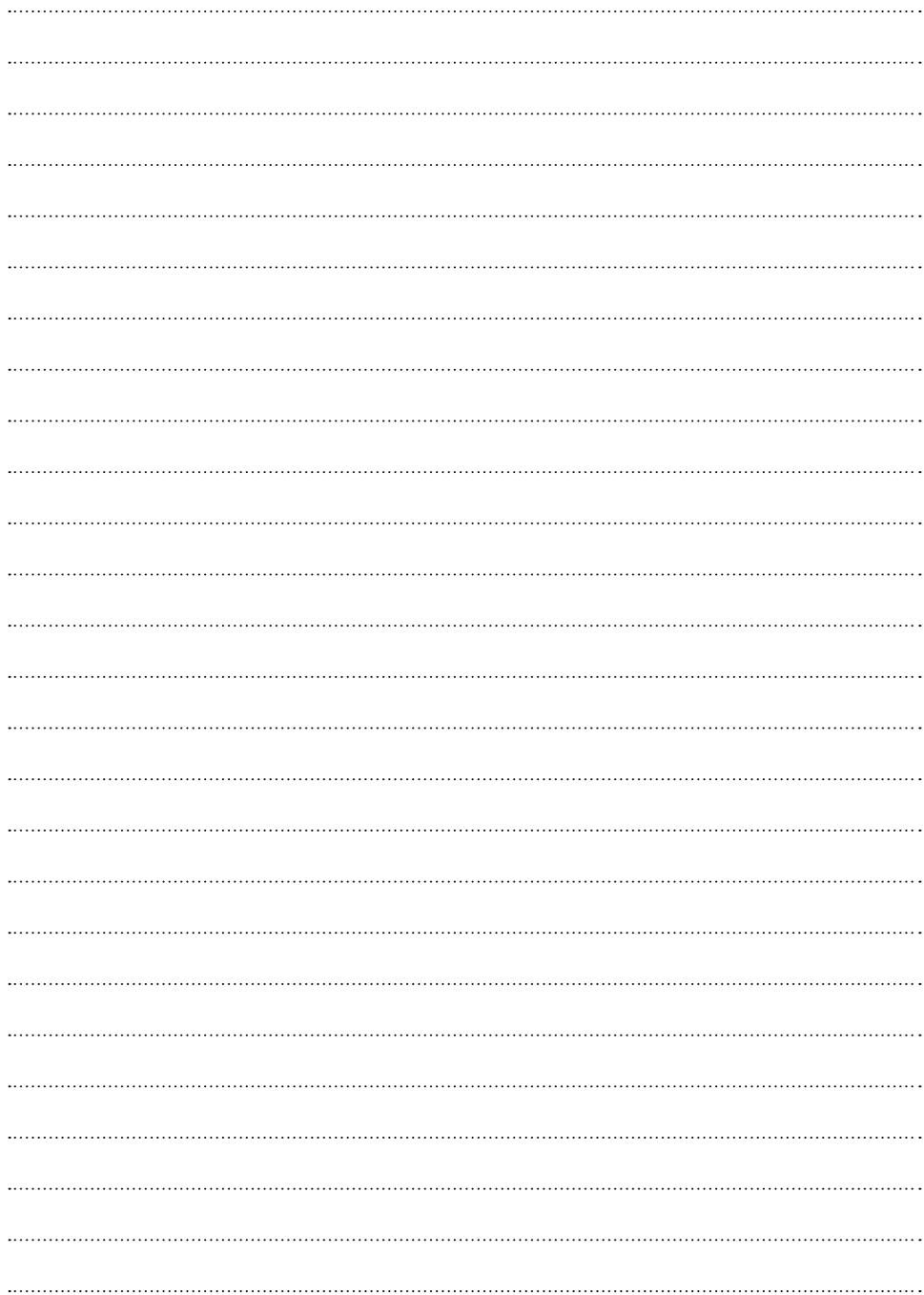


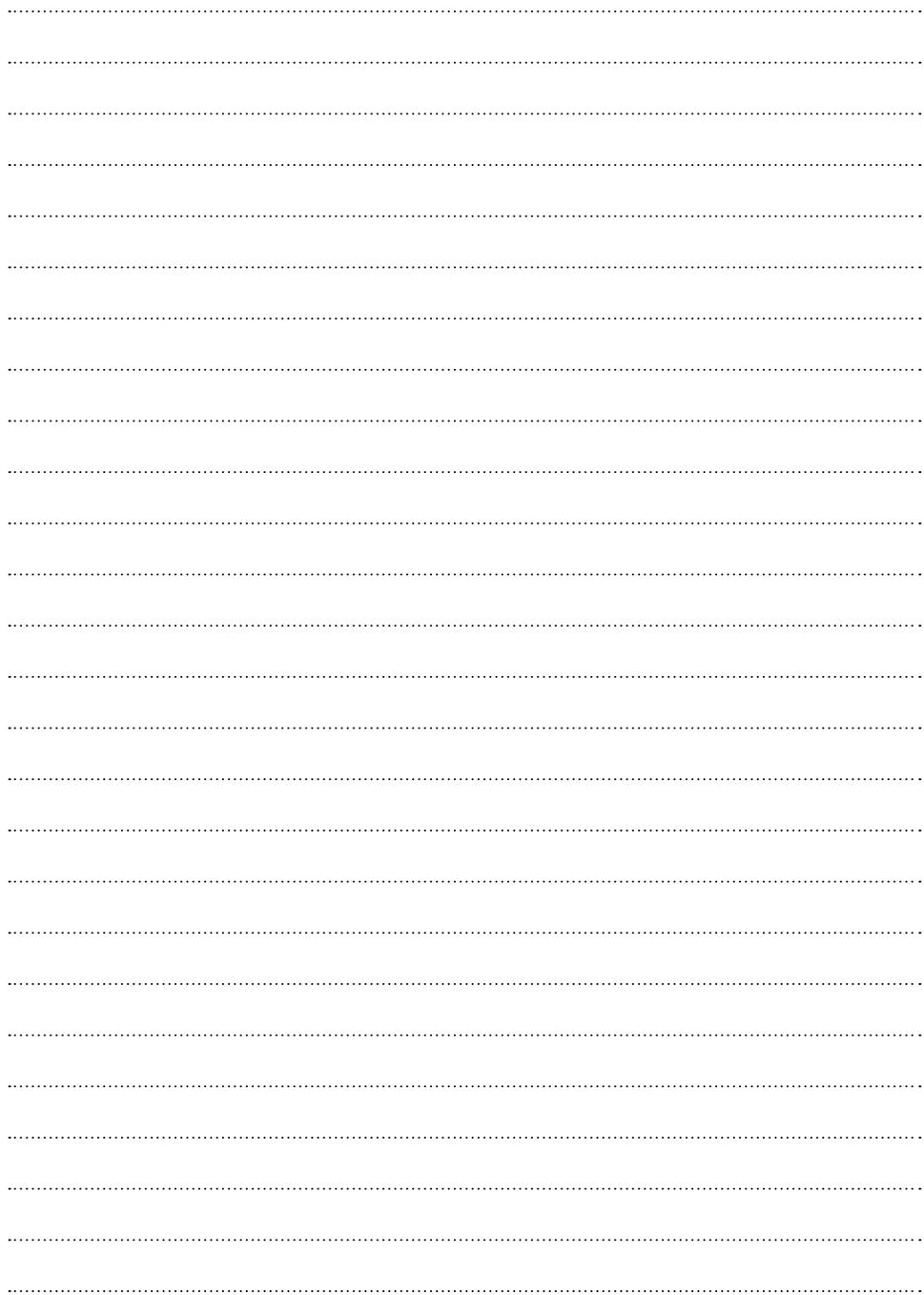


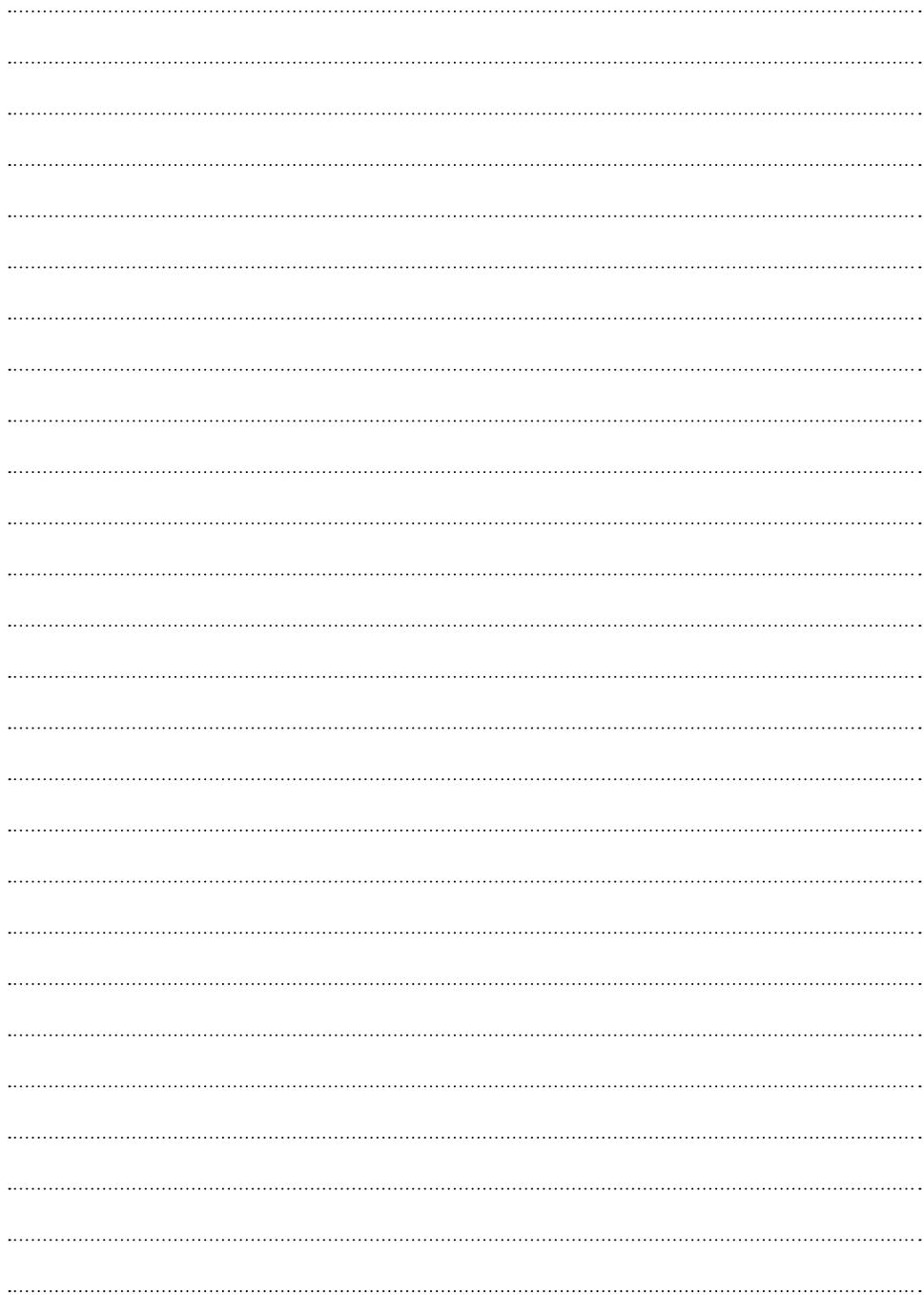


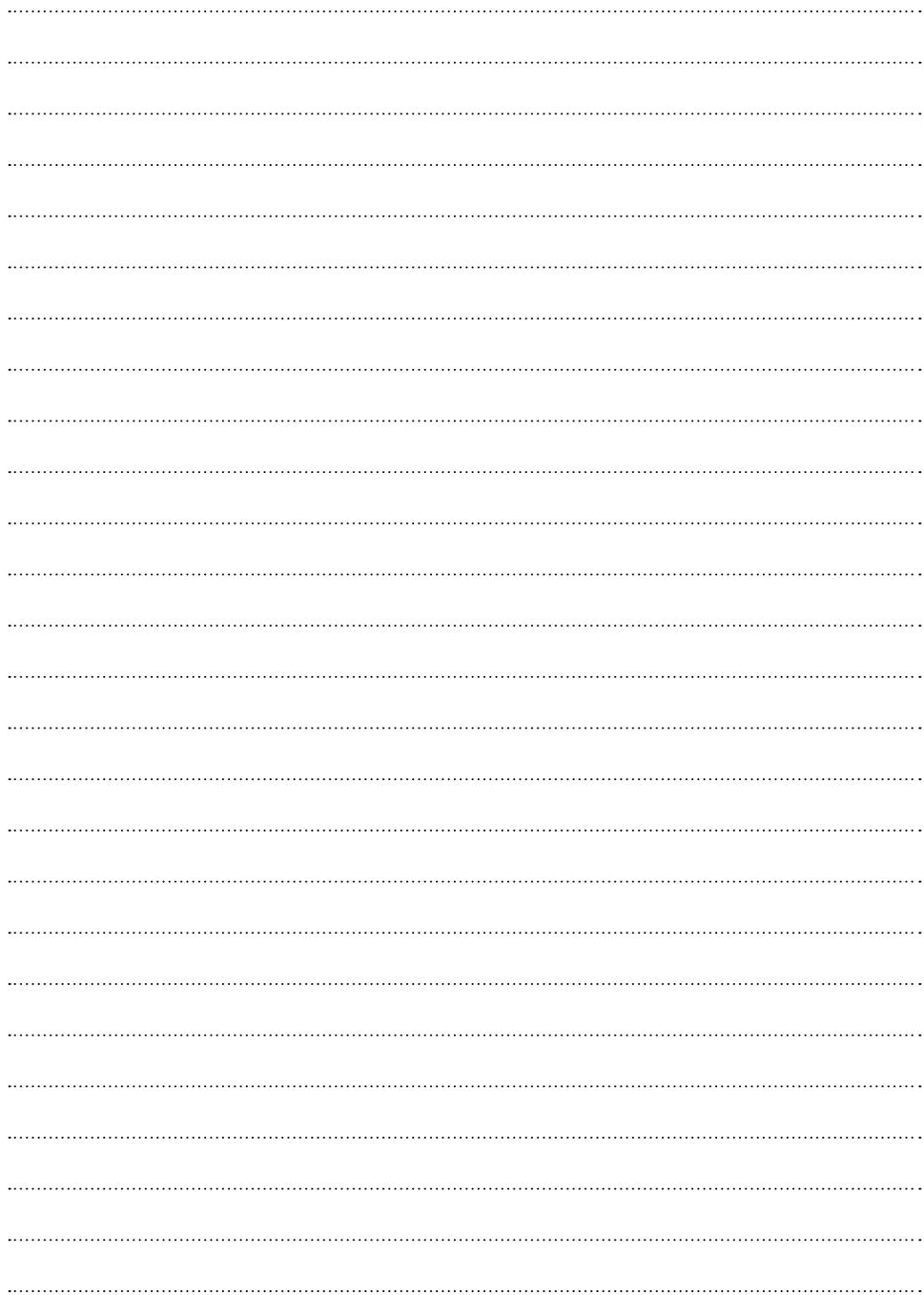


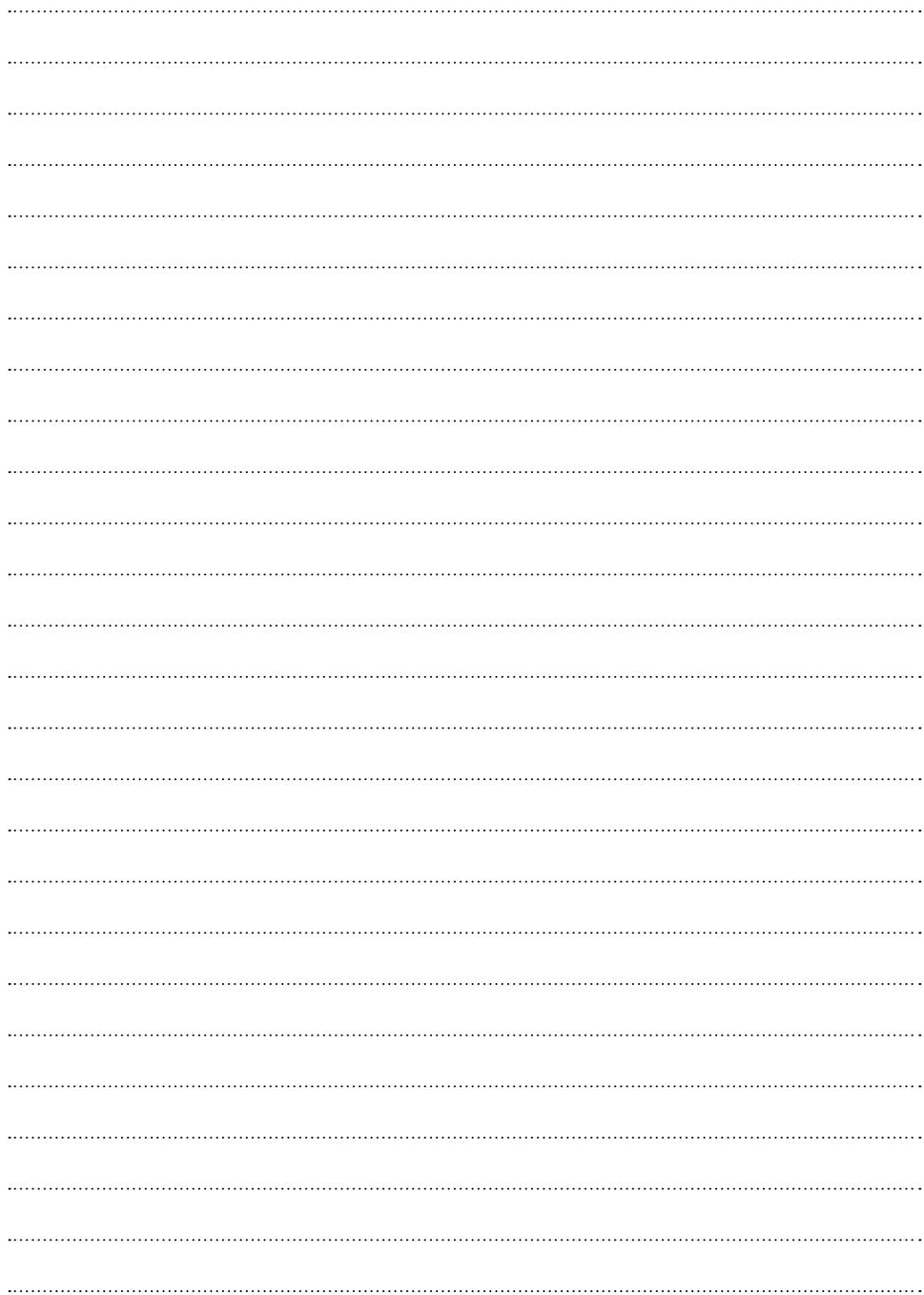


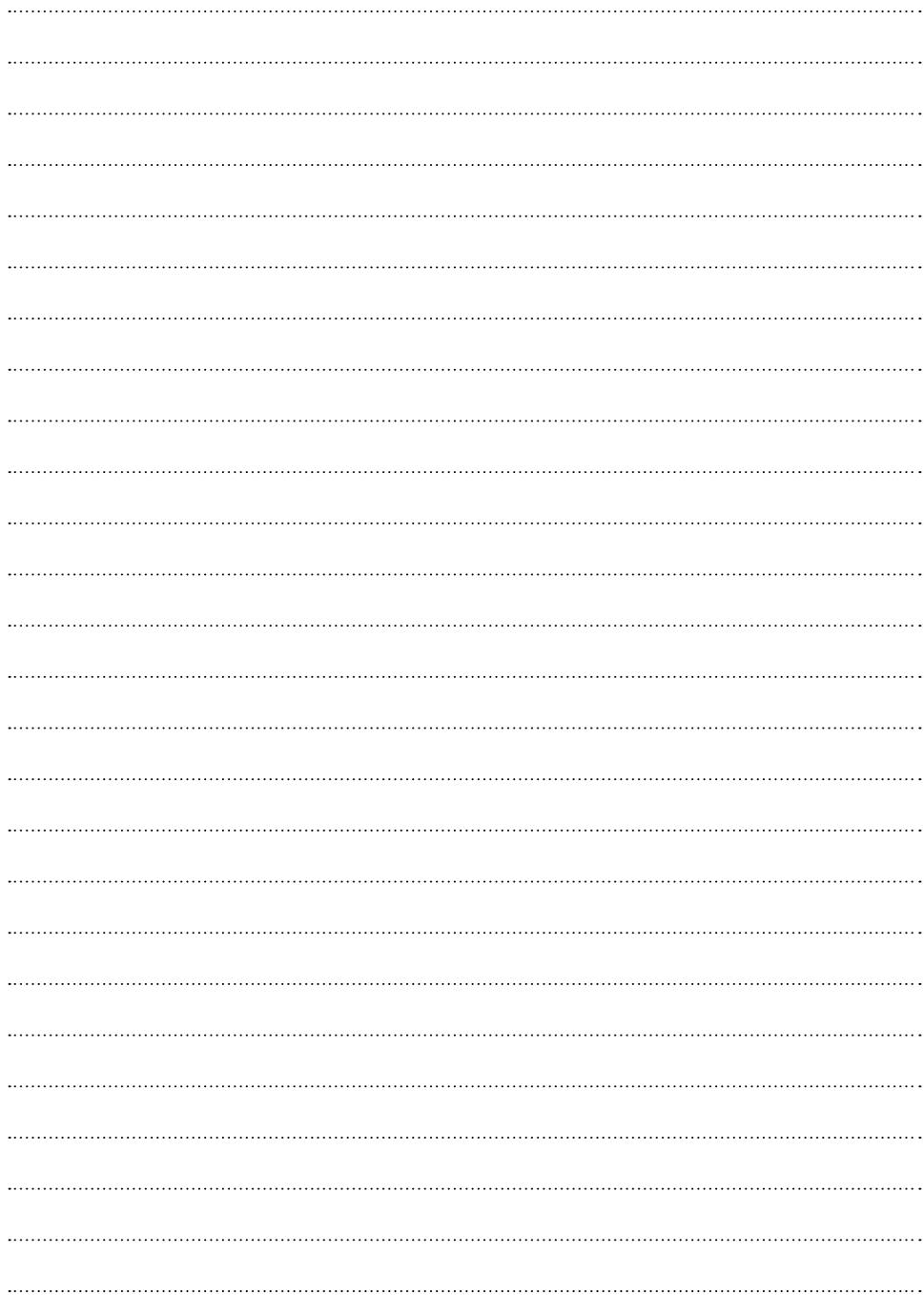


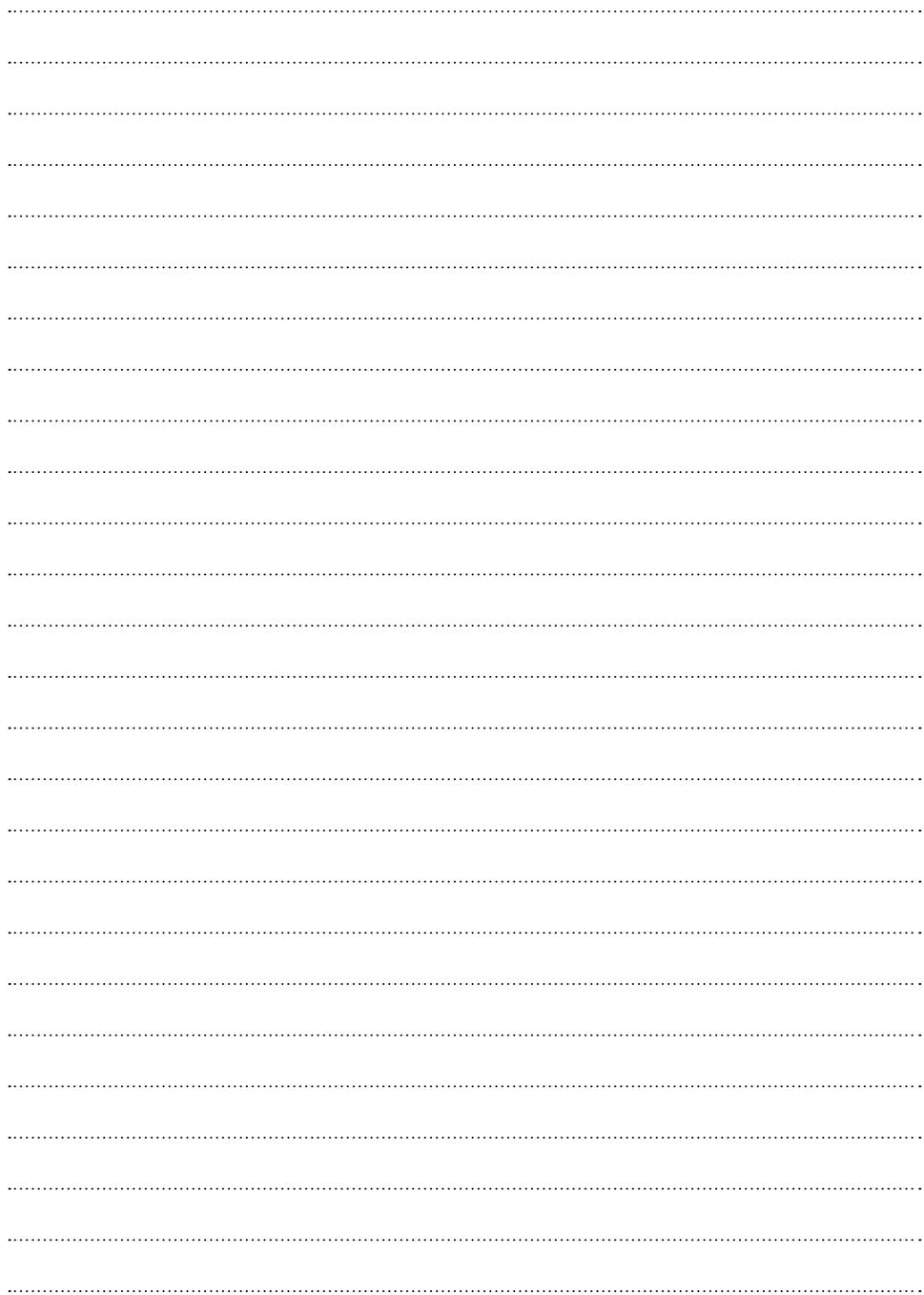


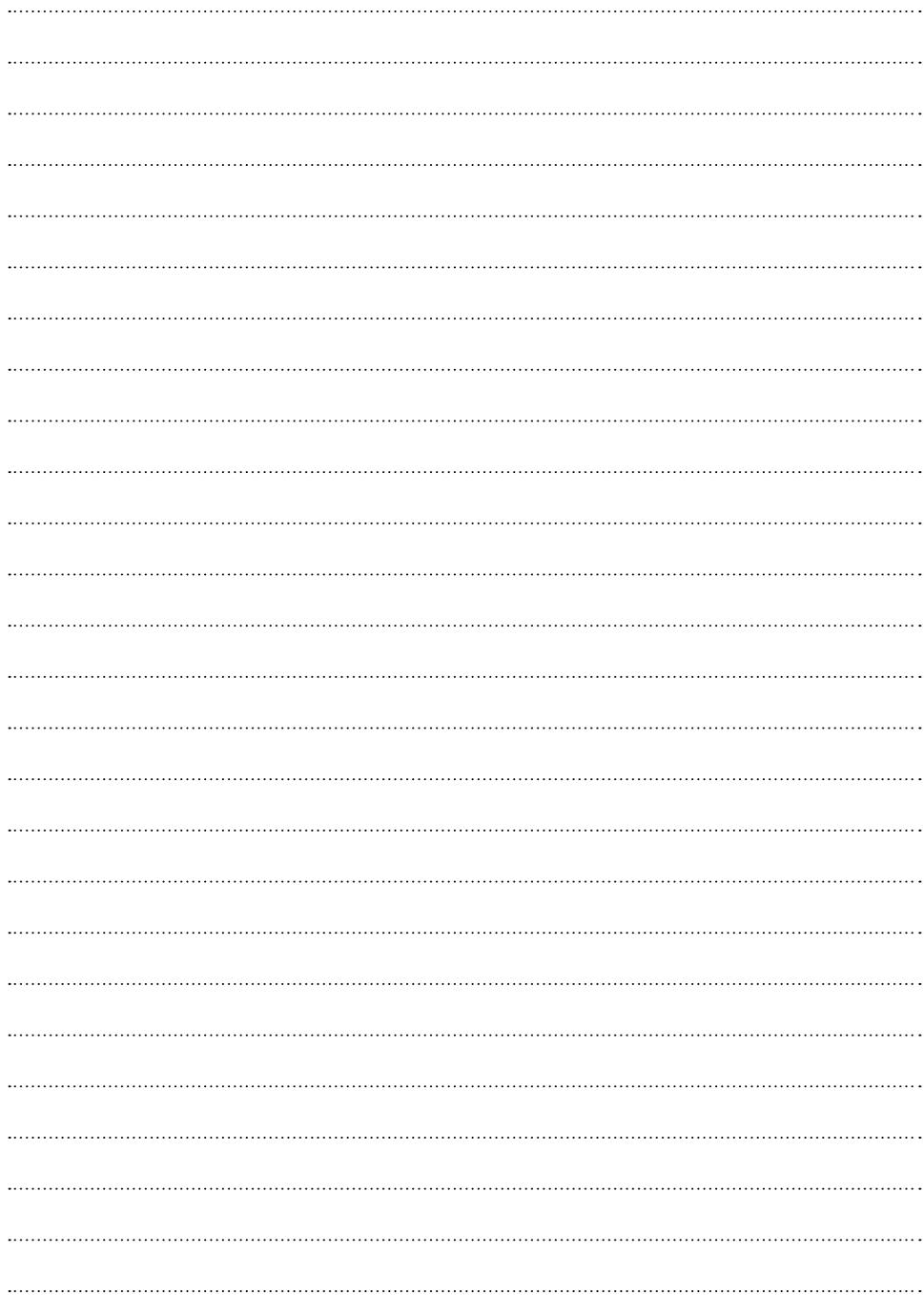


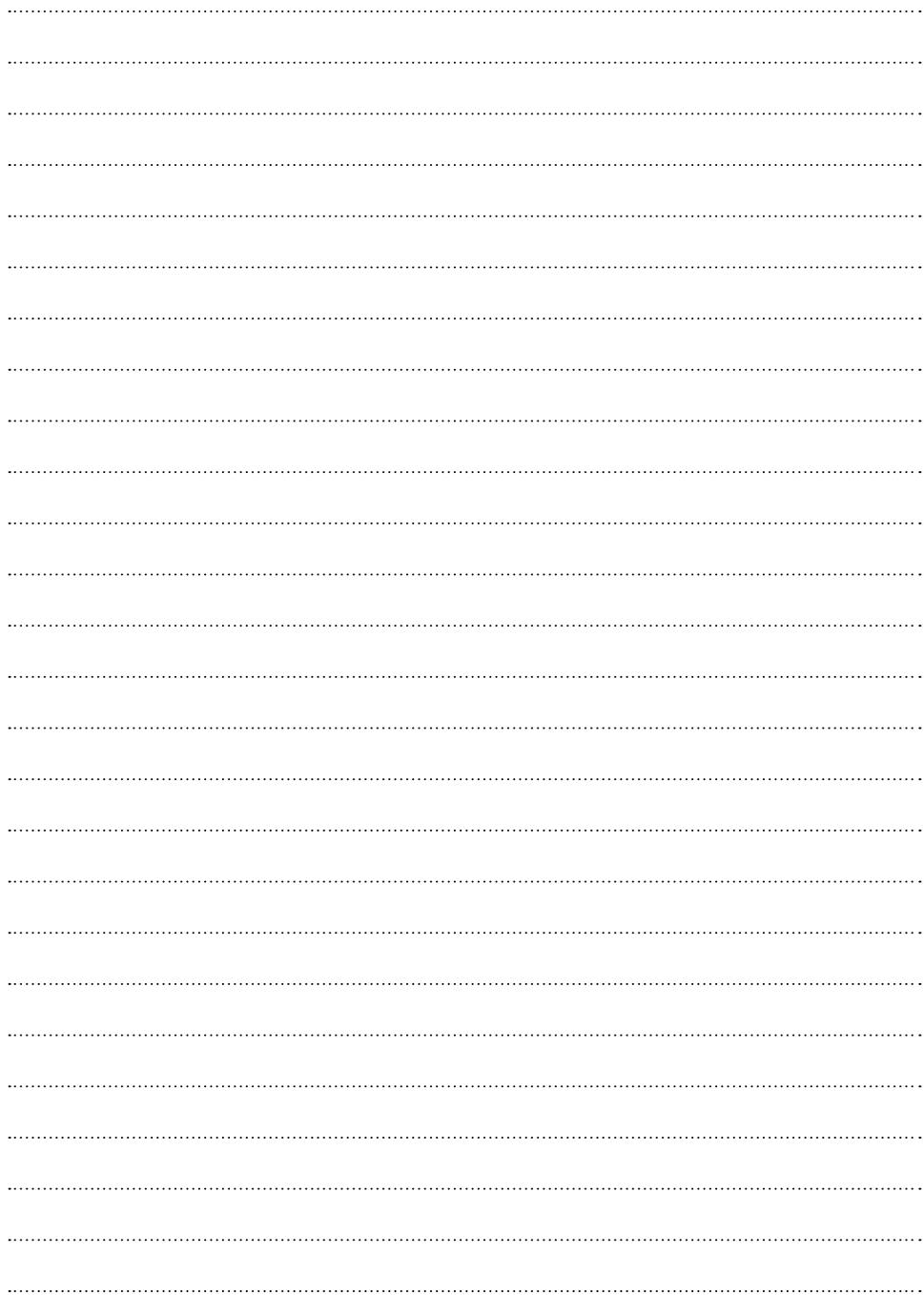


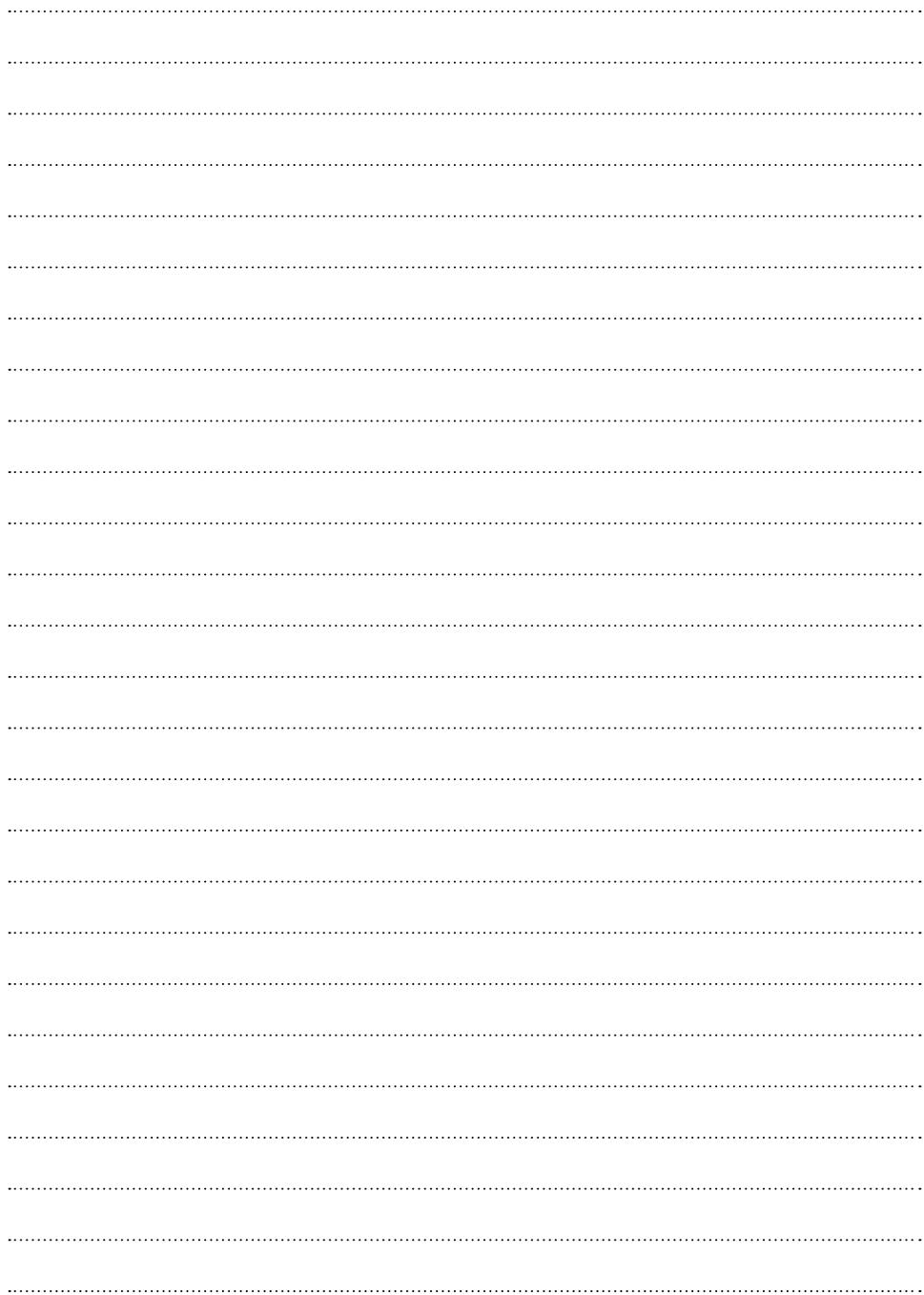


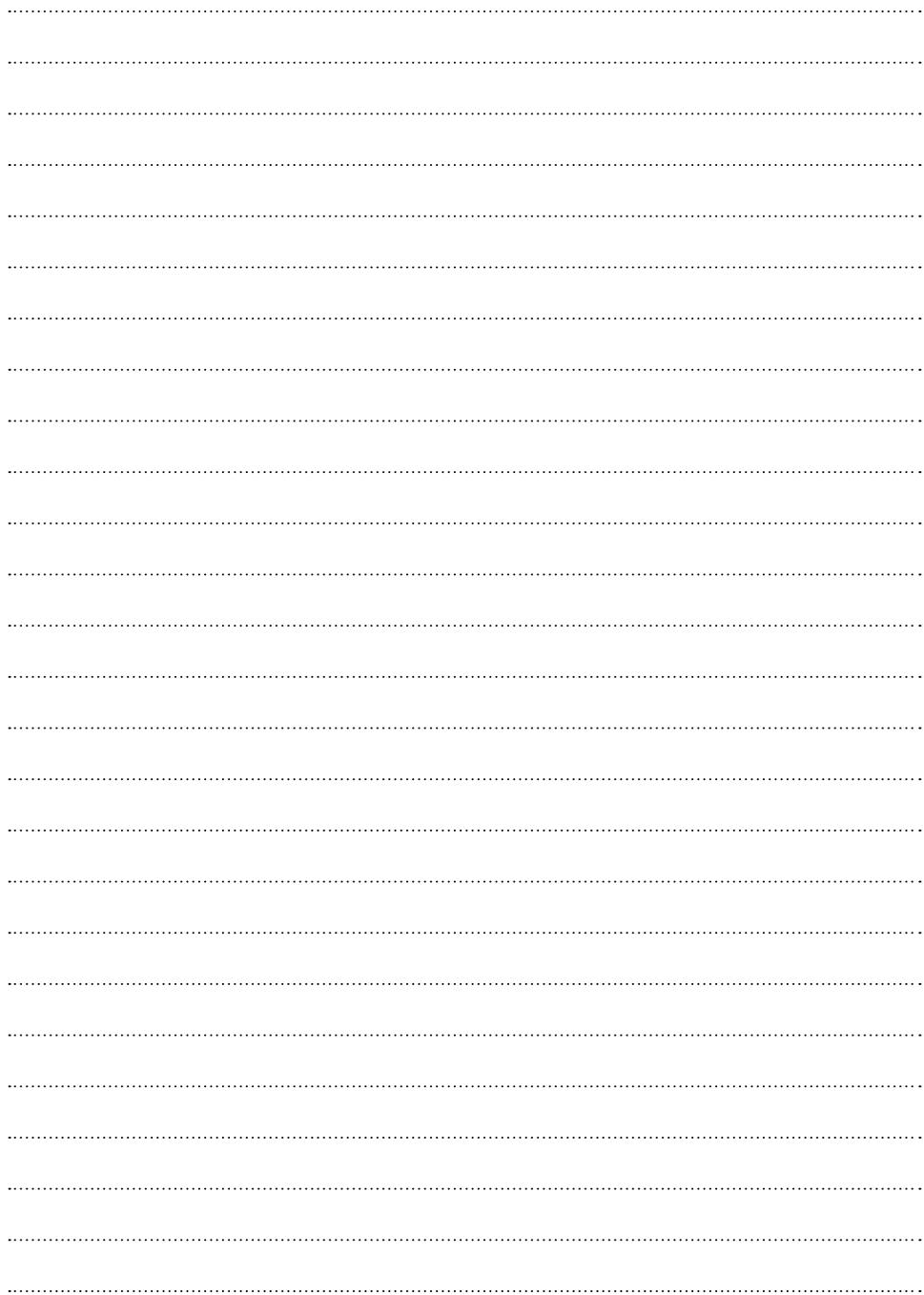


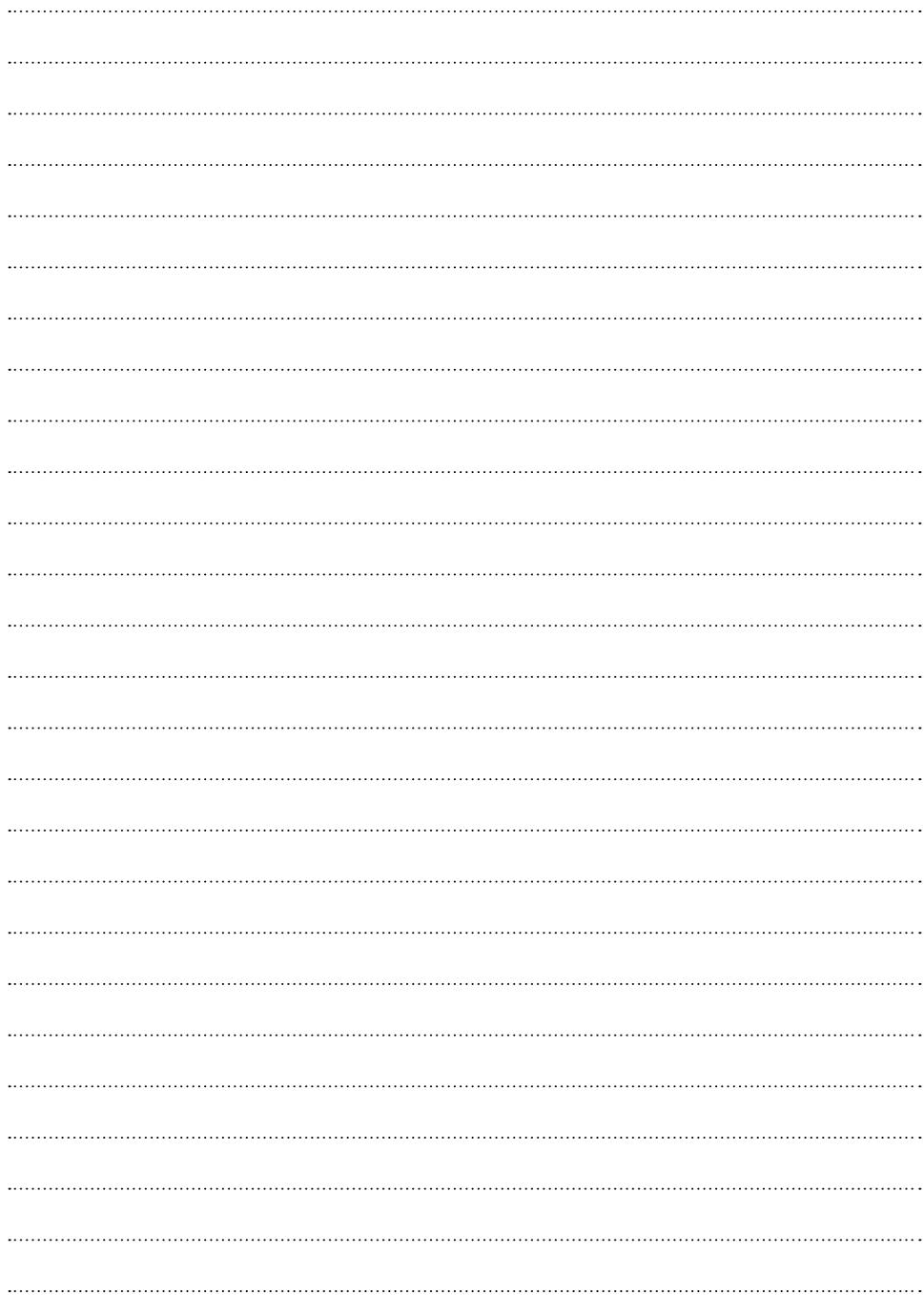


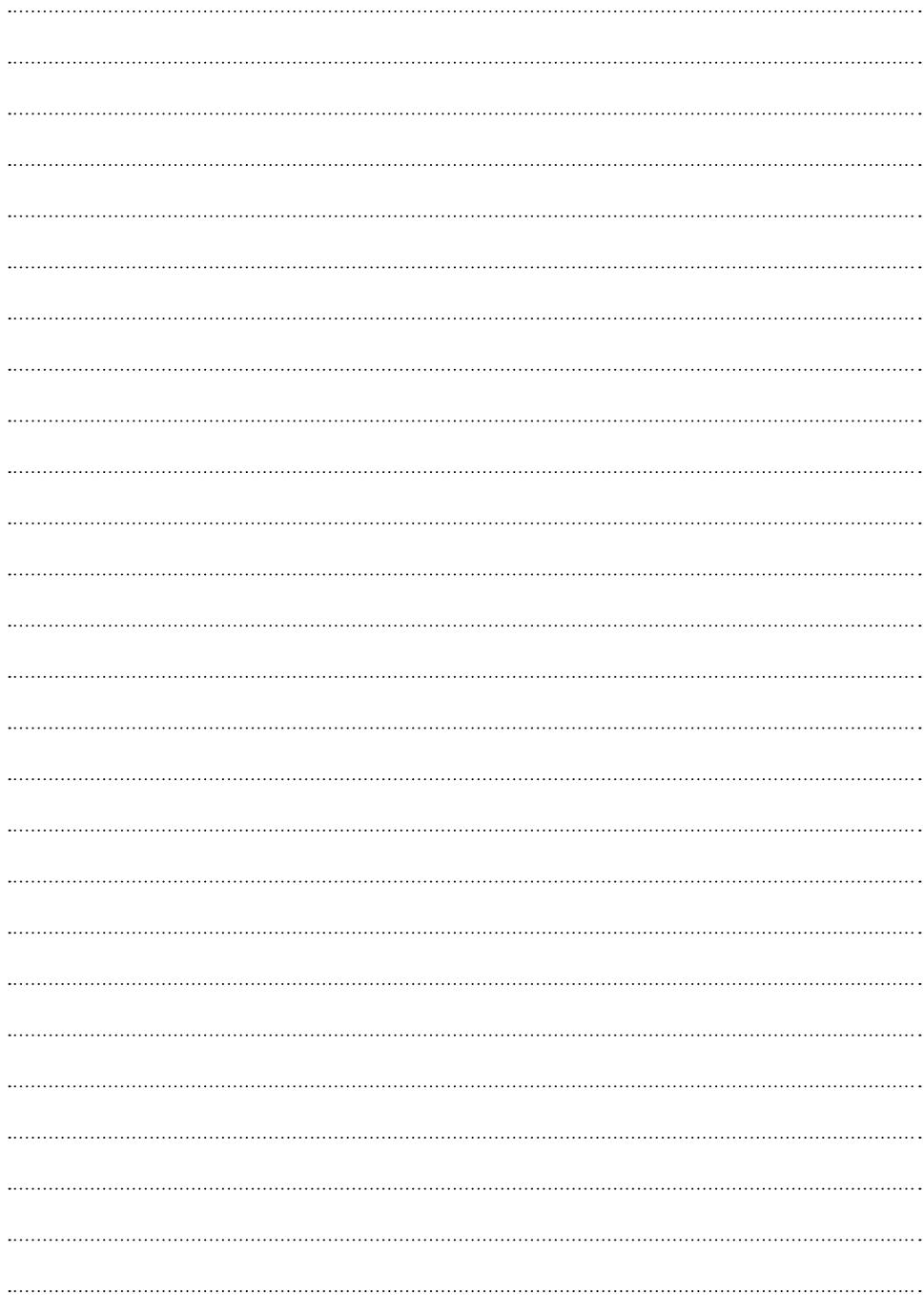


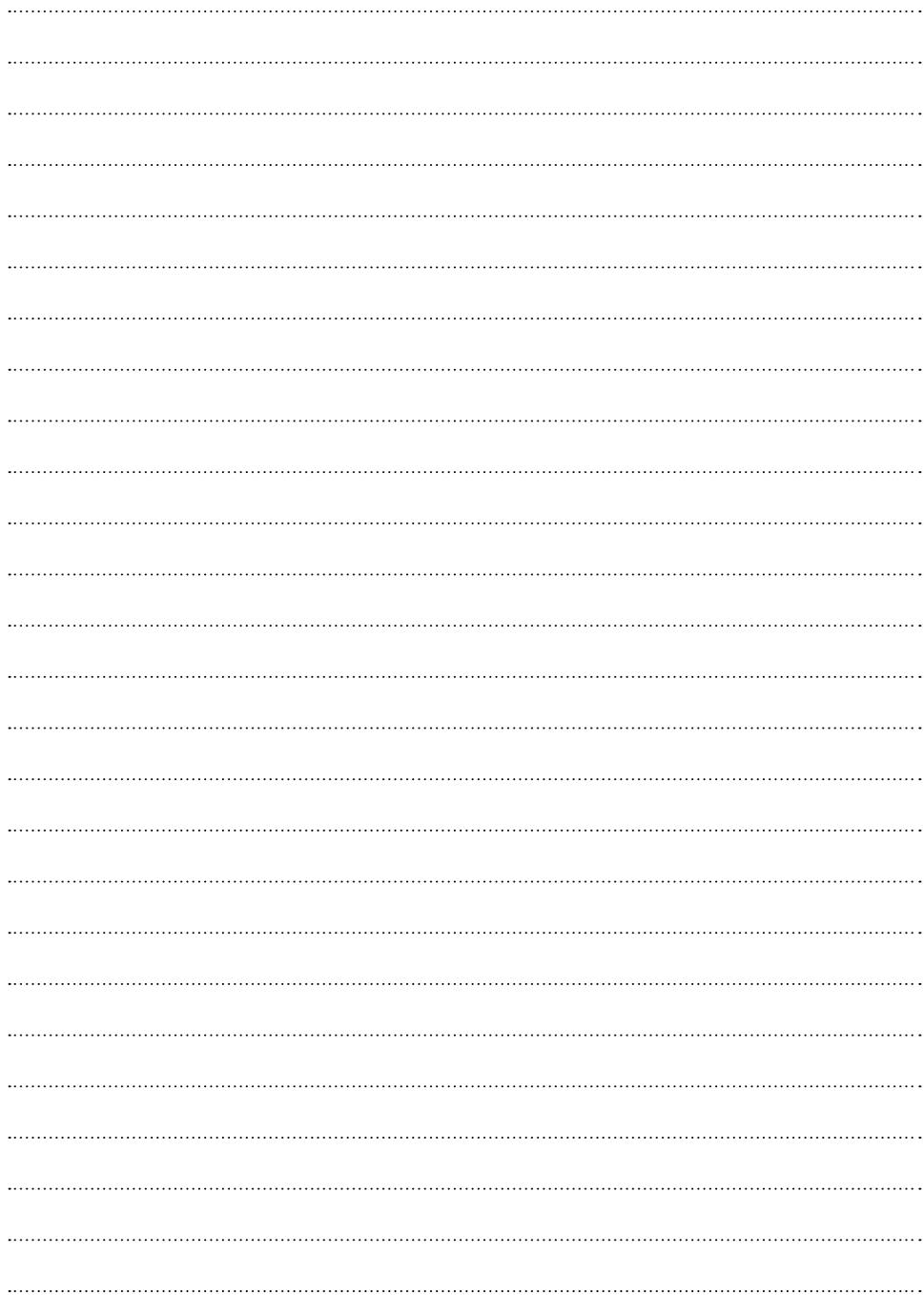


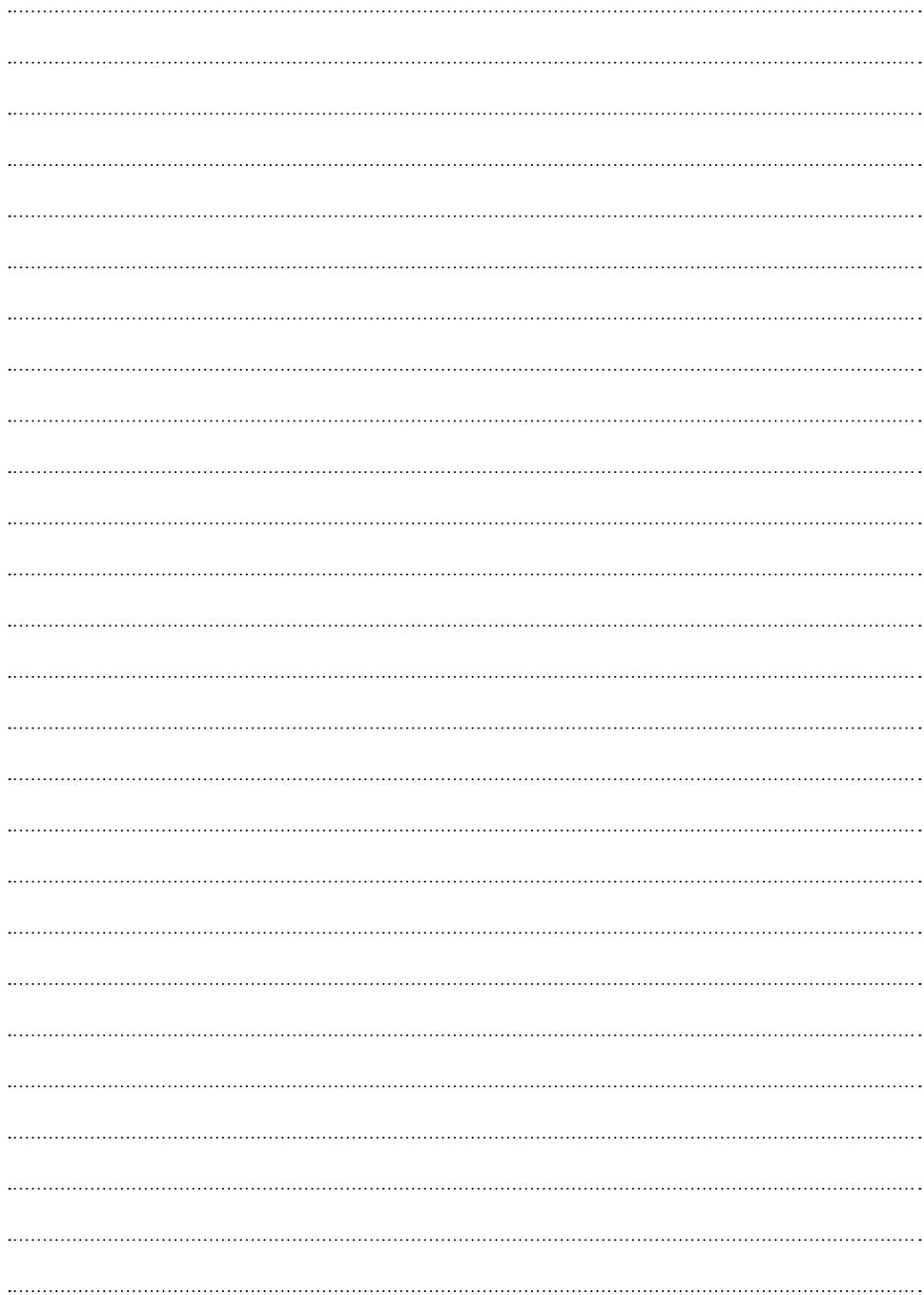


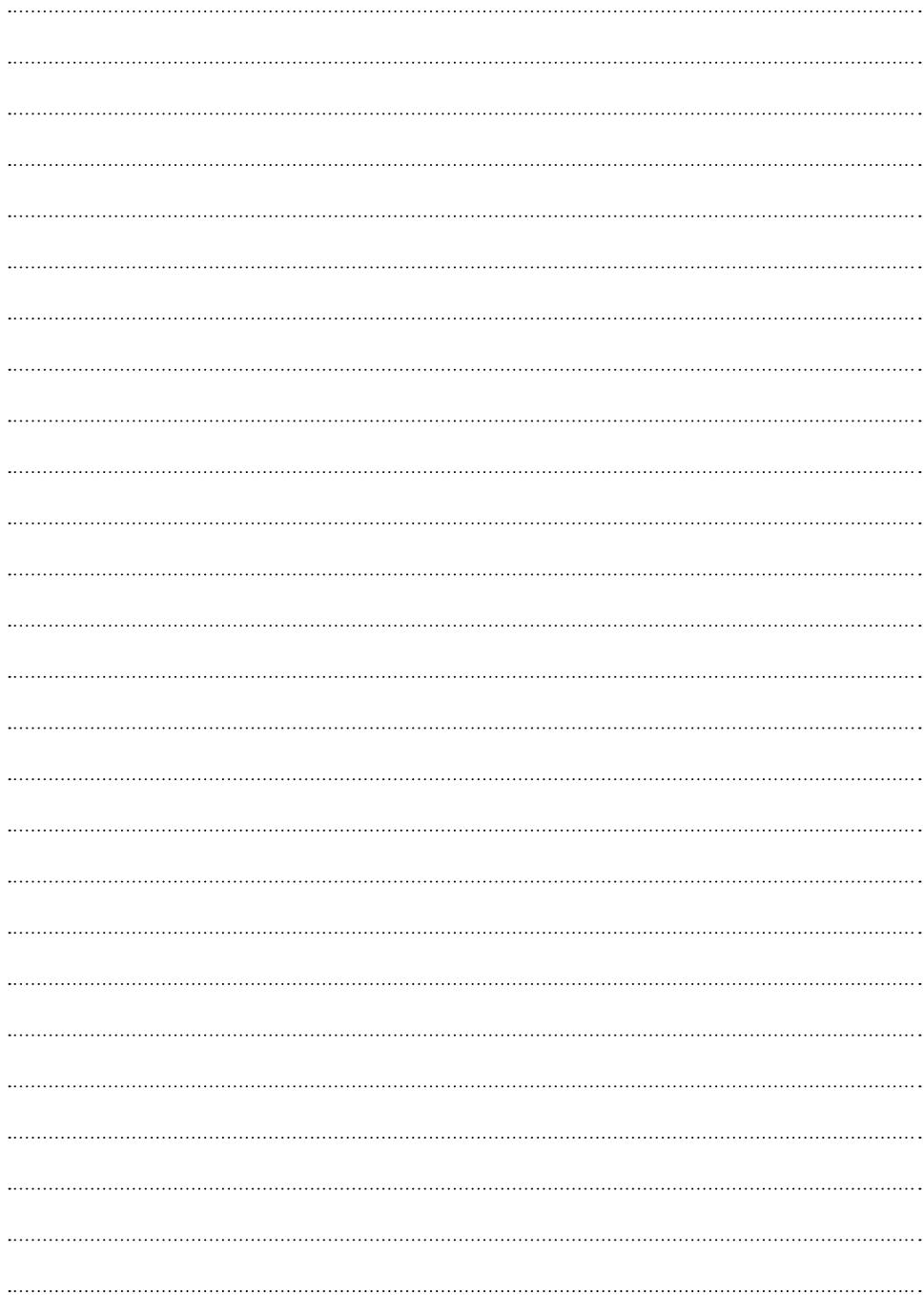


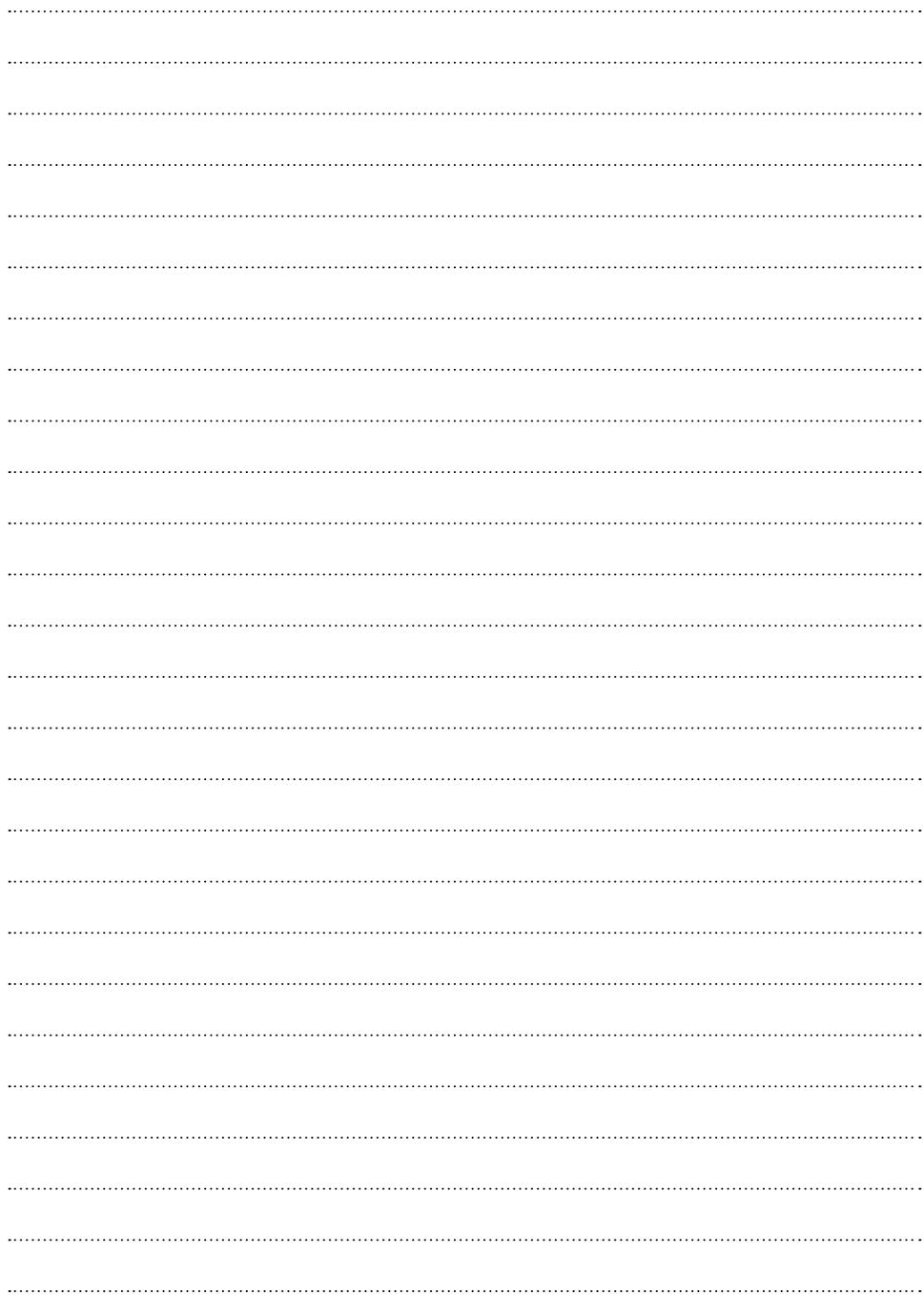


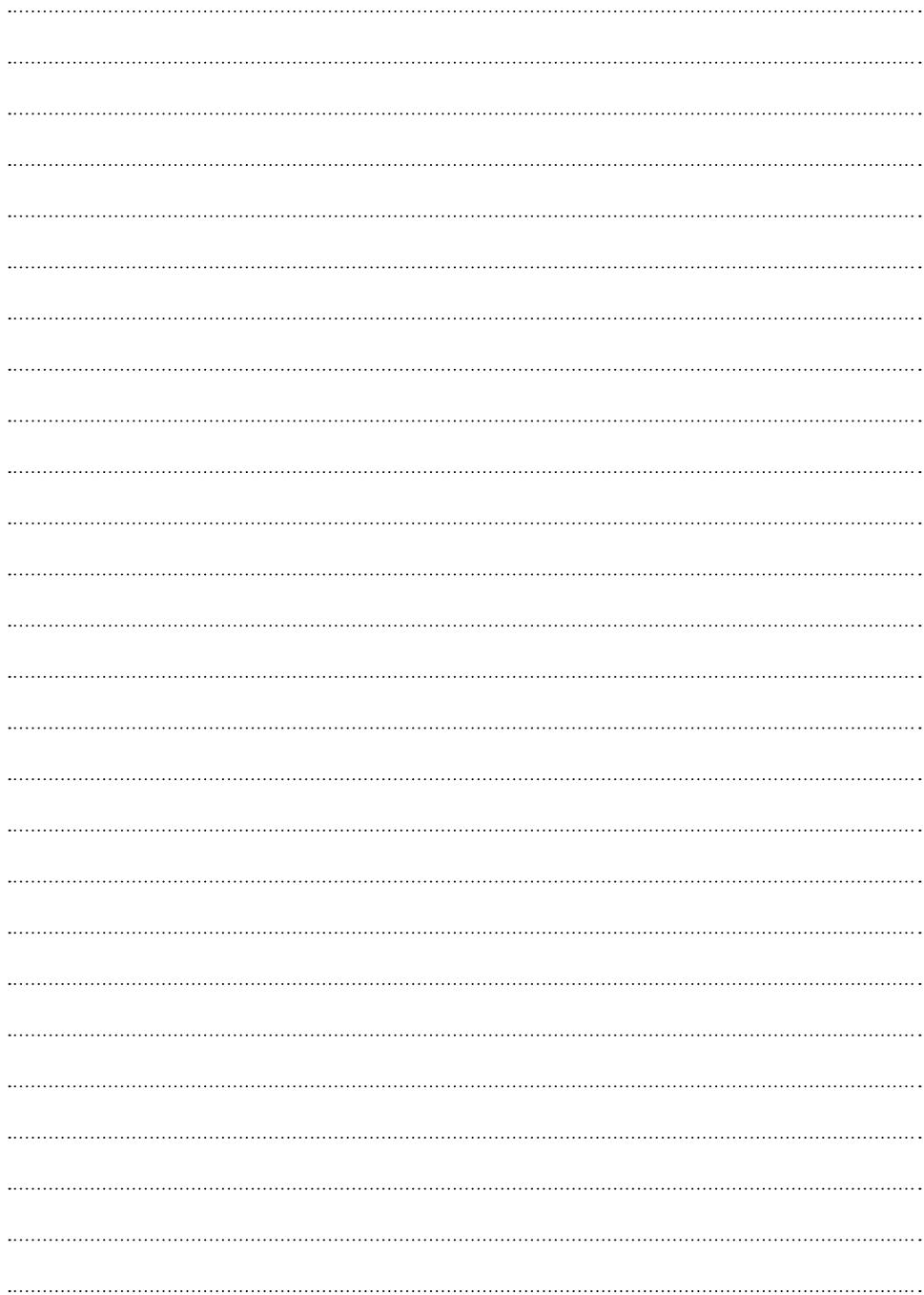


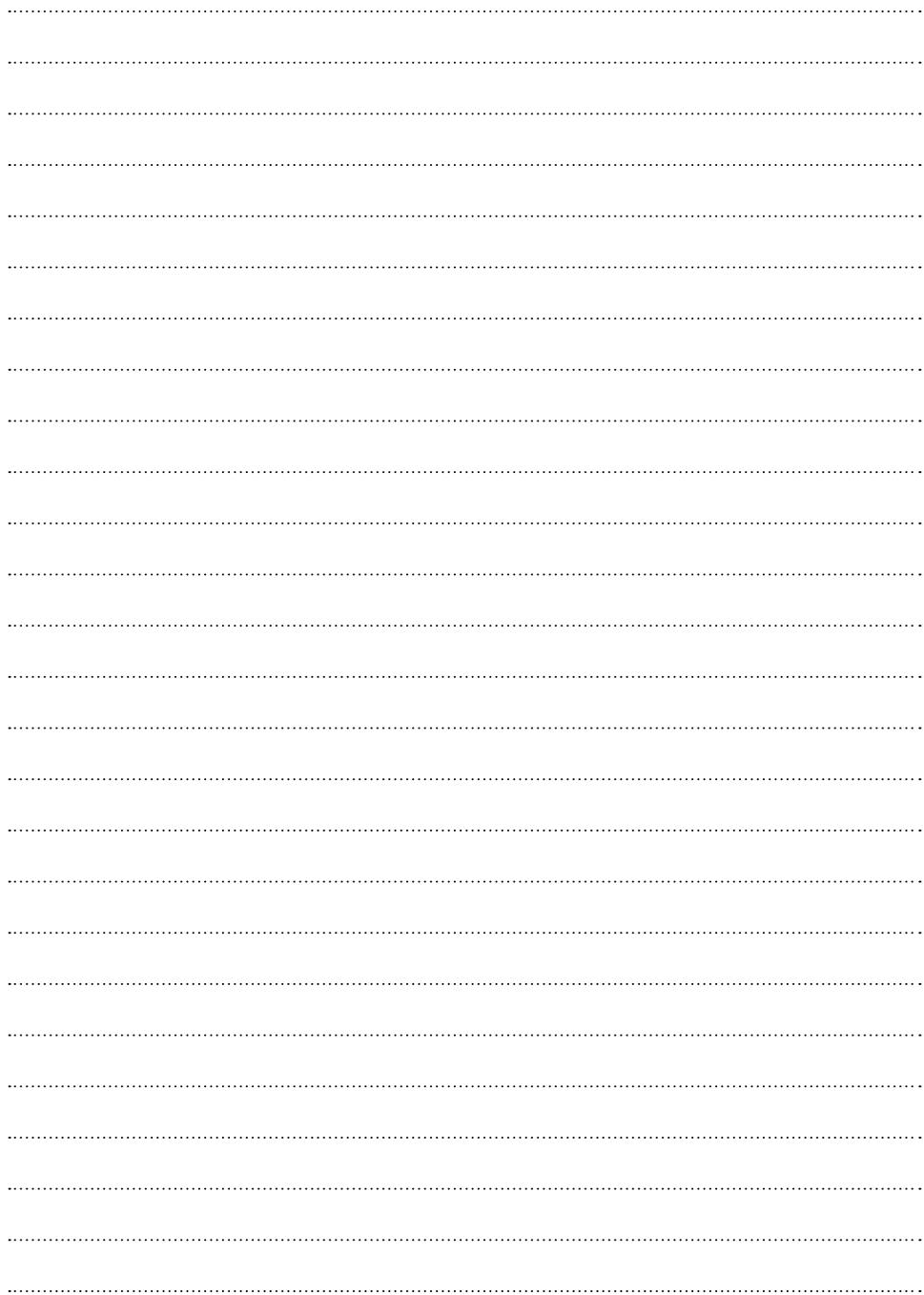


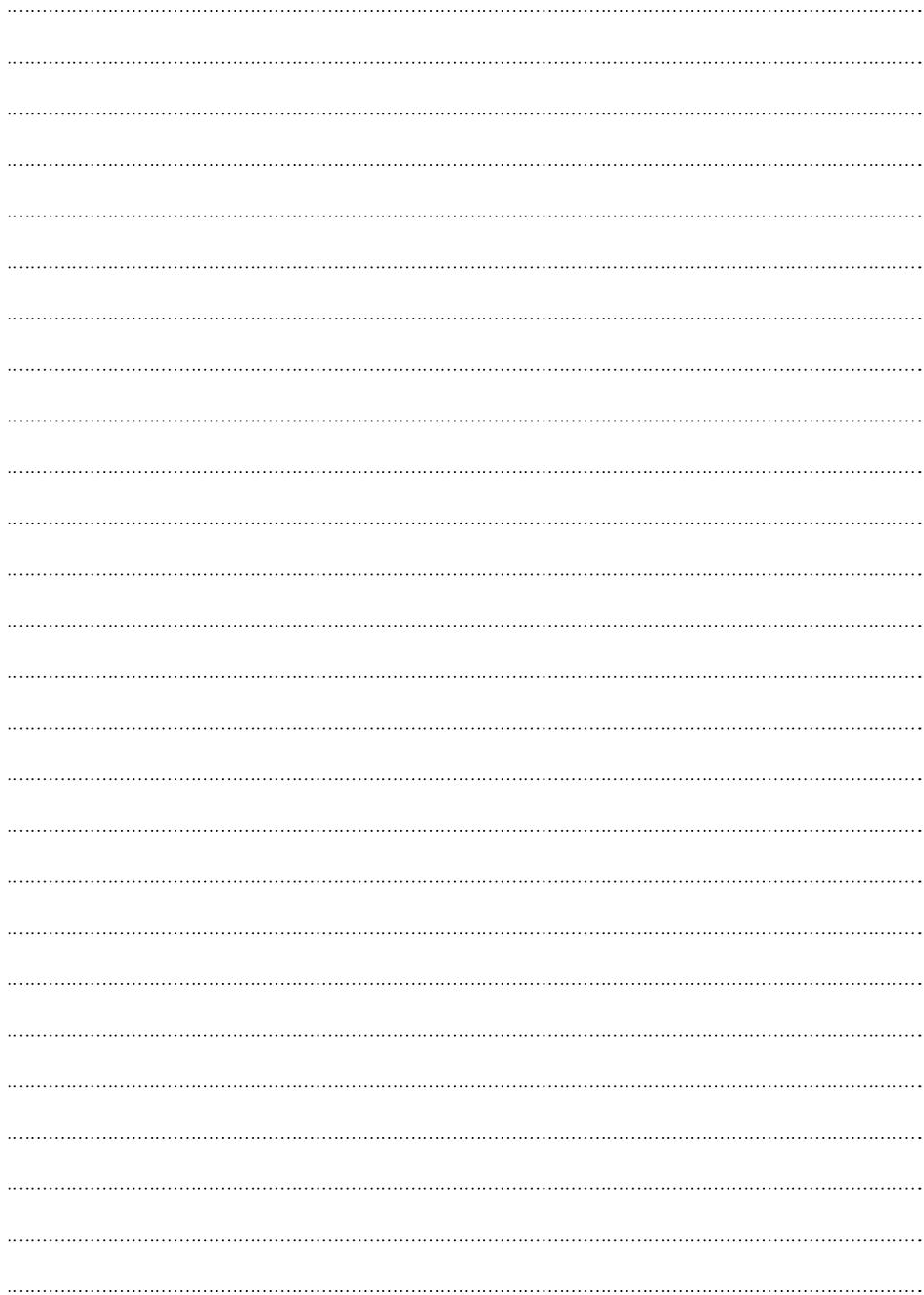


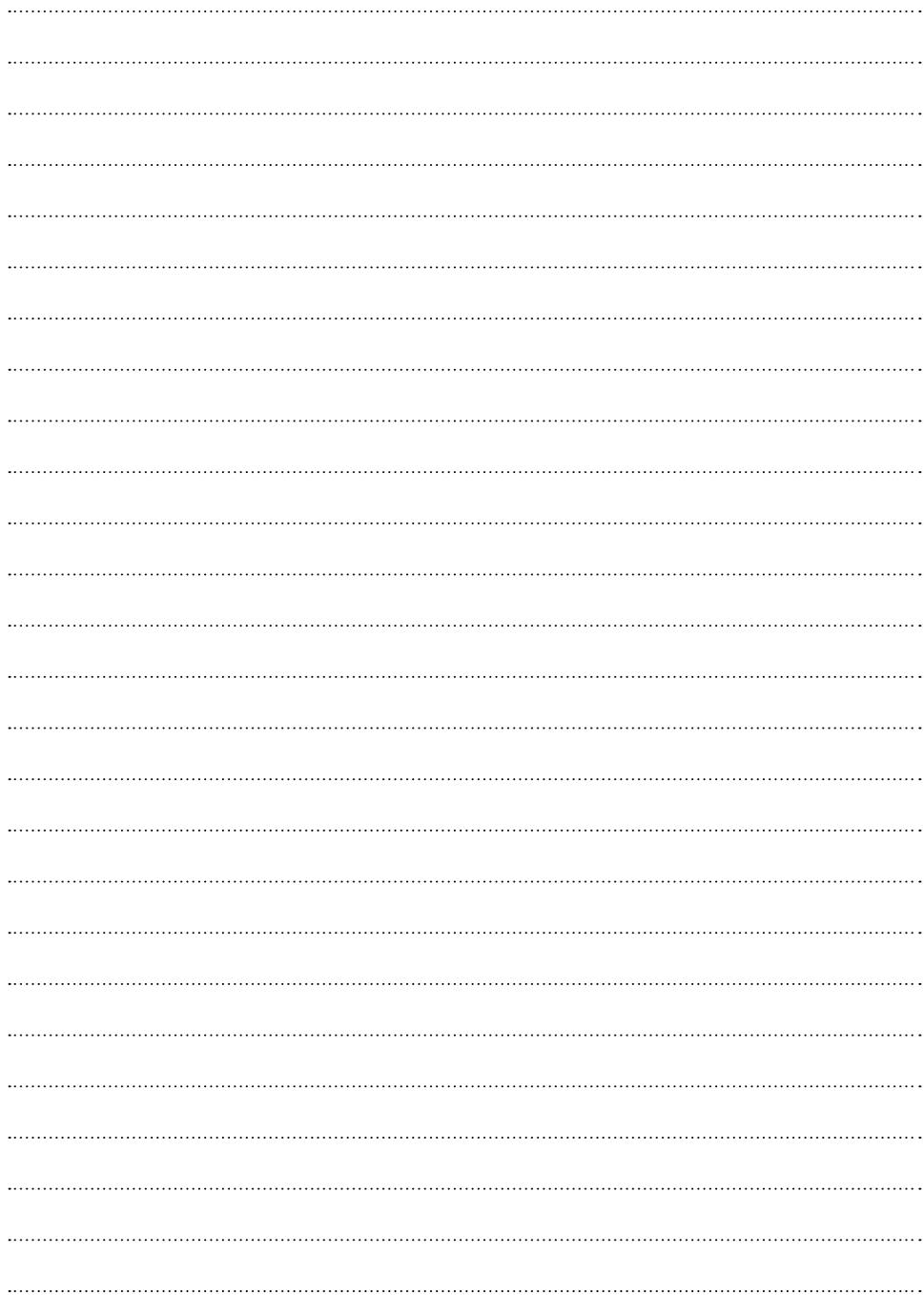


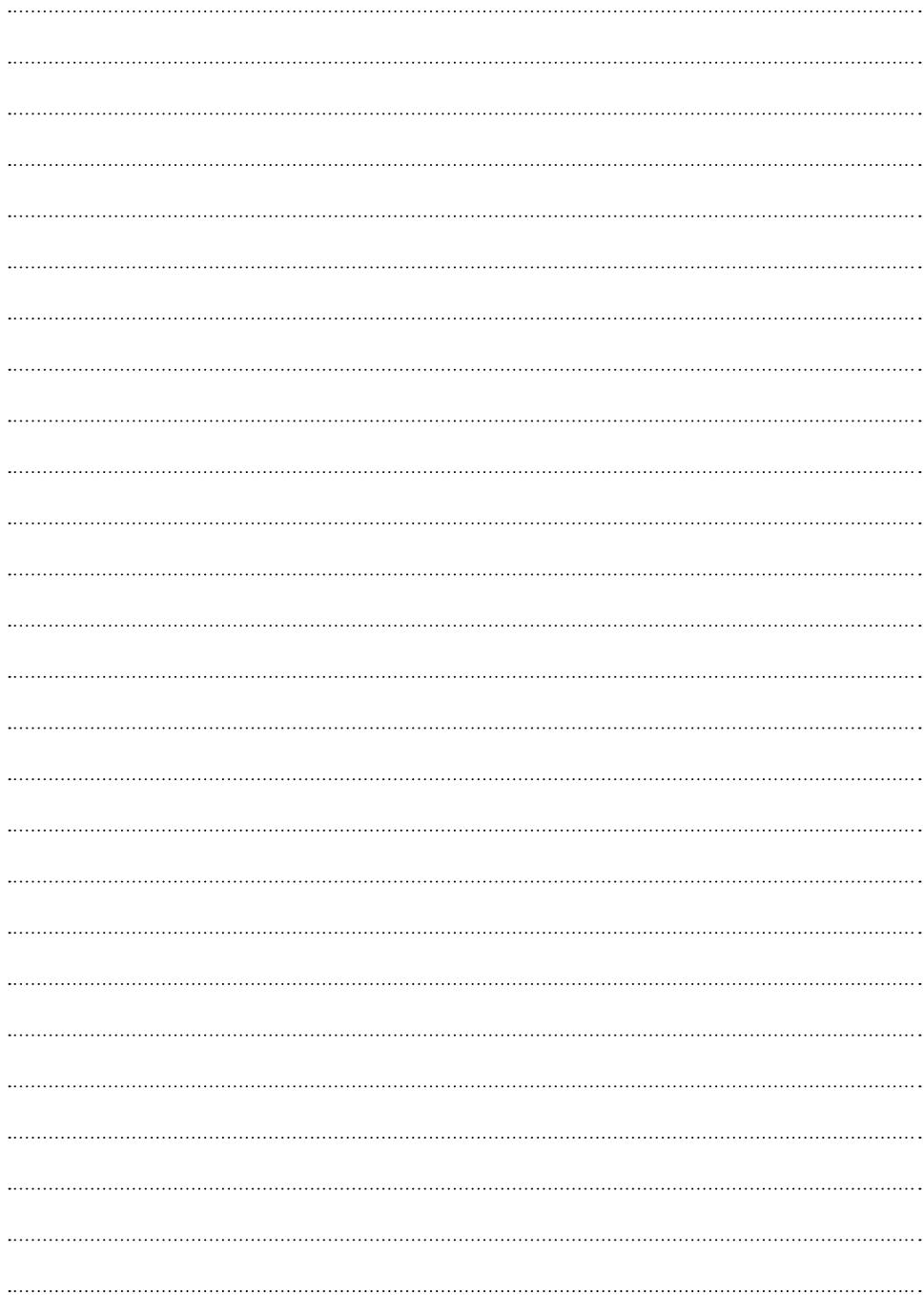


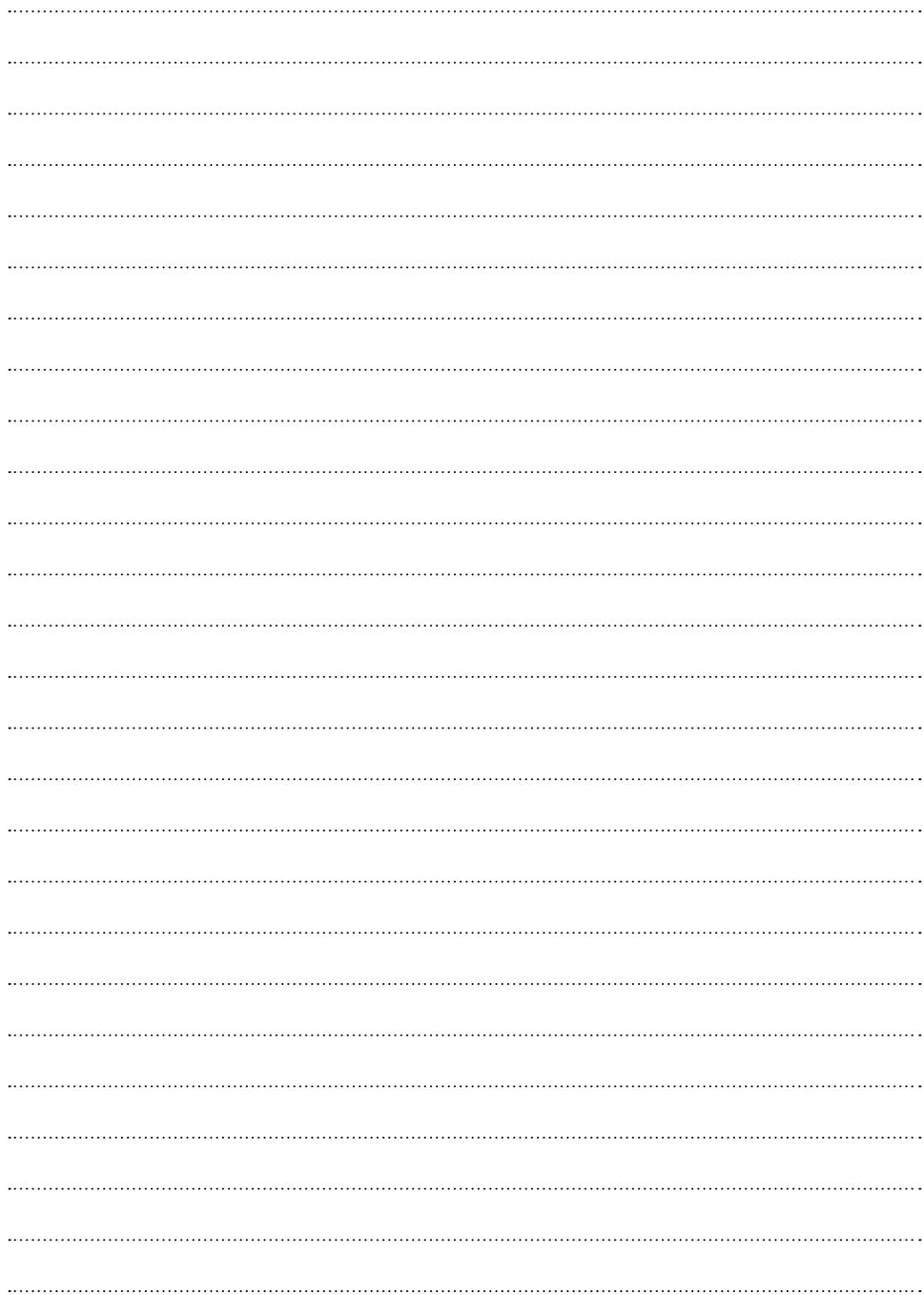


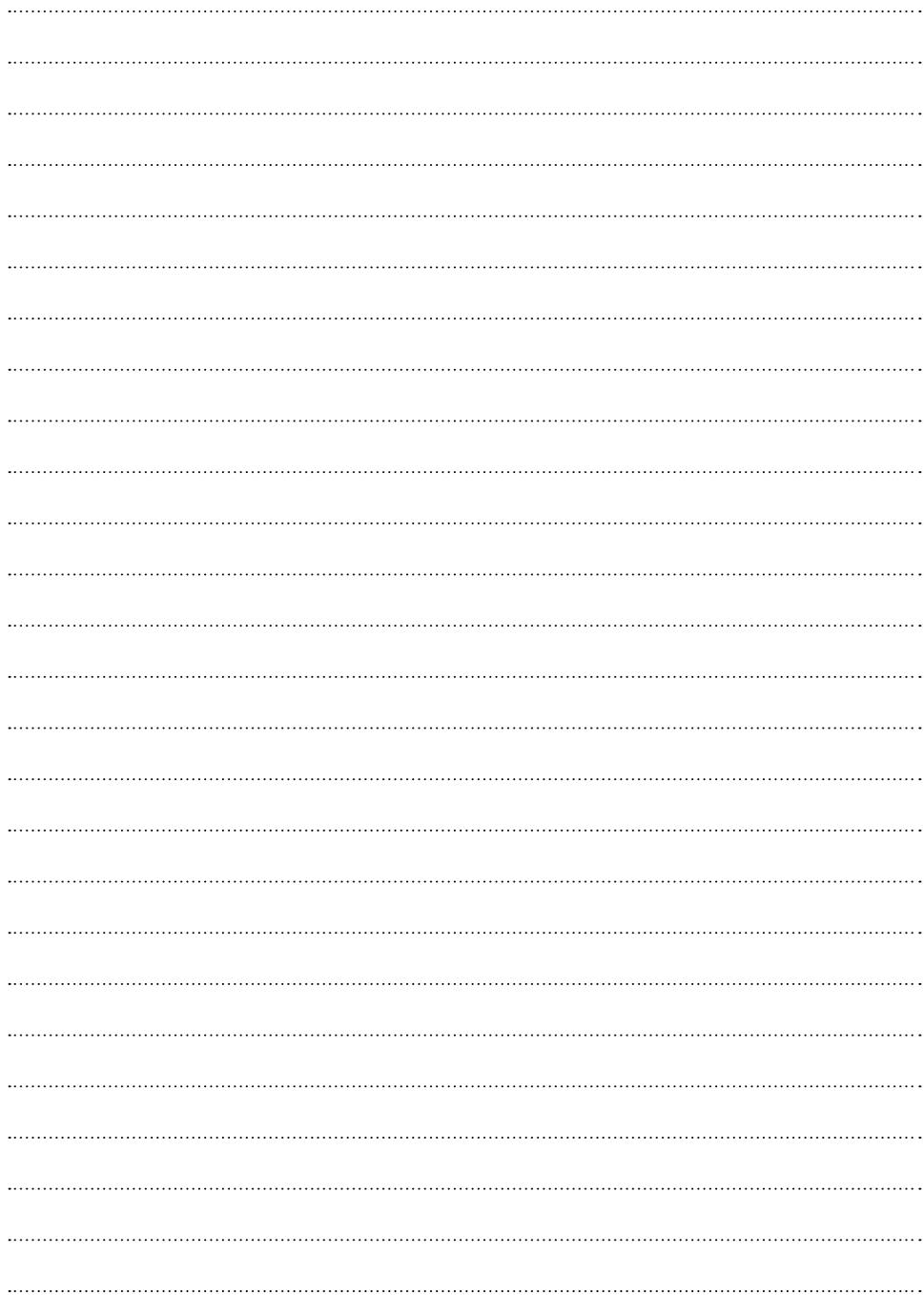


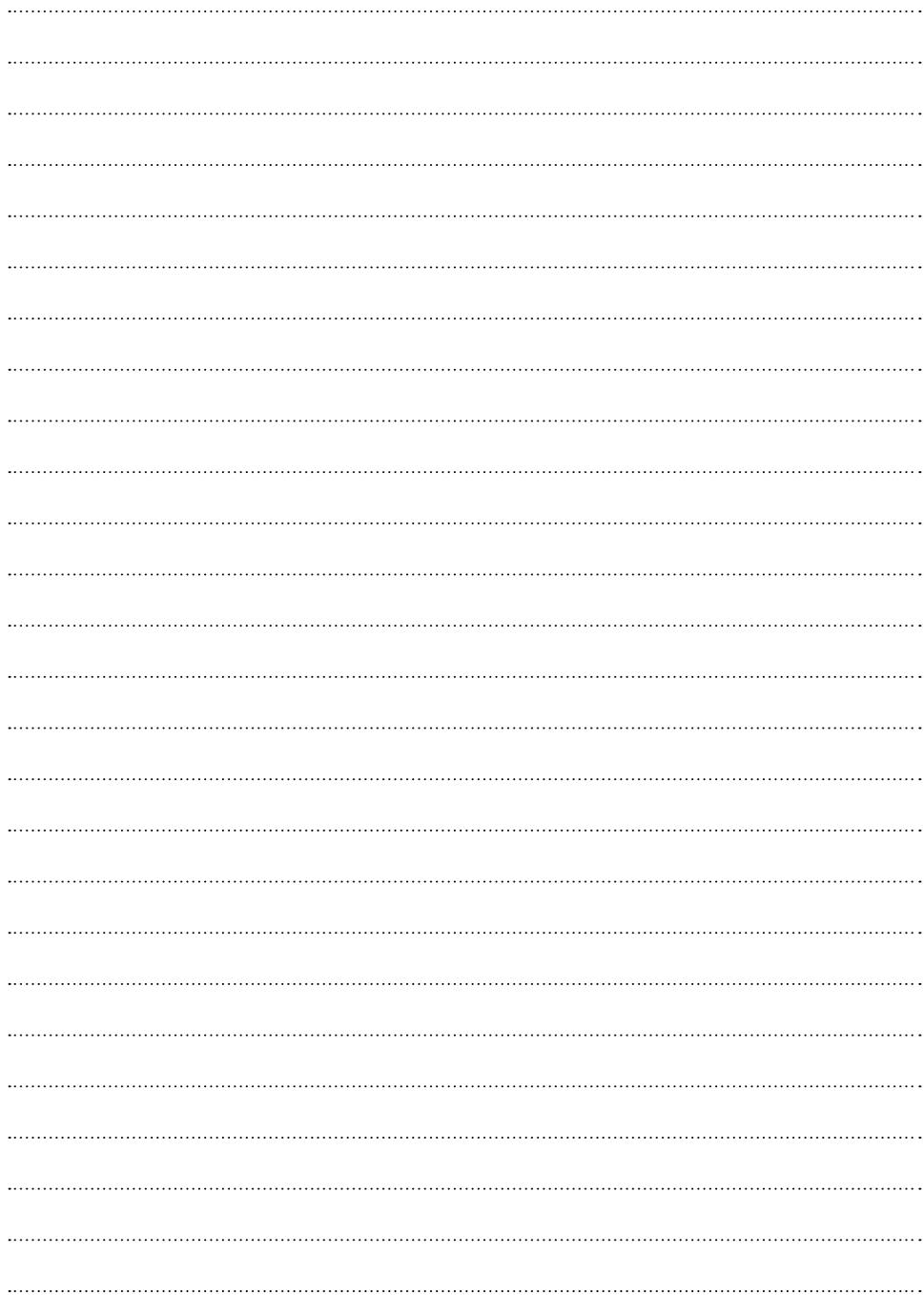


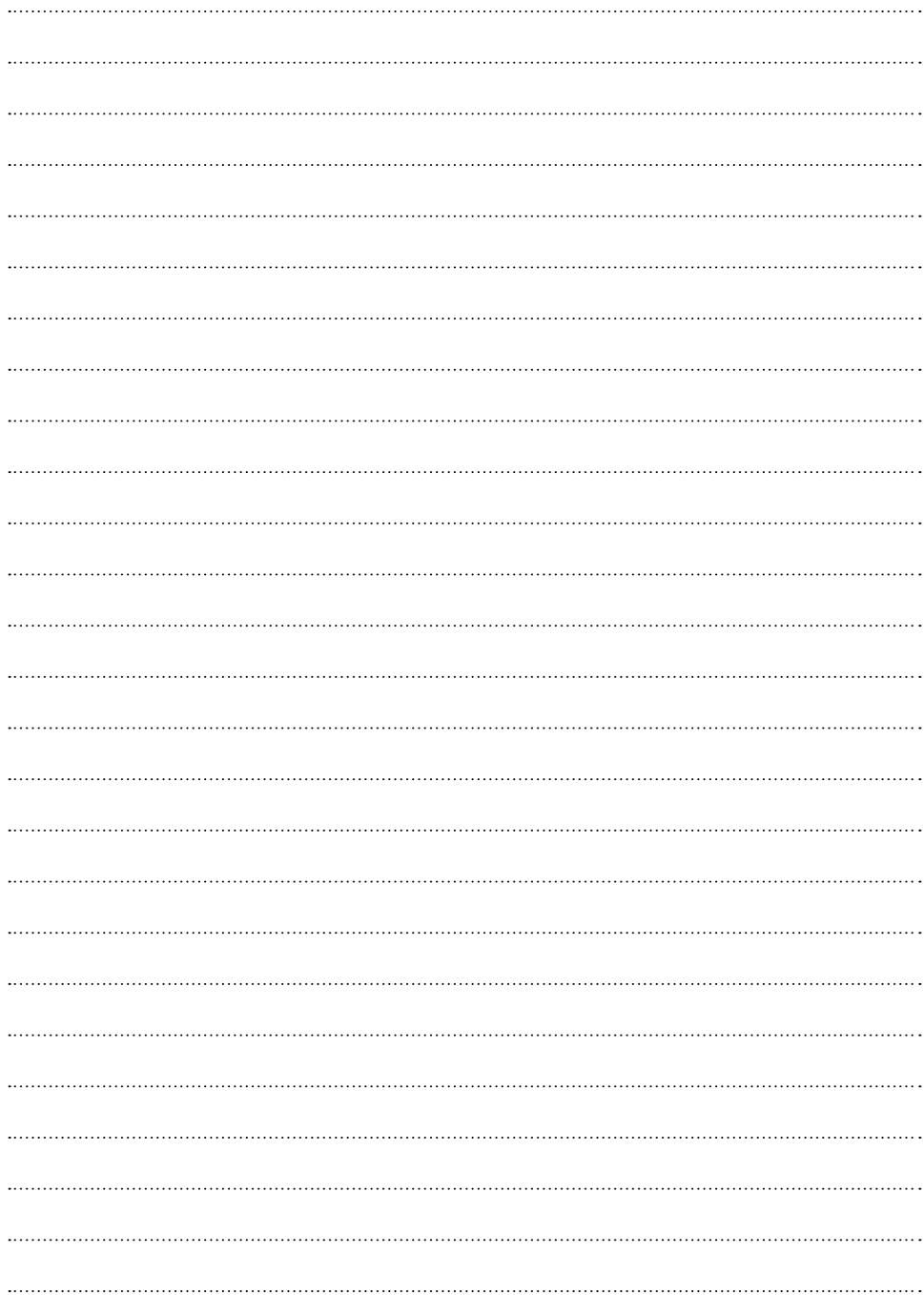


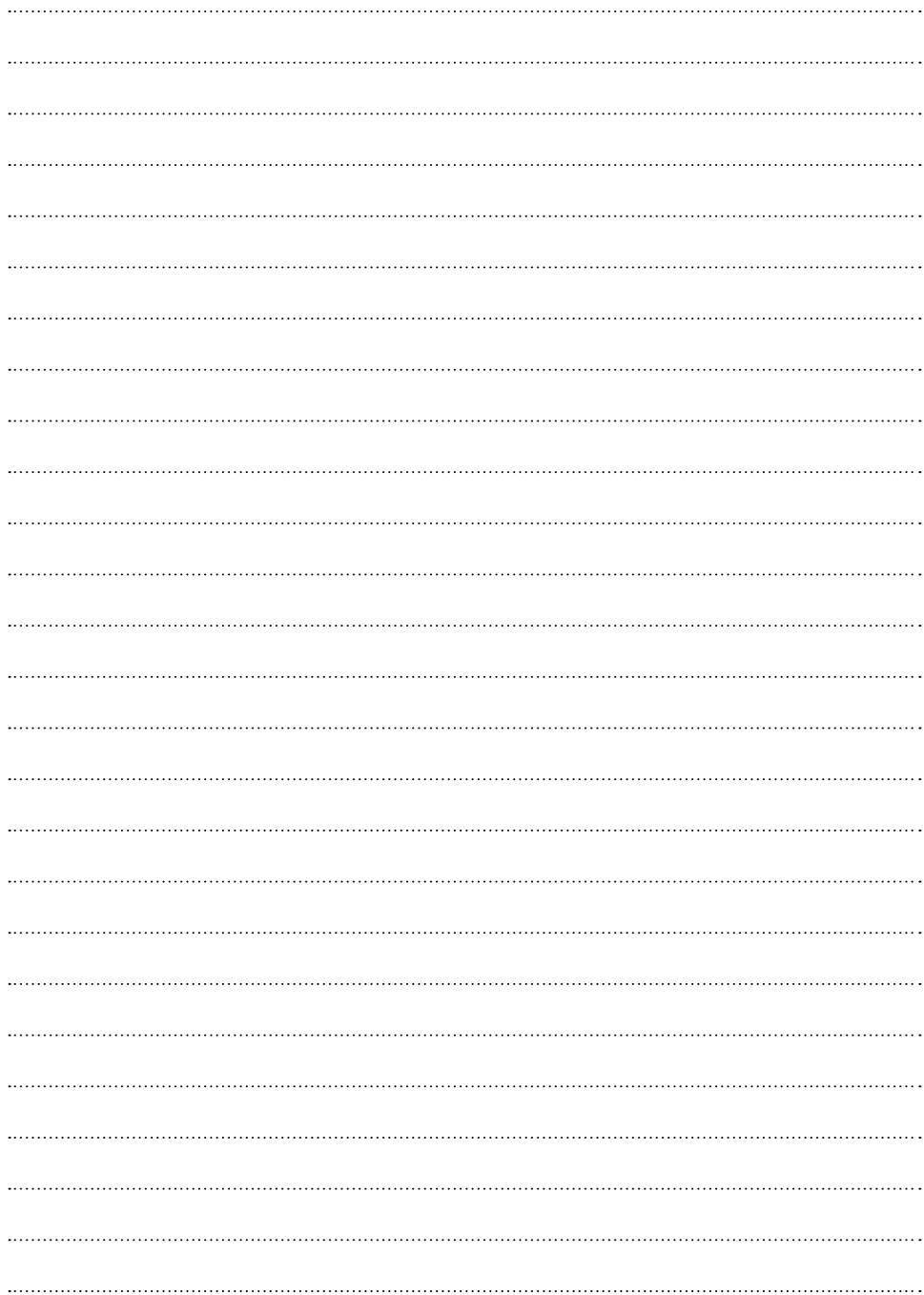


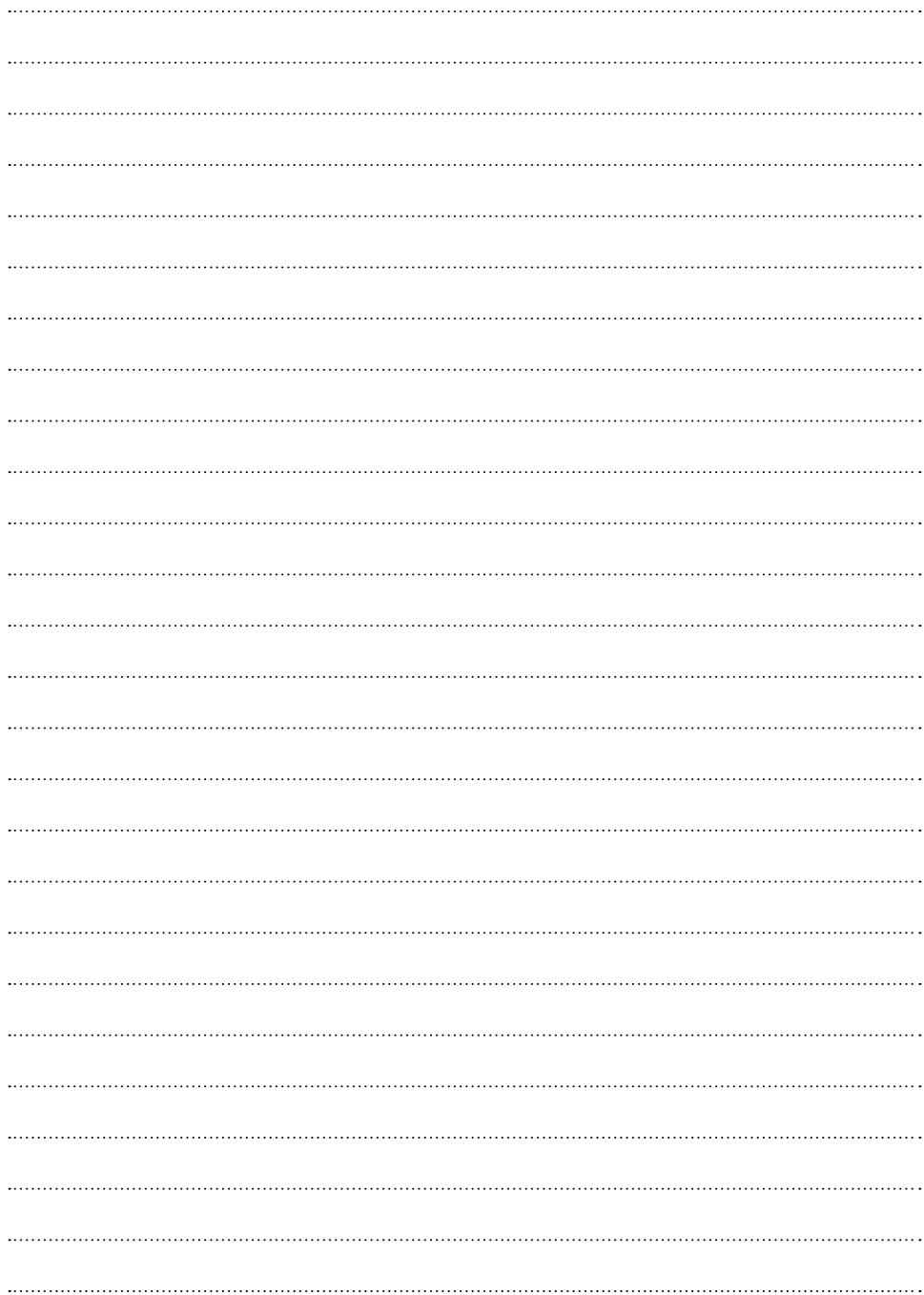


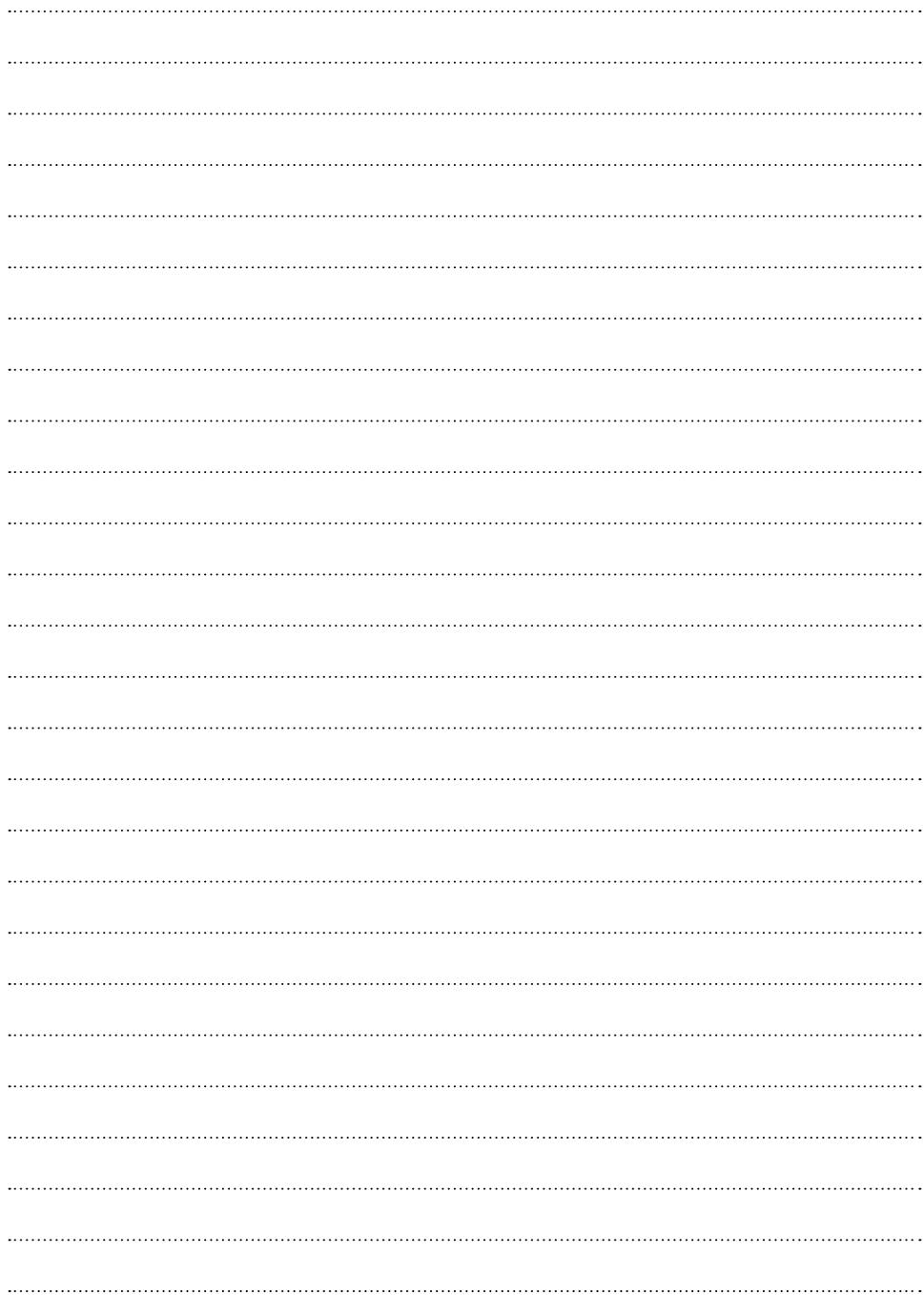


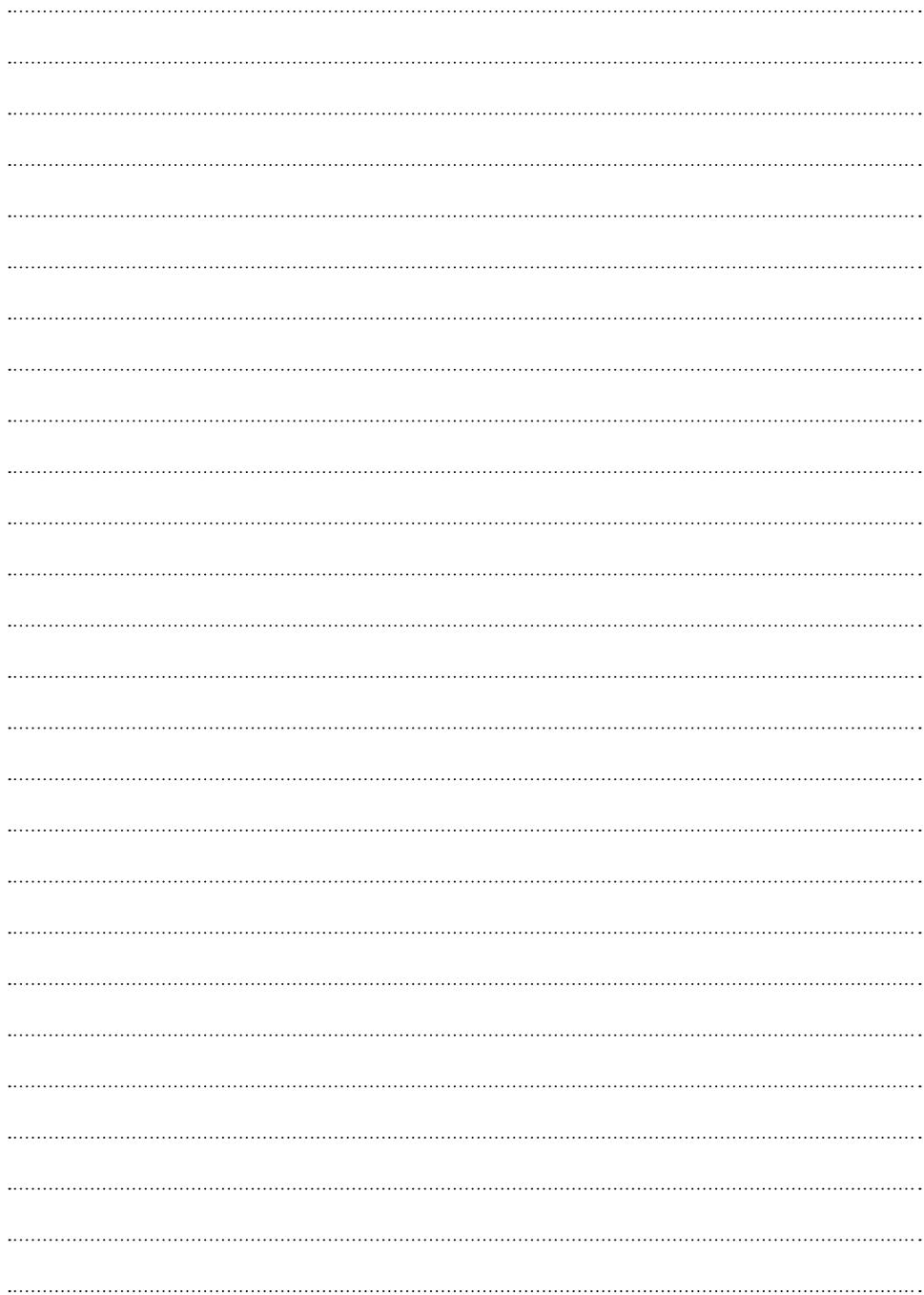


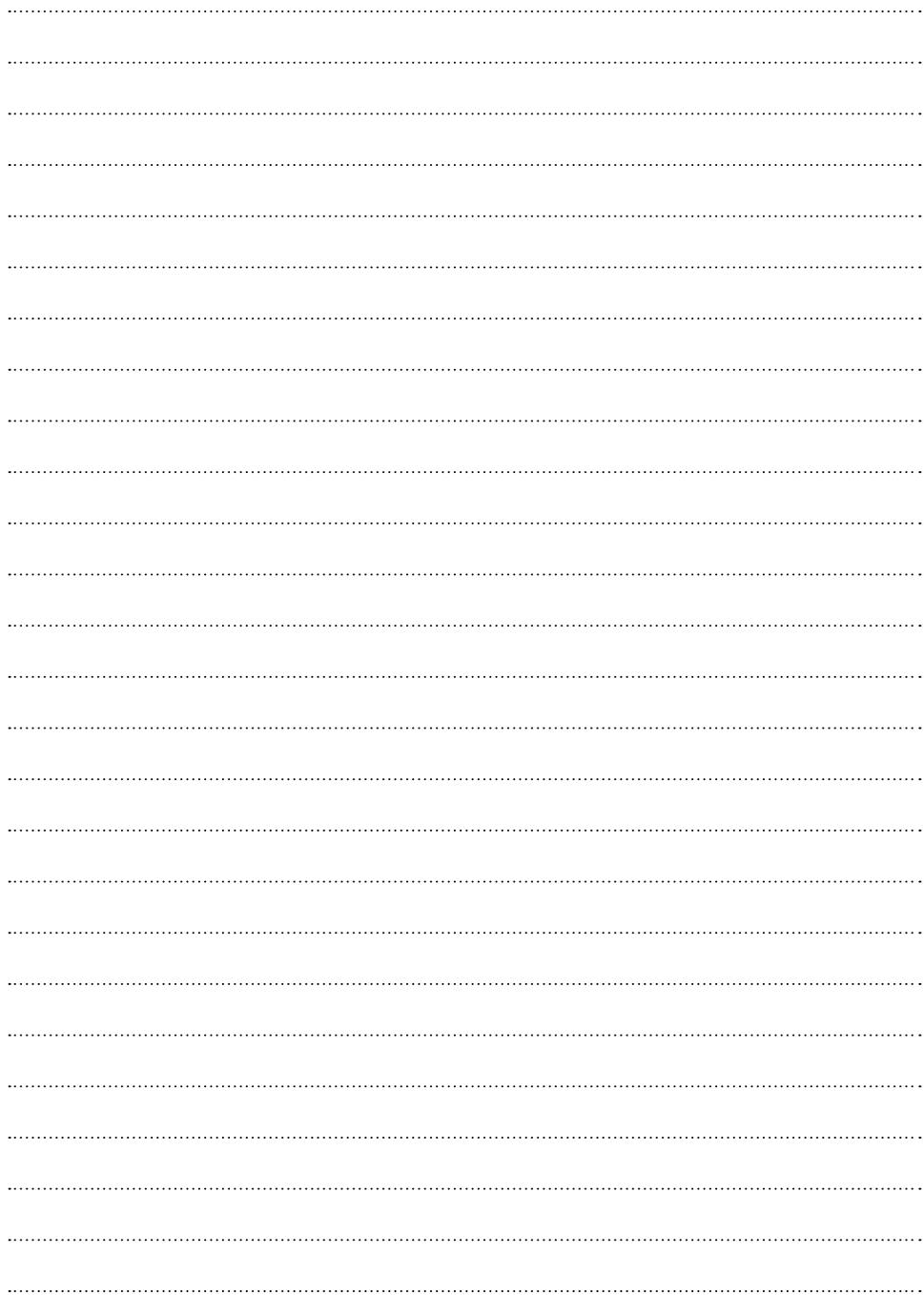


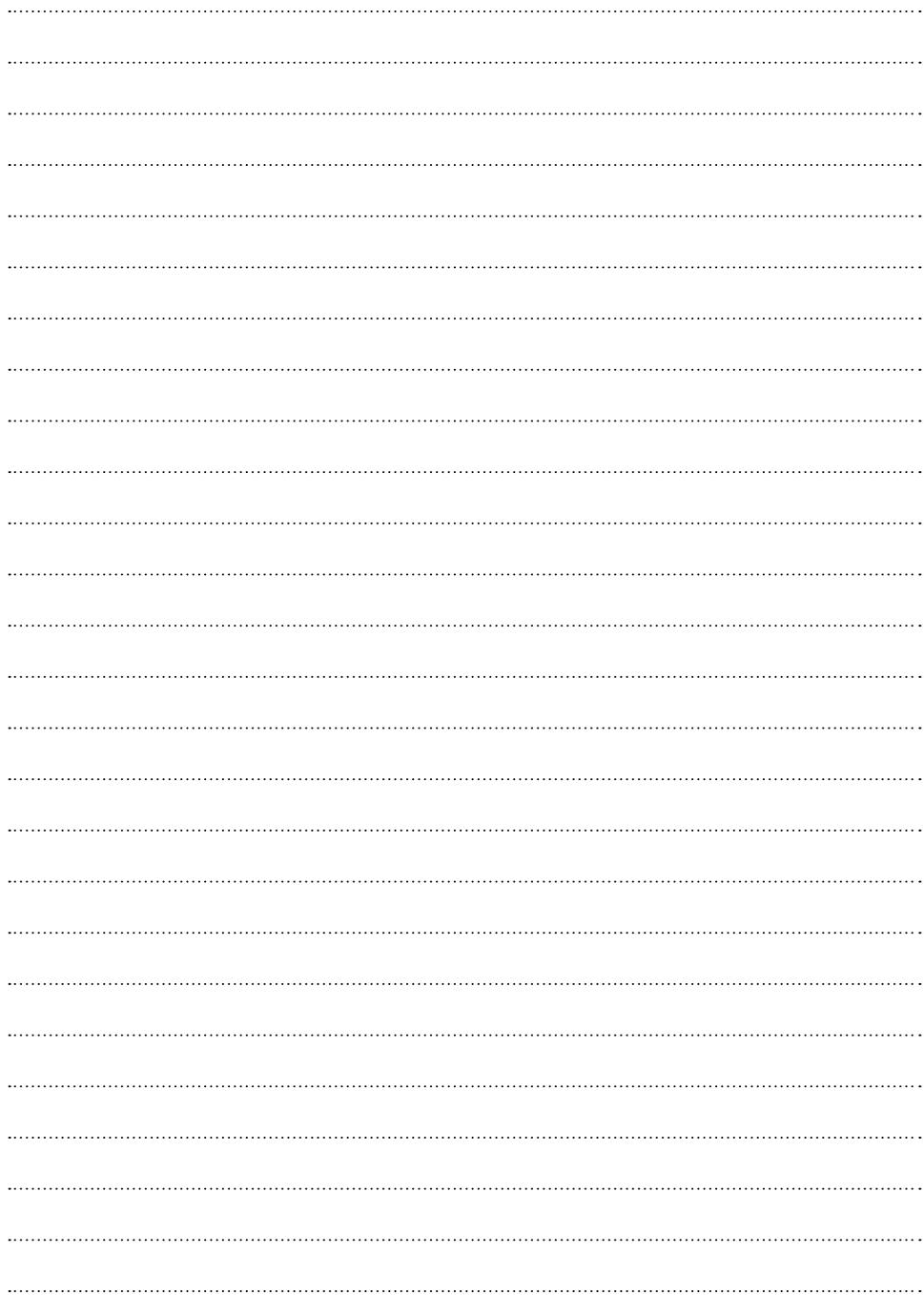


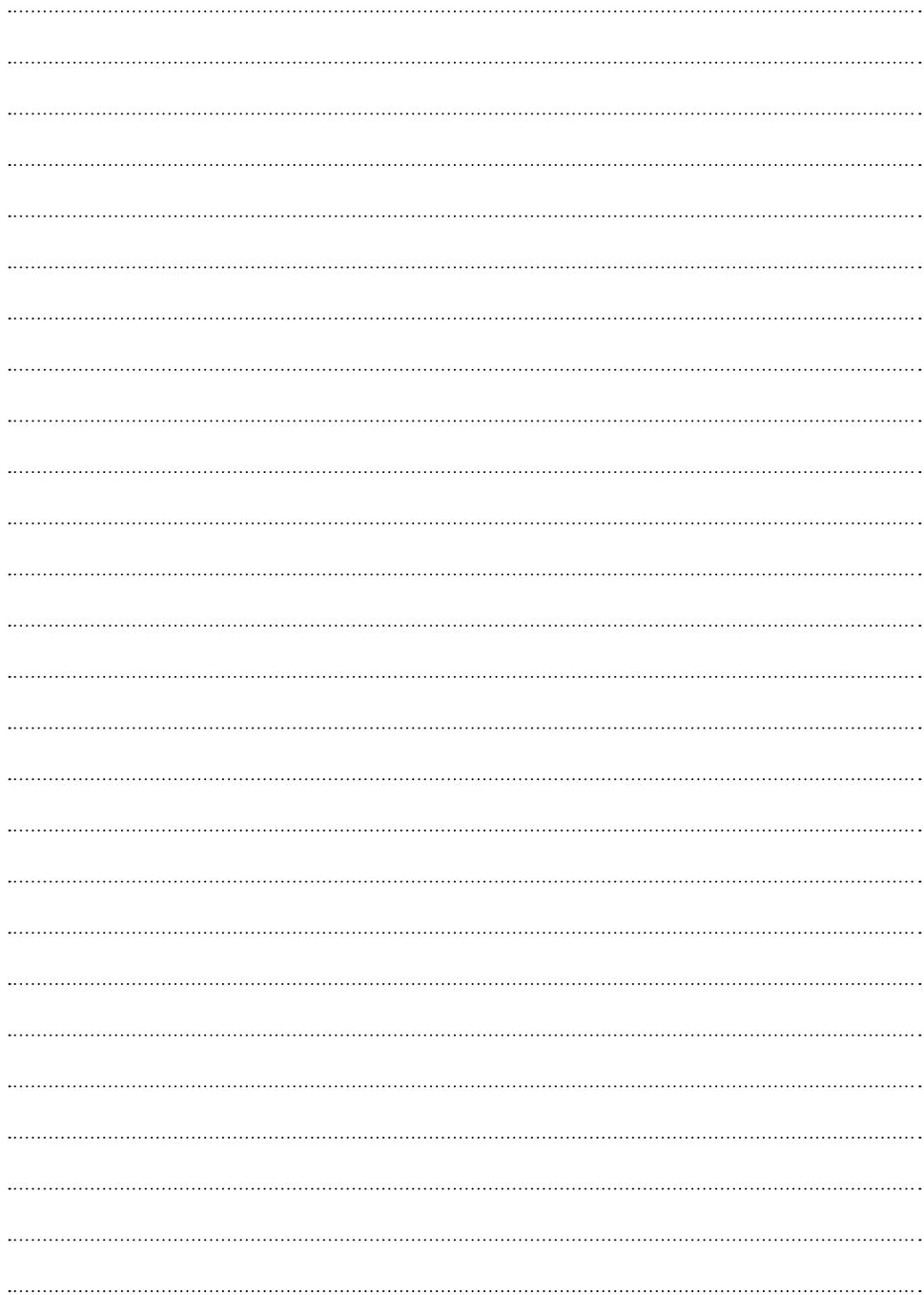


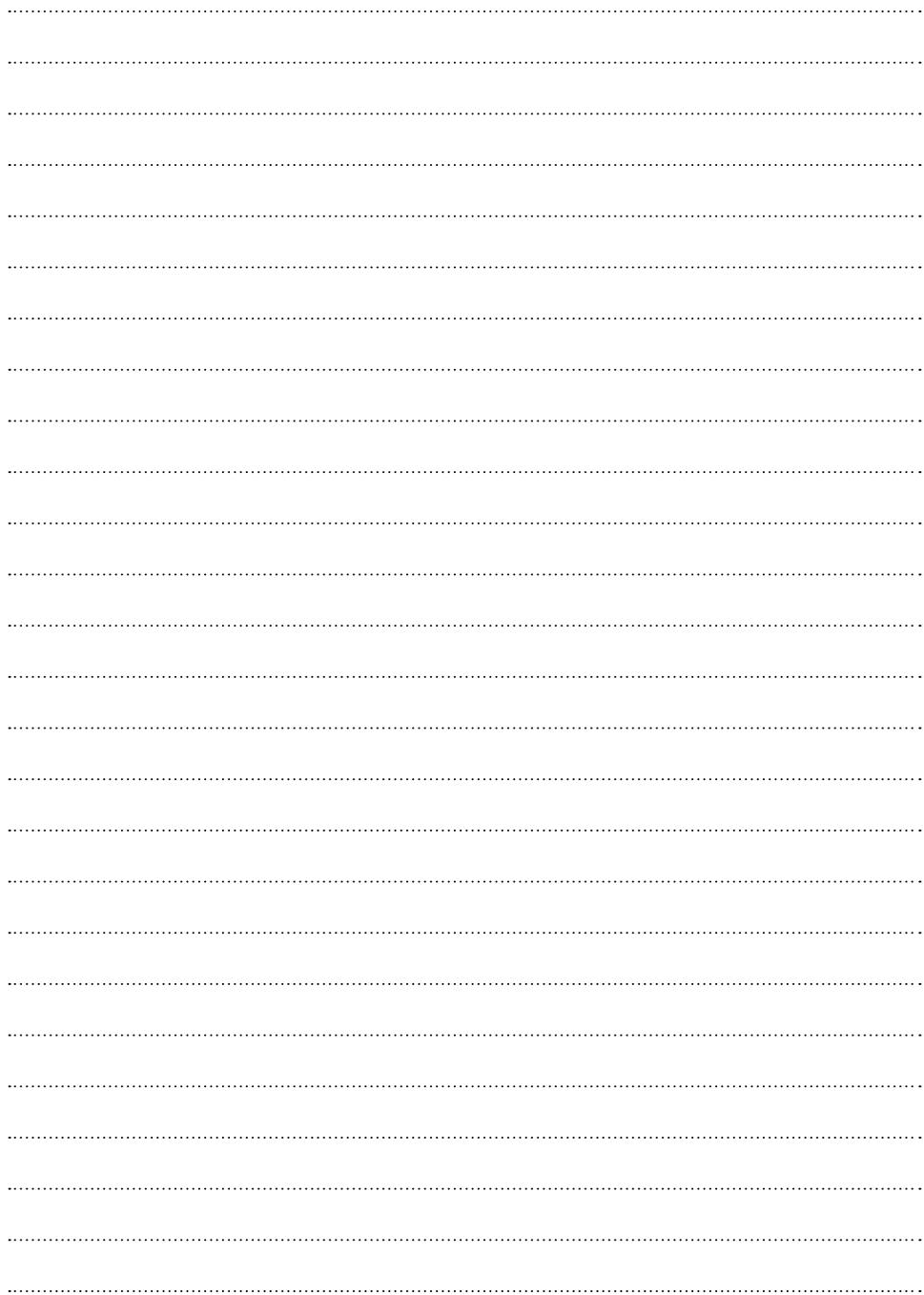


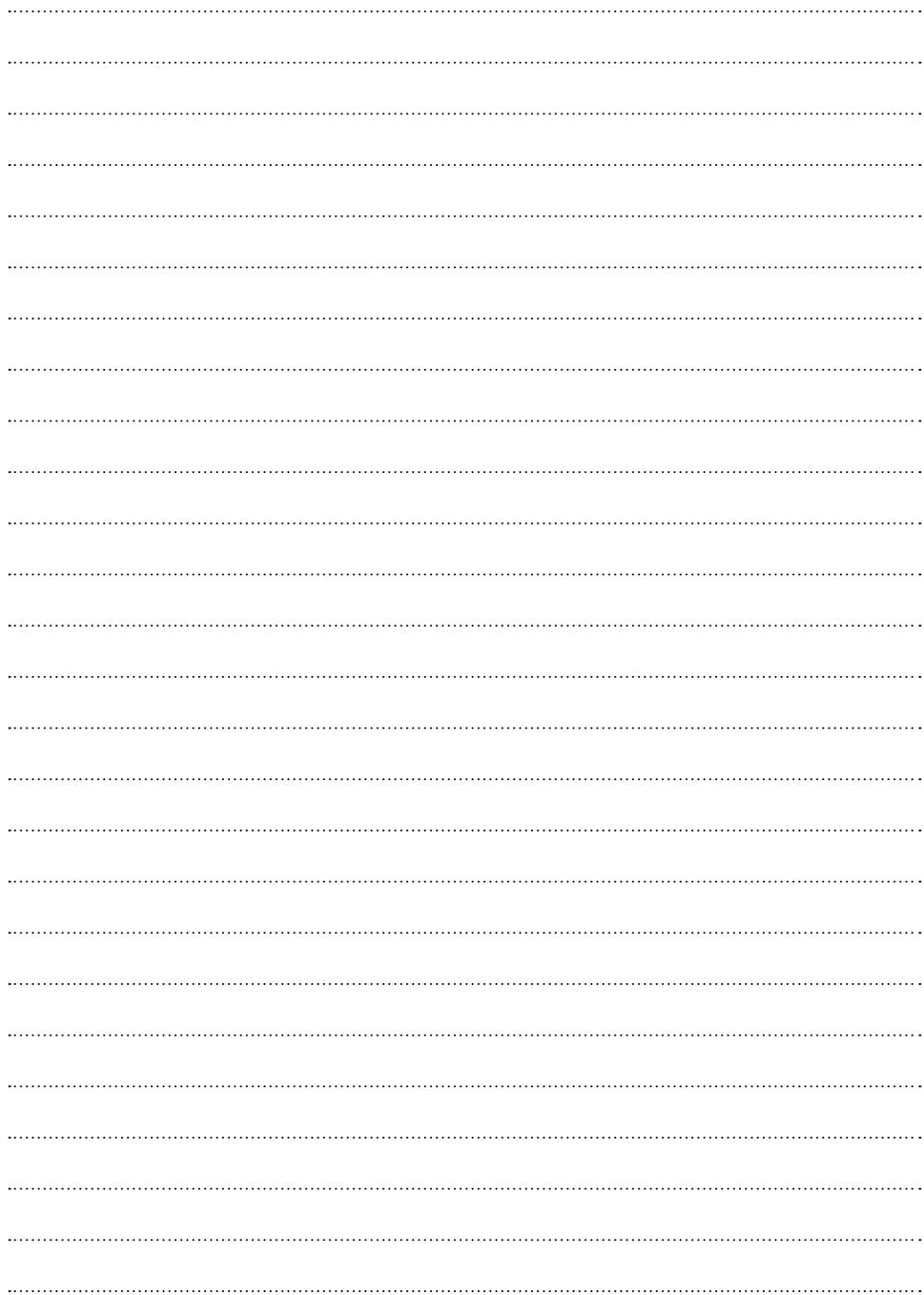


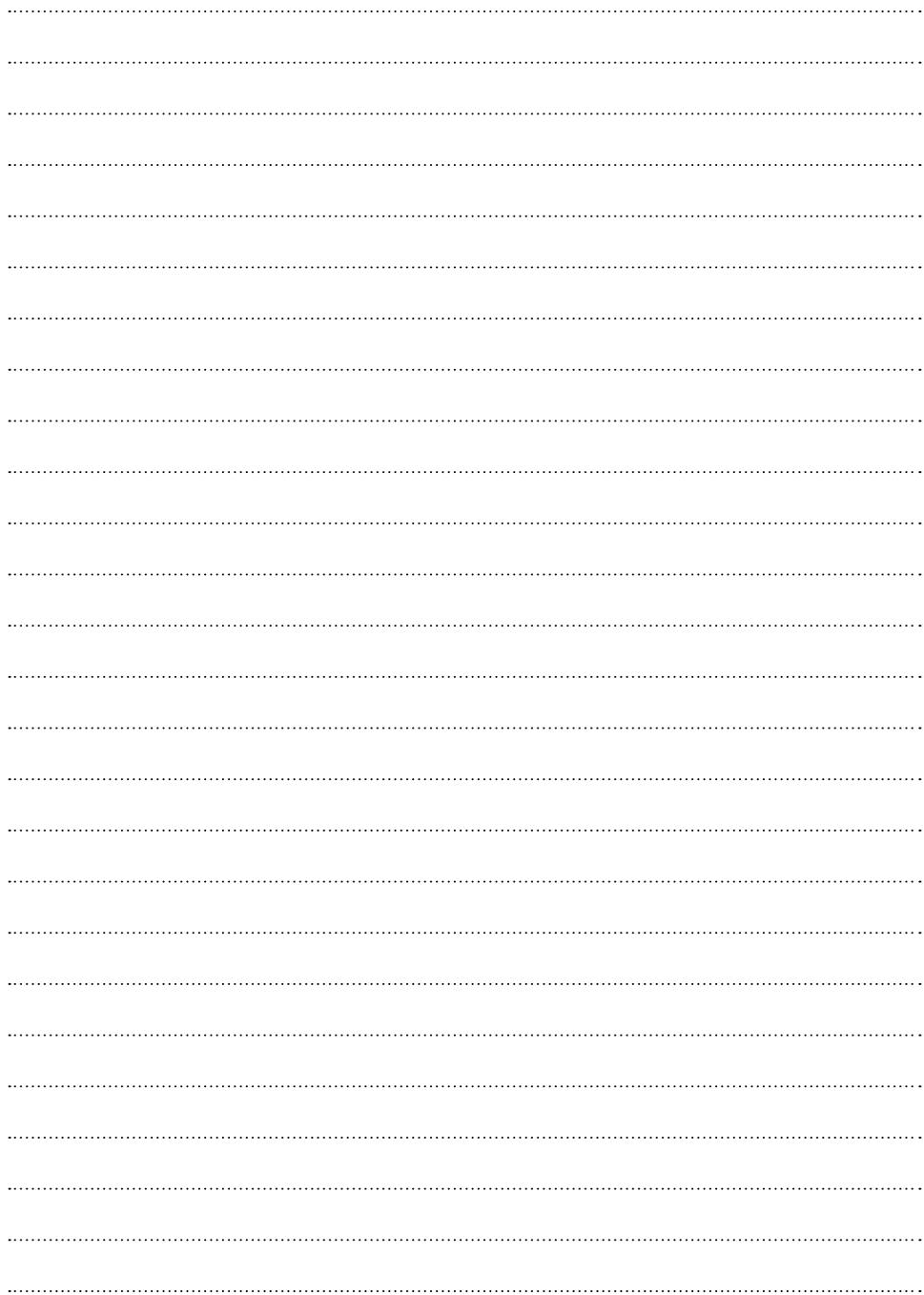


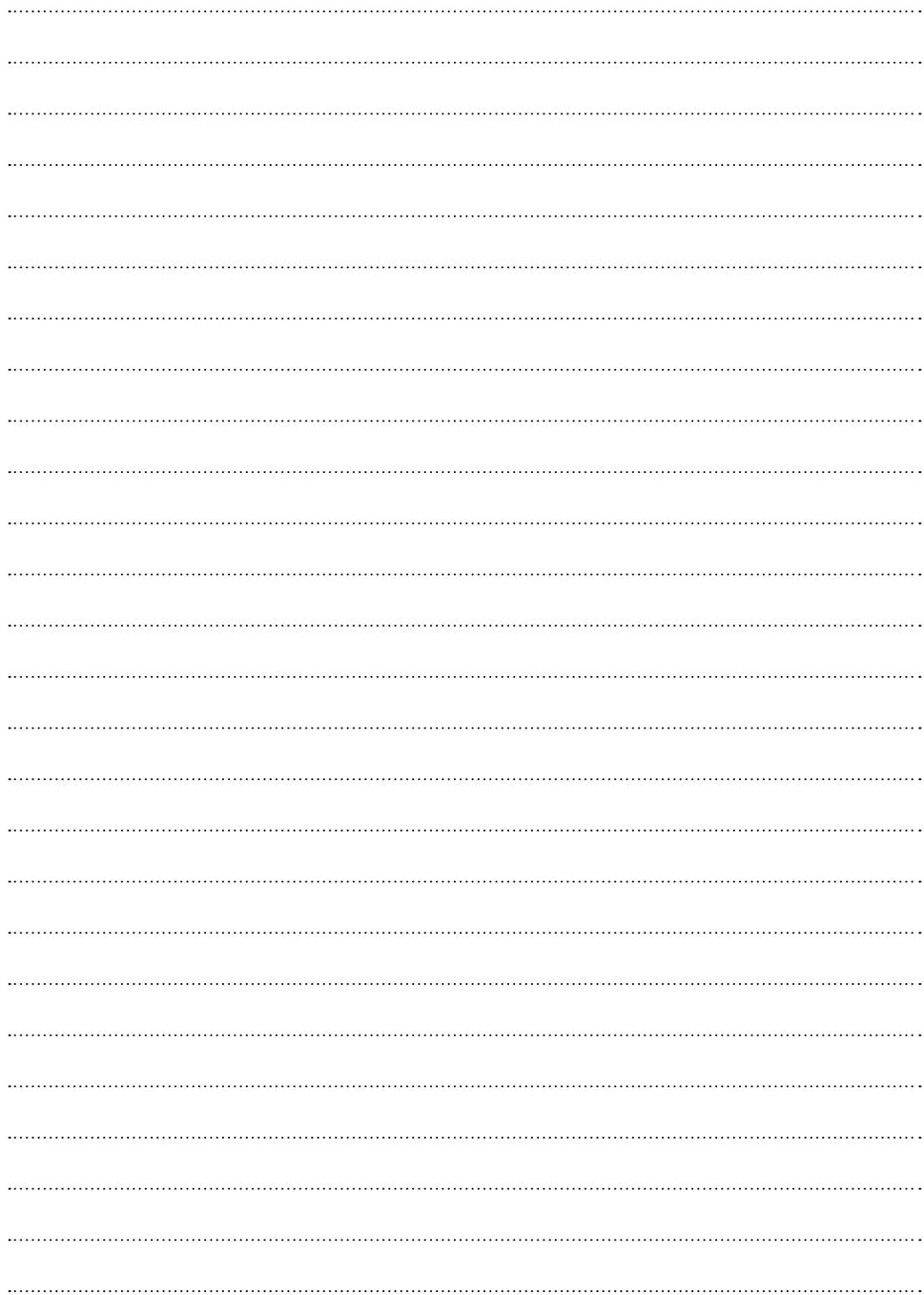


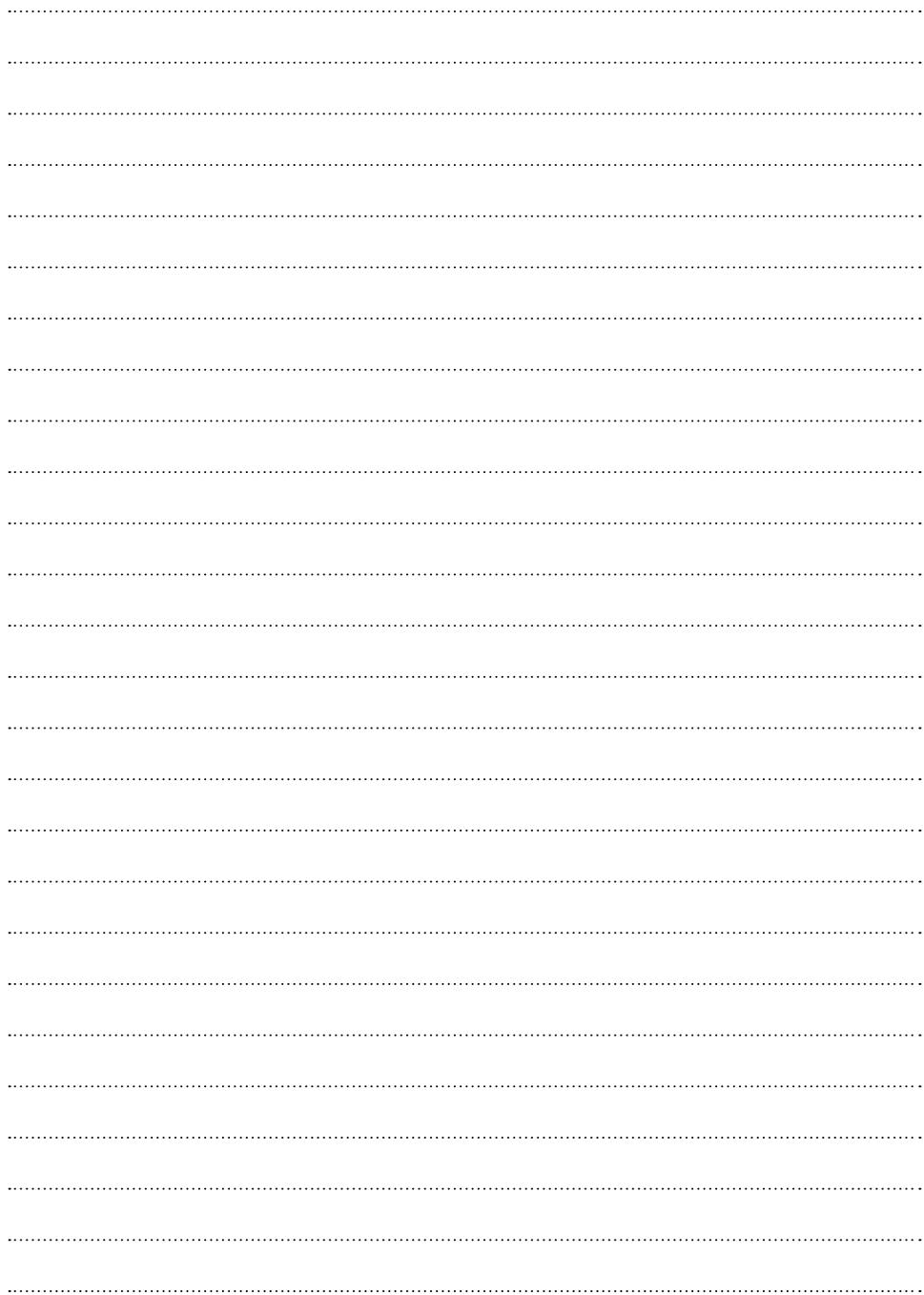


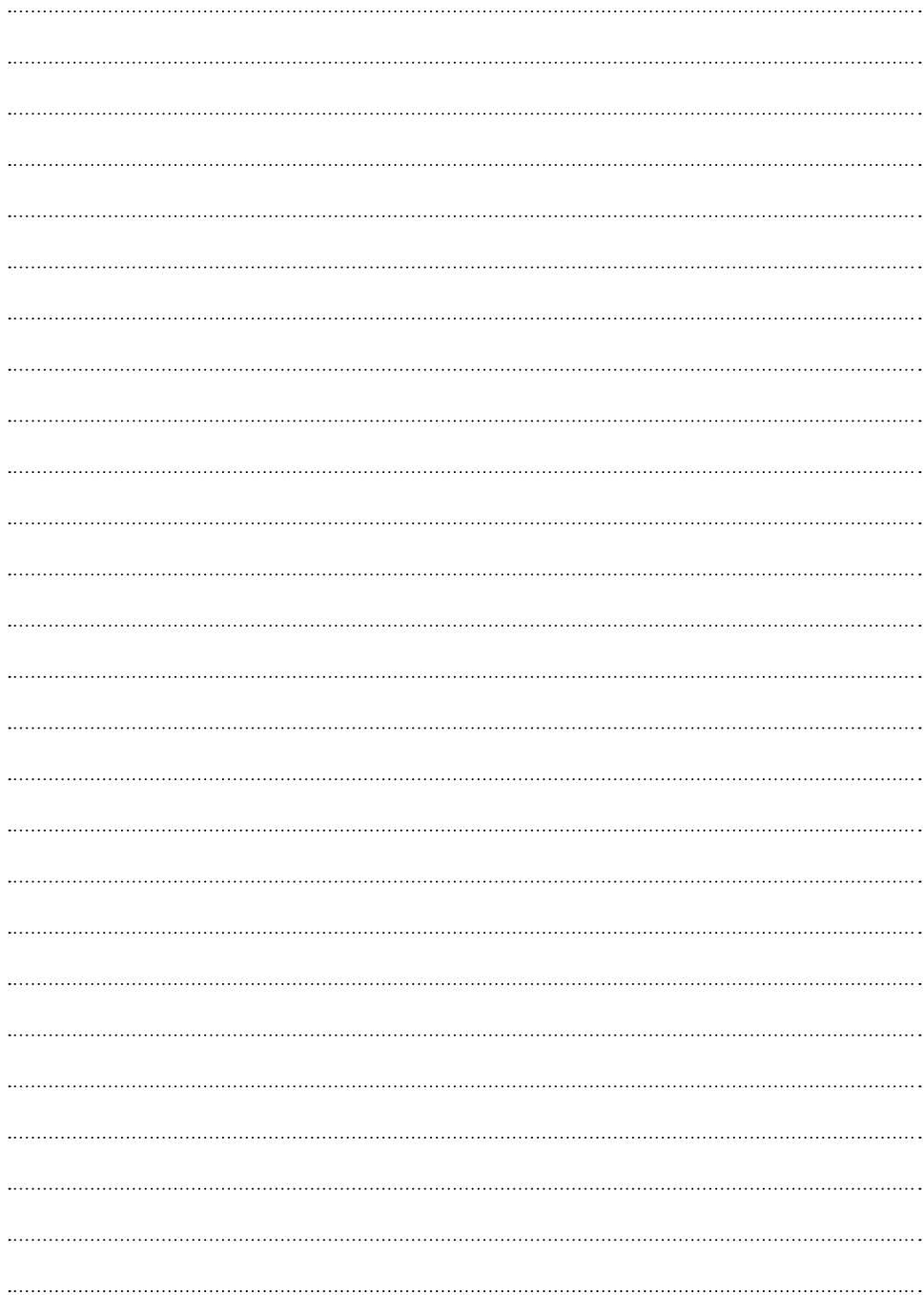


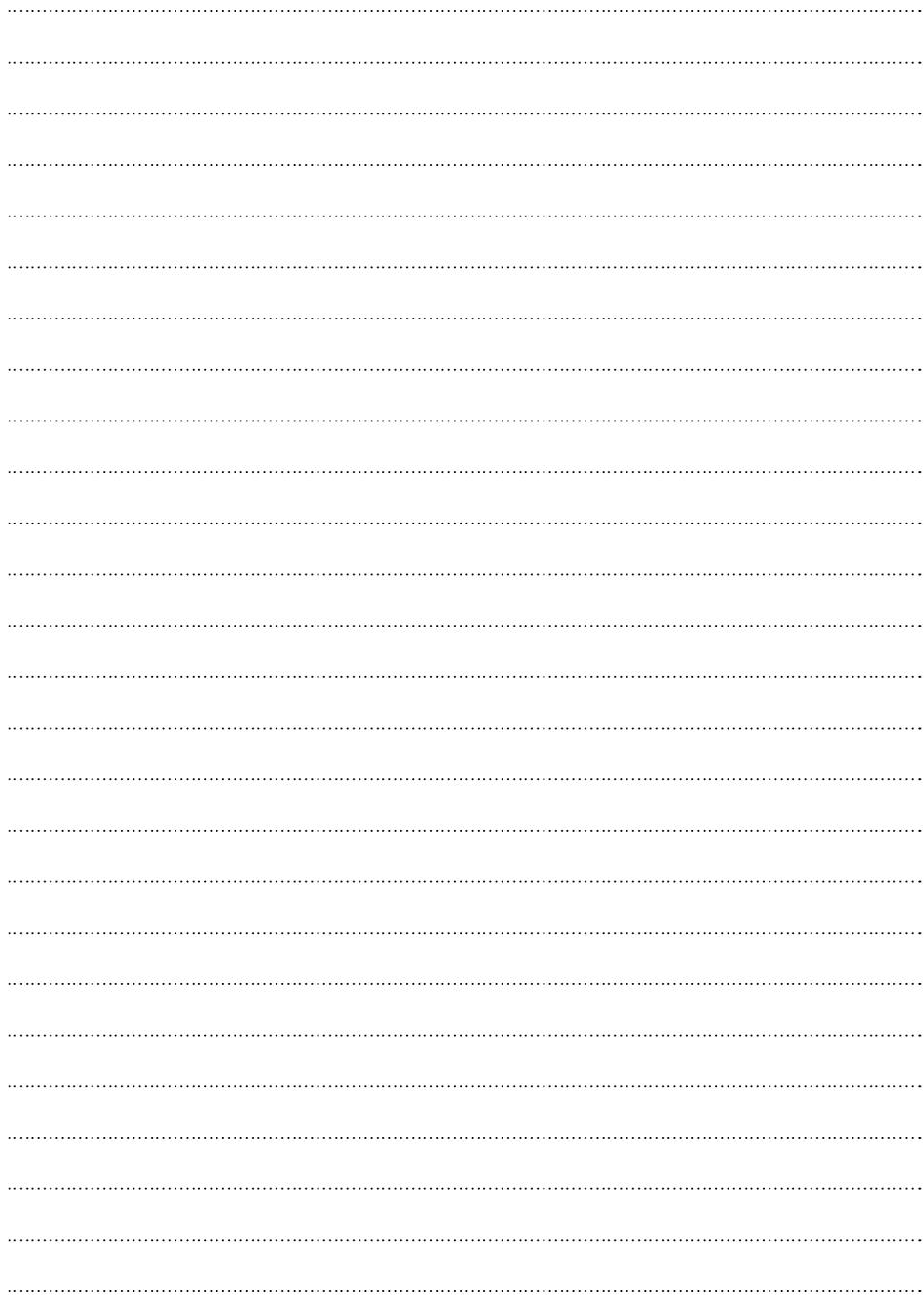


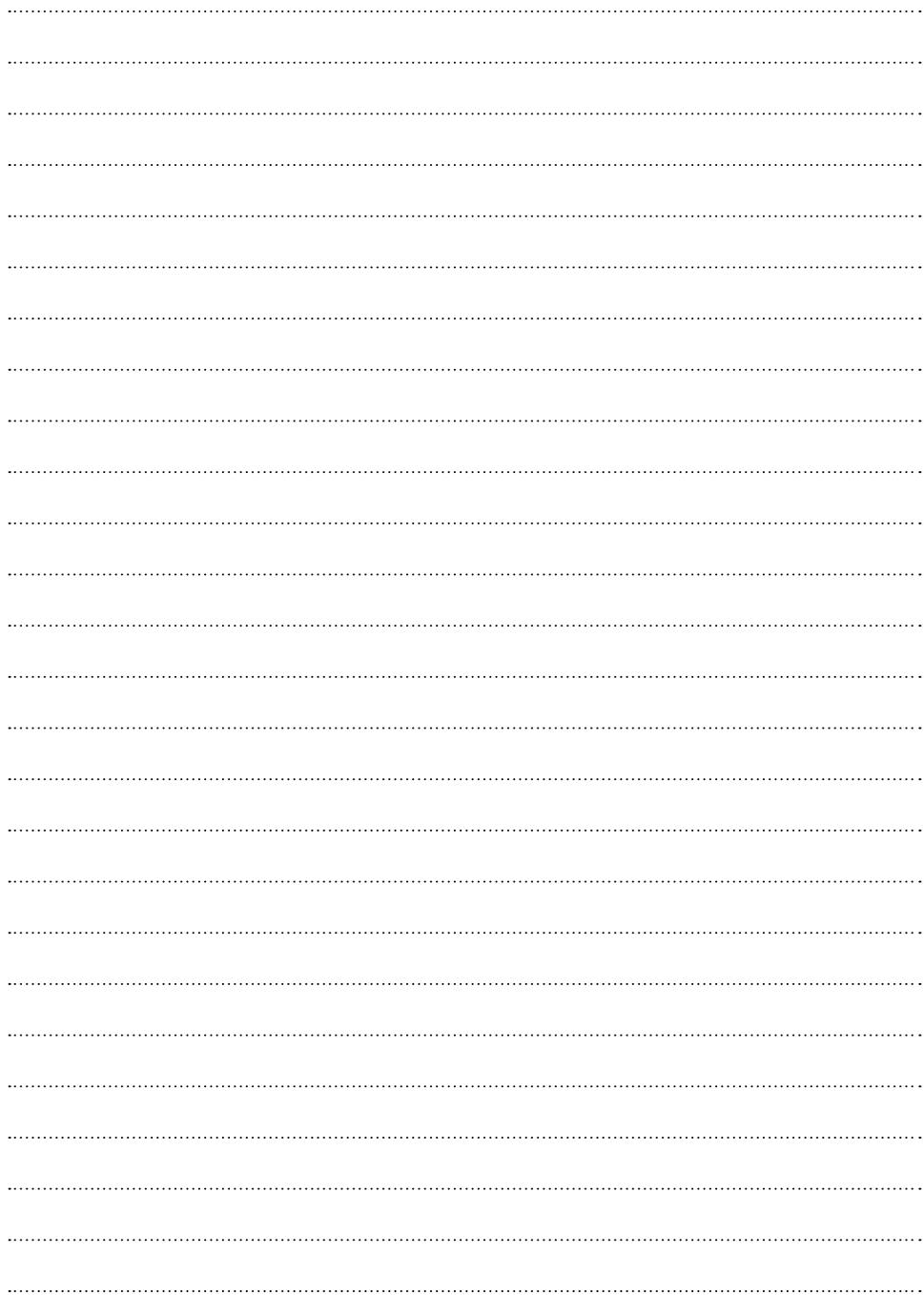


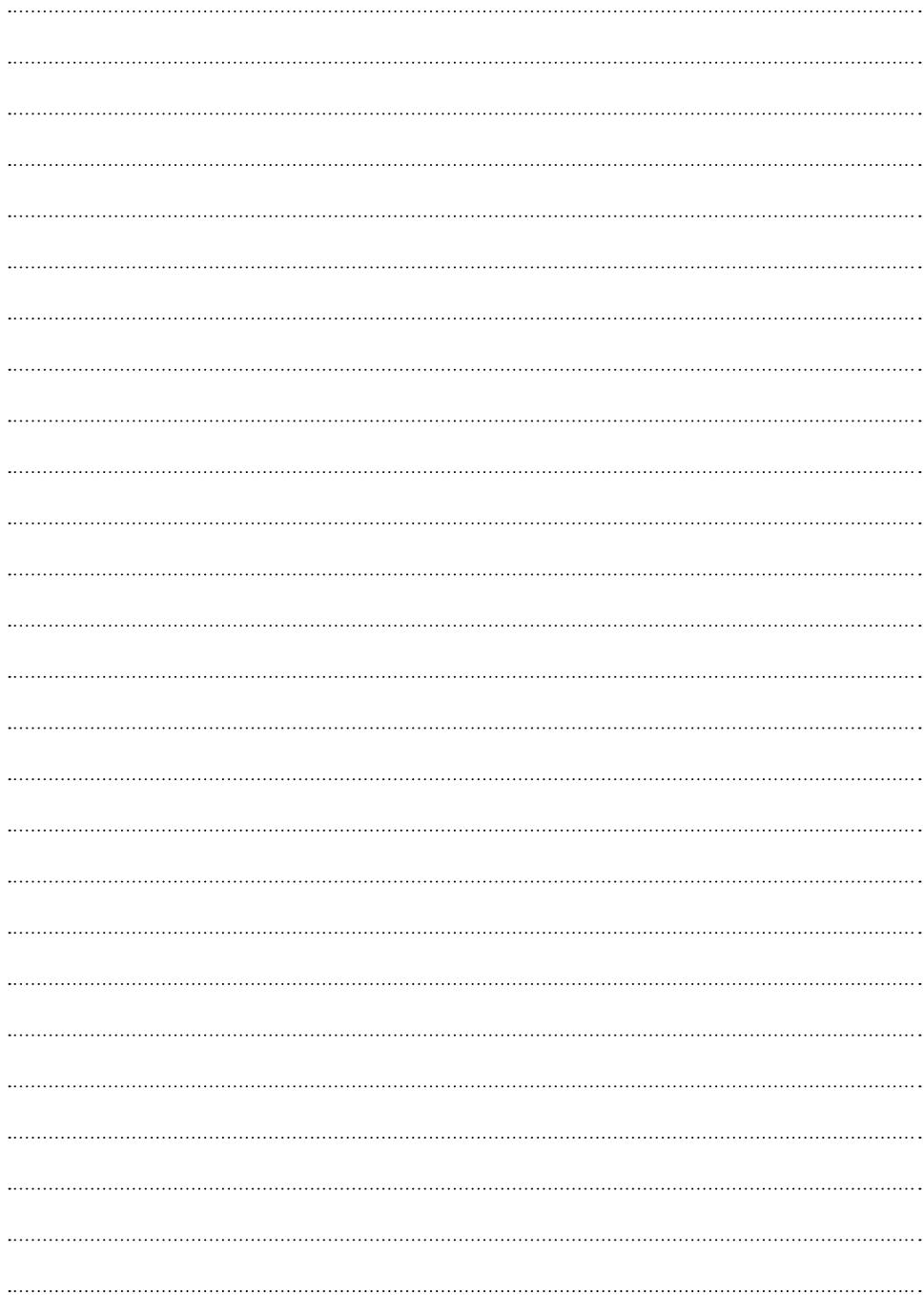


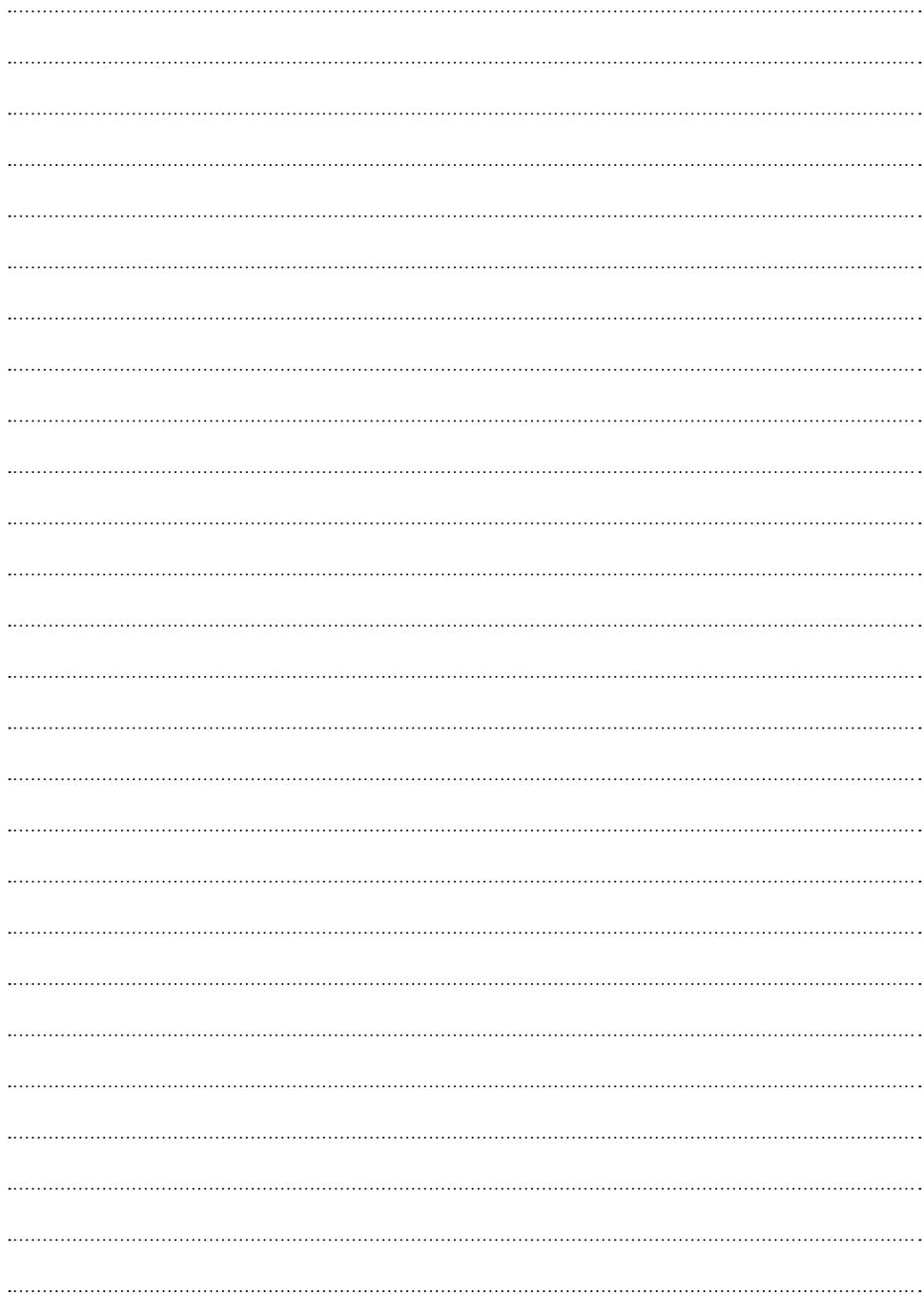


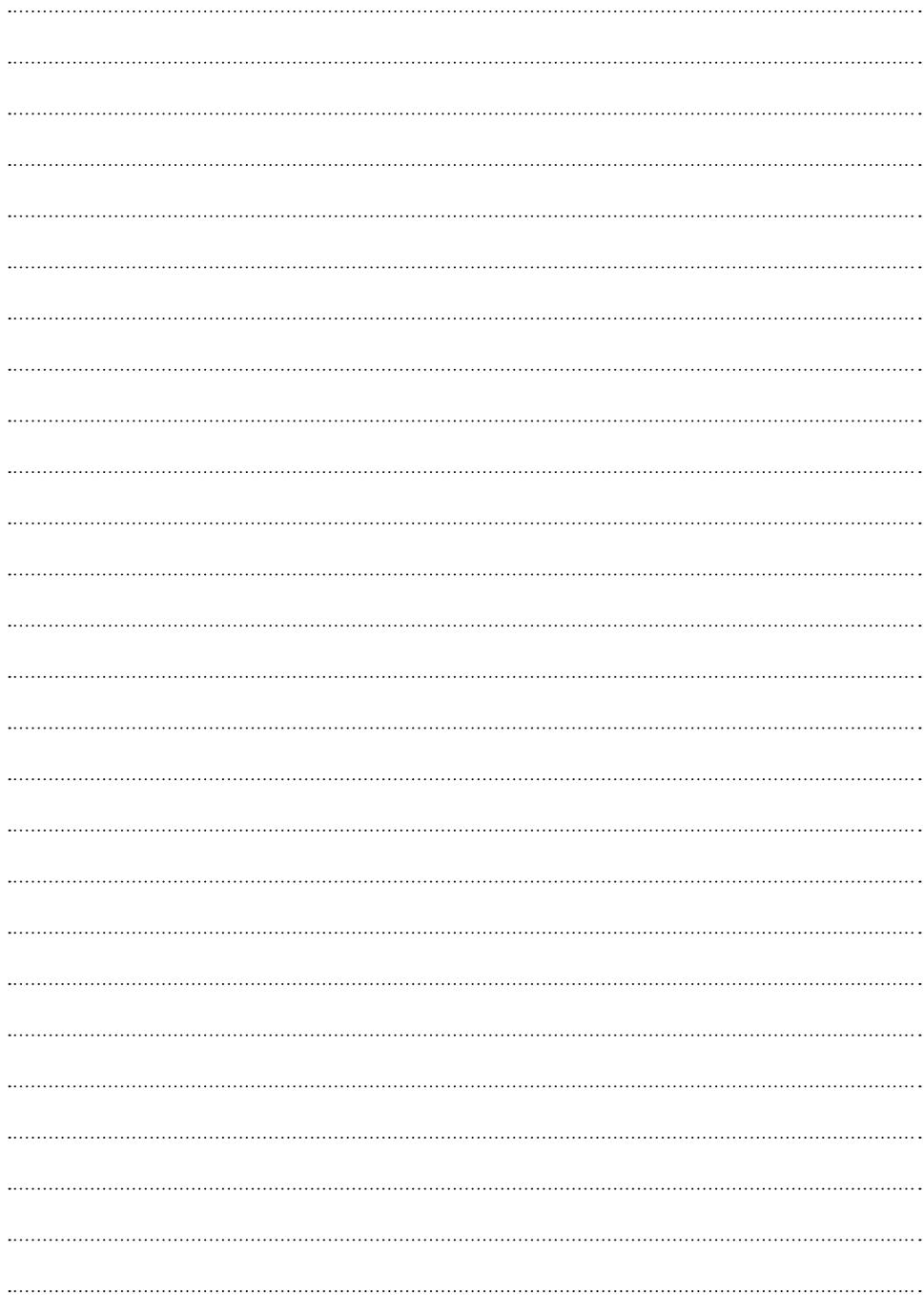


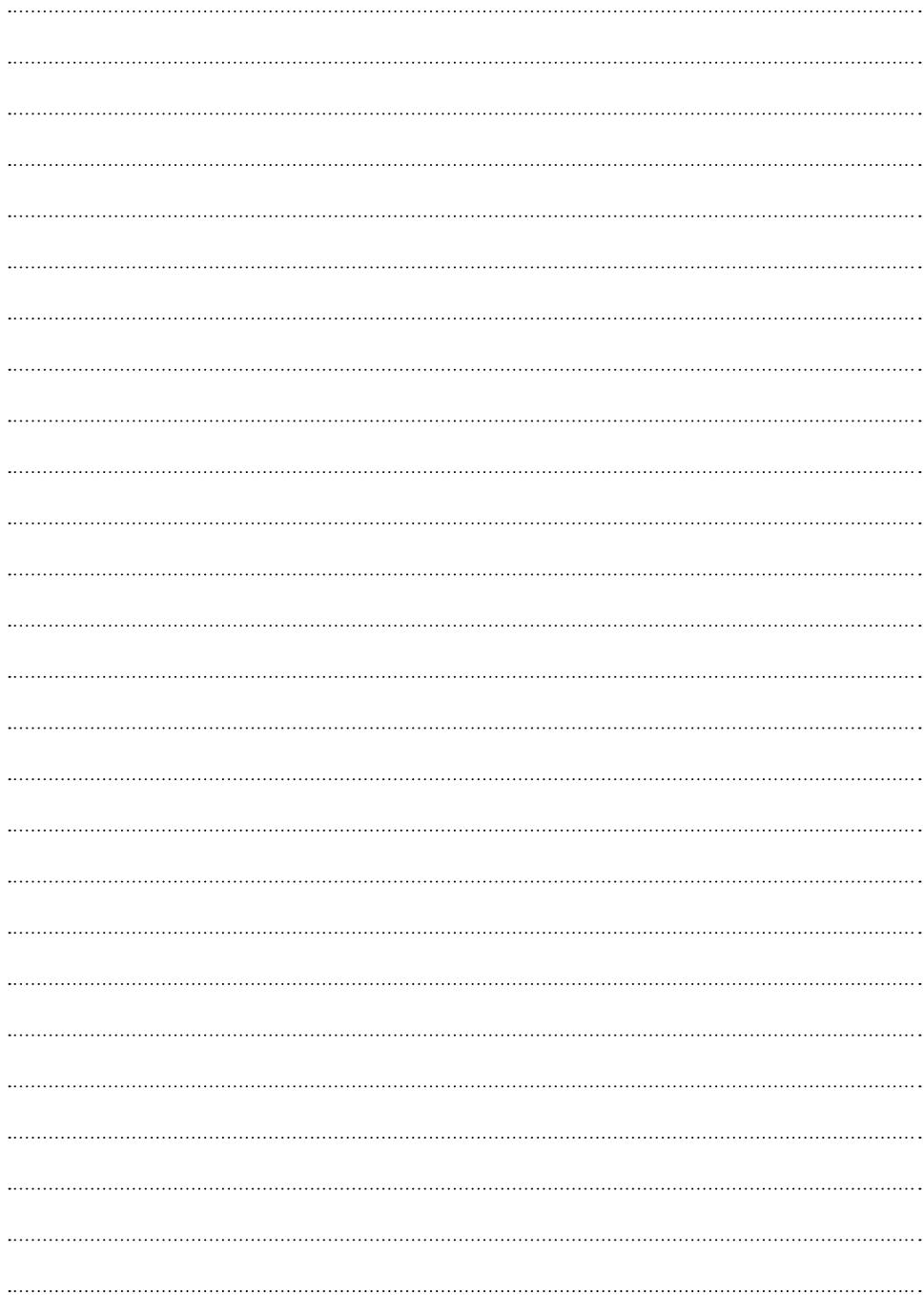












家 族

世 界 へ の 宣 言

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会ならびに十二使徒評議会

わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

います。「子供たちは神から賜^{たま}った嗣業^{しきょう}であり」（詩篇 127:3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のさずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則ののっとなって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要ときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

